

第18回
テクノロジー犯罪被害フォーラム

2026年5月10日（日）

日比谷図書文化館 地下1階 大ホール

主催：NPOテクノロジー犯罪被害ネットワーク

テクノロジー犯罪被害者・ 嫌がらせ犯罪被害者からの 提言と課題

集中攻撃を受けて初めてその存在を理解できるのがテクノロジー犯罪と嫌がらせ犯罪であり、両犯罪には最先端の軍事テクノロジーと諜報部員が使用する武器が使われている。

テクノロジー犯罪と嫌がらせ犯罪の 集中攻撃の有無

集中攻撃を撃を
受けた人

集中攻撃の有無

集中攻撃を
受けてない人

情報なし

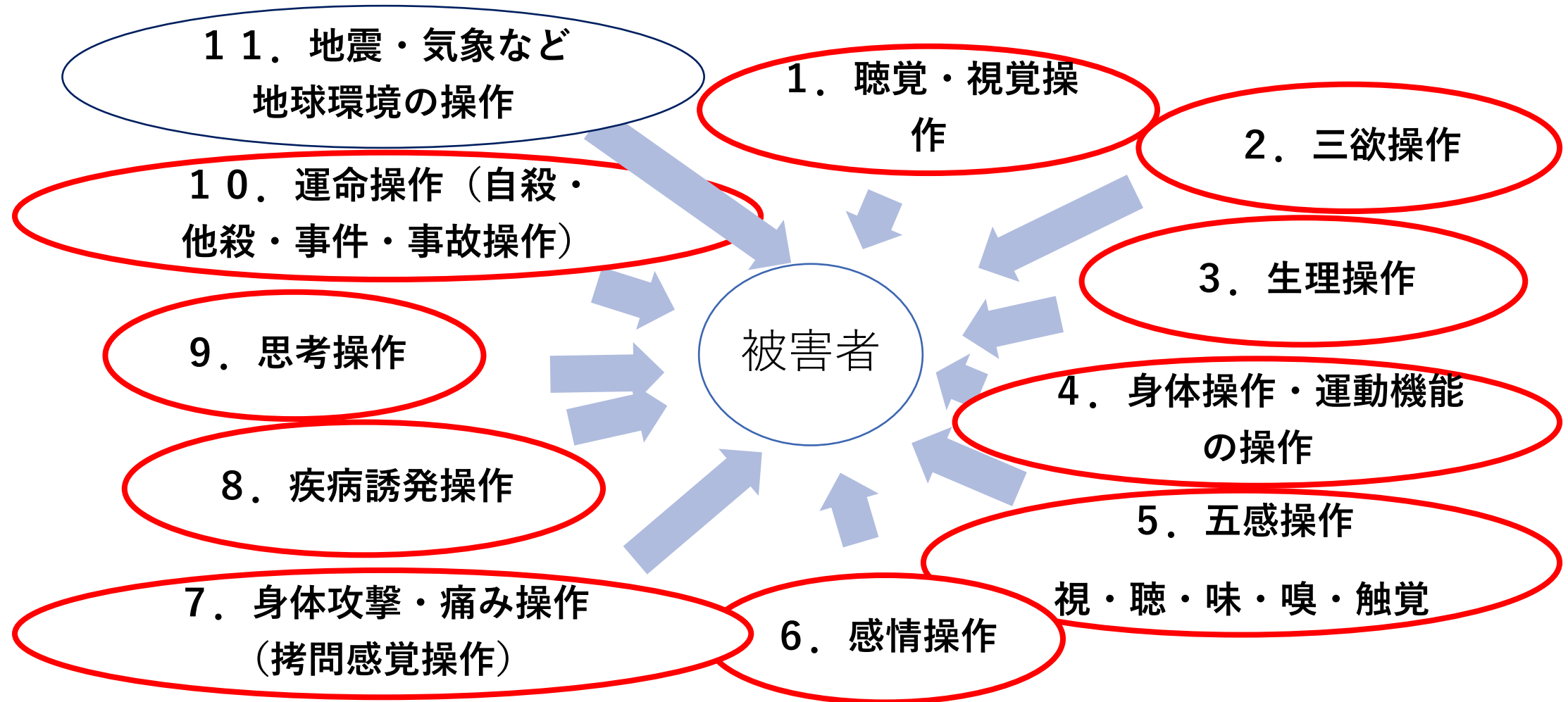
目視できない

被害者自身理解不可

一般人の無理解を
被害者自身理解

テクノロジー犯罪被害における各種操作

人間コントロール・テクノロジーの悪用



テクノロジー犯罪被害（対象人間）

人間のあらゆる機能操作：人間コントロールテクノロジー

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

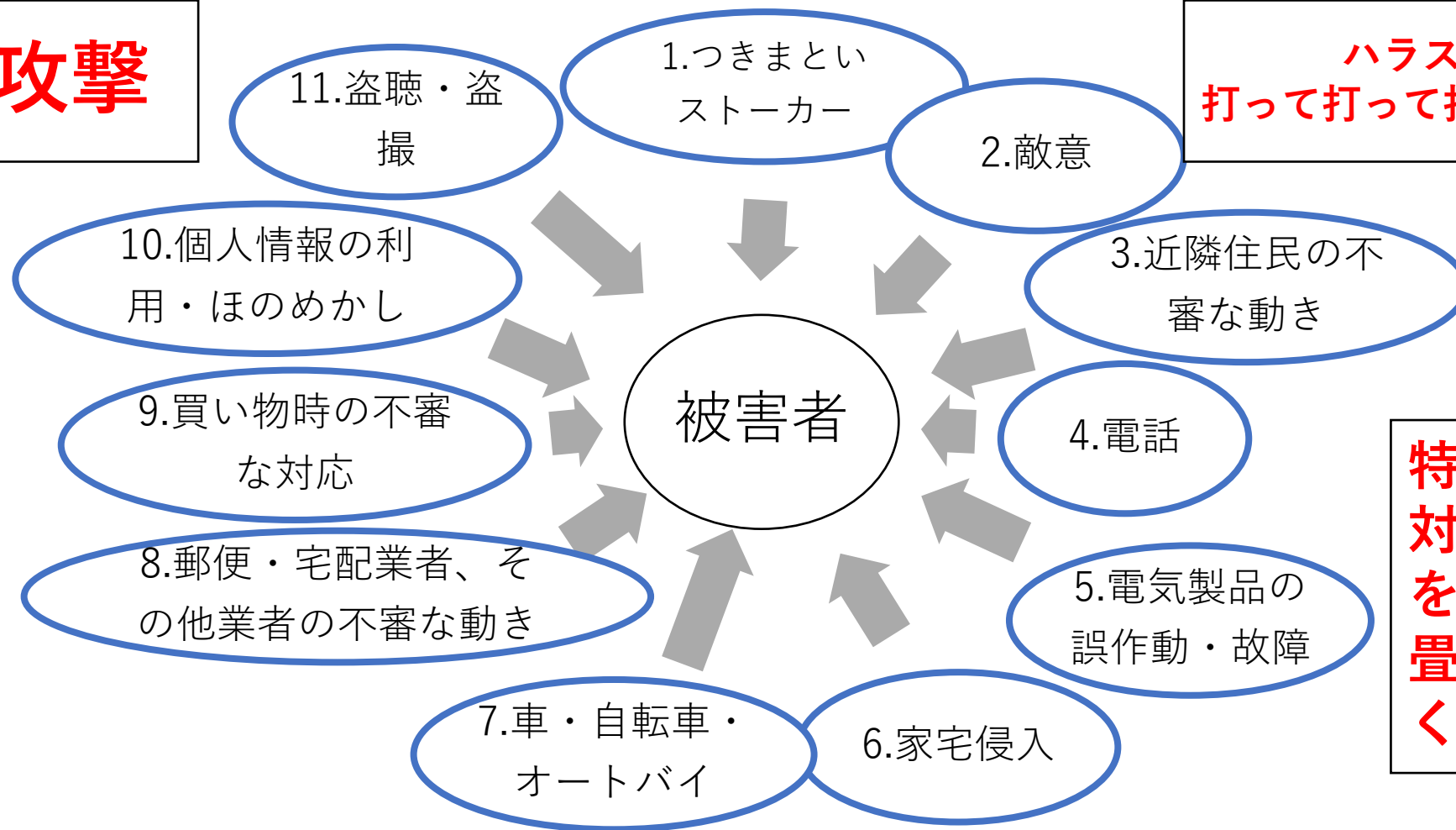
⑧思考操作
(介入・操作)

個人操作

大衆操作

代表的な嫌がらせ犯罪被害例

集中攻撃

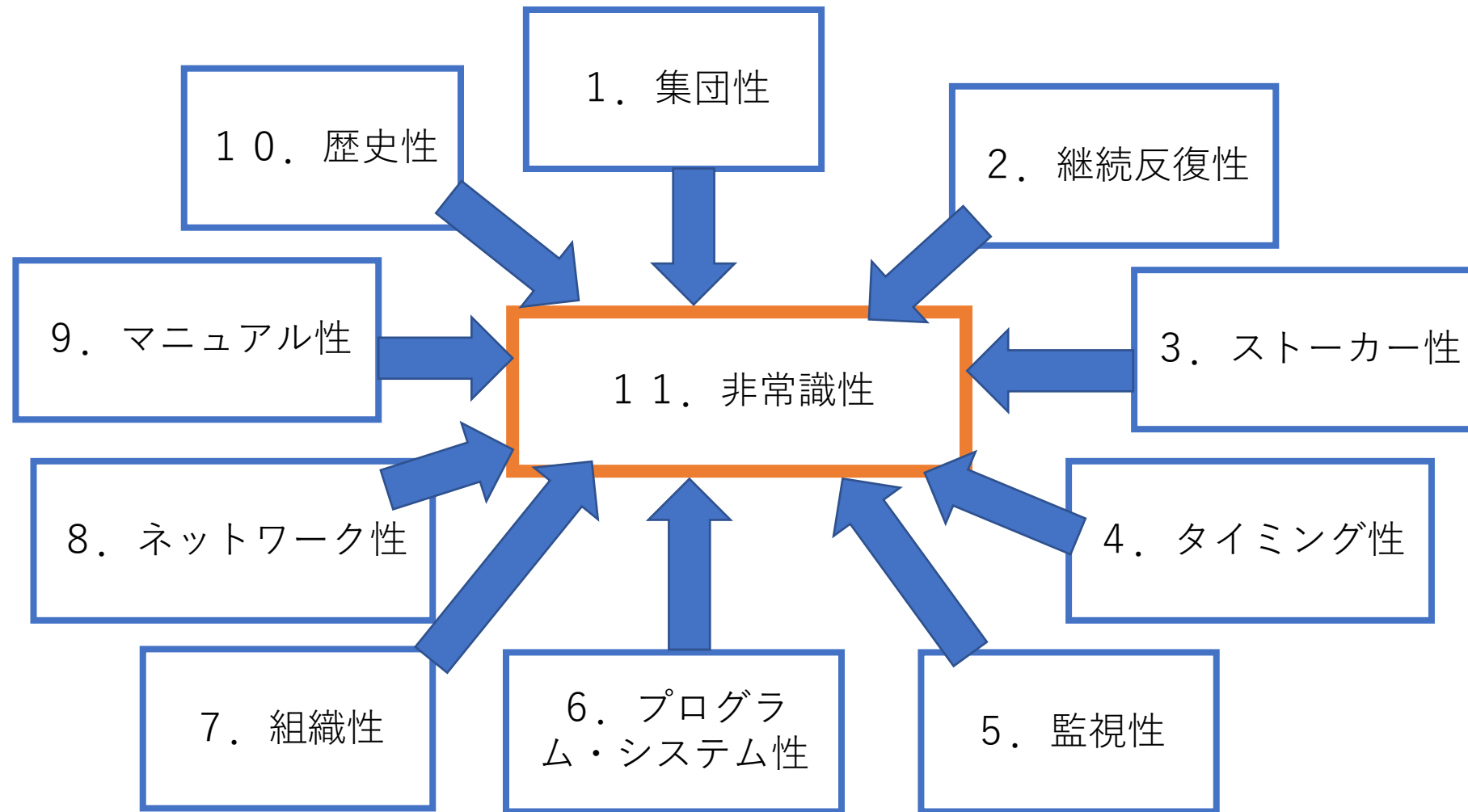


**ハラスメント
打って打って打ちまくること**

**特定個人に
対しこれら
を継続的に
畳み掛けて
くる**

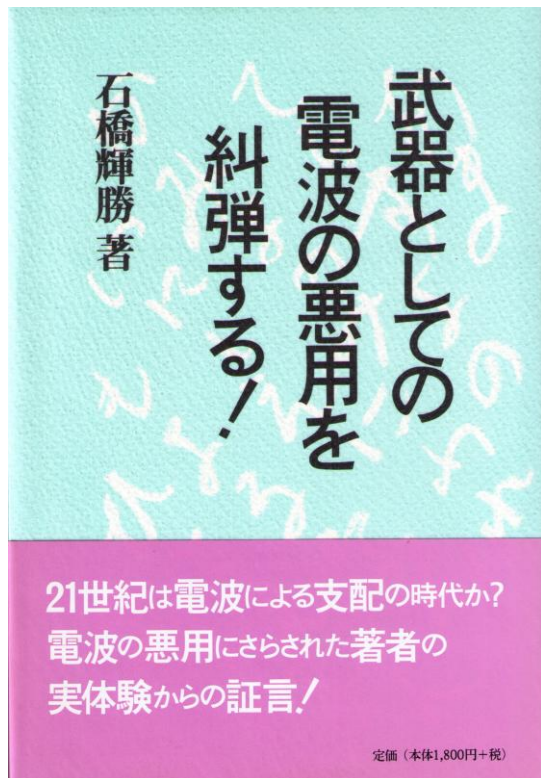
嫌がらせ犯罪は特殊な組織犯罪

11の特徴



『武器としての電波の悪用を糾弾する!』出版時の思い 表現する言葉がない!

1997年7月13日



なぜ
あなたが?

無辜の一般市民が対象に?

畜生

鬼

外来

テクノロジー犯罪
嫌がらせ犯罪

悪魔

全人類の敵

人へのし

高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・
テクノロジー

②サイバネティク
ス技術

③神経学的通信シ
ステム

④疾病・拷問状態
誘発兵器

⑤ブレインチップ
インプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵
器

⑧高度情報化時代
の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密の
プログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

① サベイランス・テクノロジー (監視技術) 悪用への対処

個人を特定し四六時中監視する監視技術
悪用への対処

軍事テクノロジーで最も重要な情報収集技術

国家の最高の頭脳投入

スパイ
活動

軍事衛星

映像
ビルの中
盗聴・盗撮

指導者の考え
を読む

指導者を思い
のまま動かす

監視の状態化（24時間365日） サベイランス・テクノロジーの稼働

移動する人間を絶えず捉えて監視し続ける技術

諜報活動での
サベイランス

軍事的サベイ
ランス

ストーカー

テレメトリー

トラッキング

元CIA・イスラエルモサド秘密諜報部員 カール・クラーク氏

Secret Surveillance and
Electromagnetic Torture
by the Secret Services



レーダーによる追跡

(元諜報部員：カール・クラーク氏証言)

ターゲットはレーダー、衛星、基地局、無料のコンピュータープログラムで、どこに居ても追跡できます。ターゲットの近くに3台のレーダー装置が配備されることもありました。このレーダーからマイクロ波が発信され、その一部がターゲットを捕捉し、結果が評価されます。特殊部門に所属していた私の同僚は、コンピューターでターゲットを終日追跡することができました。

ミサイル迎撃用レーダーシステムの人間への応用

レーダー追跡とマイクロ波兵器による攻撃 (元諜報部員：カール・クラーク氏証言)

このような形でターゲットの位置を特定することにより、マイクロ波兵器を簡単に正確に配備することができたのです。同僚は標的を正確に把握し、ターゲットがどのように反応するかを観察できました。

嫌がらせ犯罪は工作人員活動としてある可能性？

日本はスパイ天国と言われている国

工作人員組織網の存在とその調査
工作人員対策法の必要性！

監視の状態化（24時間365日） サベイルانس・テクノロジーの稼働

移動する人間を絶えず捉えて監視し続ける技術

諜報活動での
サベイルانس

軍事的サベイ
ランス

ストーカー

テレメトリー

トラッキング

軍事テクノロジーで最も重要な情報収集技術

国家の最高の頭脳投入

スパイ
活動

軍事衛星

映像
ビルの中
盗聴・盗撮

指導者の考え
を読む

指導者を思い
のまま動かす

第14回フォーラム

どのような監視体制下にあるのか：軍事的監視の場合

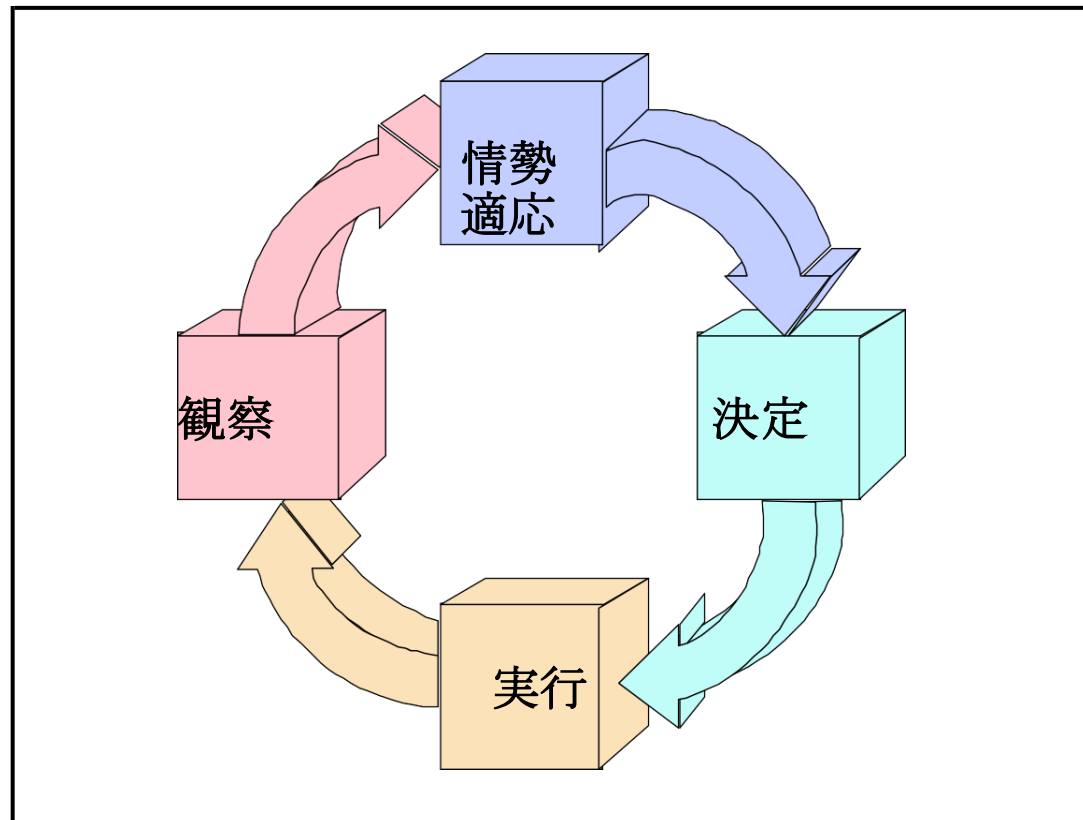
米空軍資料『情報作戦：新たな戦闘能力』

2025年に米国が支配的な空軍及び宇宙軍であるために

米国空軍2025年までに

到達すべき目標提案（1996年）

OODAループ

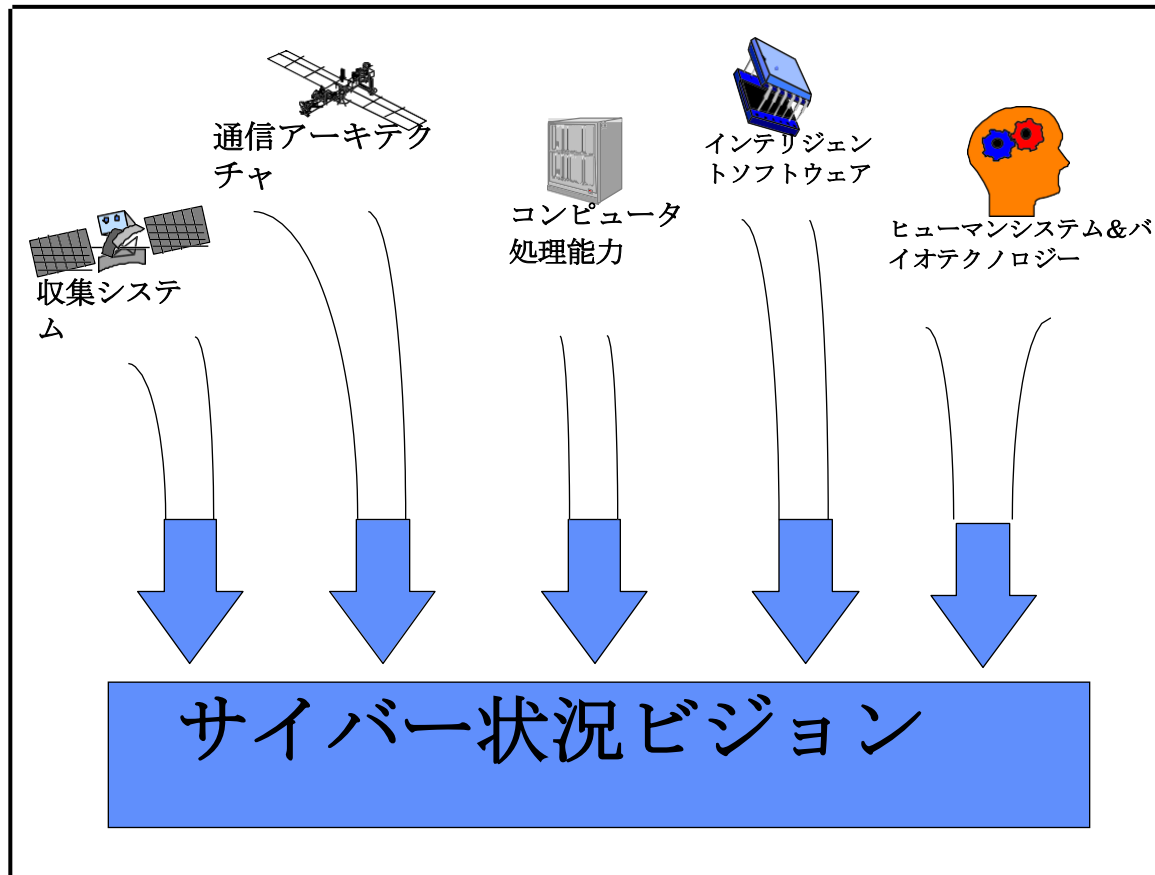


OODAループの刷新

(指導者⇔OODA+モメンタムコントロール)

- 1.Observe（観察）
- 2.Orient（情勢判断）
- 3.Decide（決定）
- 4.Act（実行）

OODAループ統合のため必要な技術



1. 収集プラットフォーム
2. 通信アーキテクチャ
3. コンピューター処理能力
4. インテリジェントソフトウェア
5. ヒューマンシステムとバイオテクノロジー

1. 収集プラットフォーム（基盤）

詳細な世界的認識提供・意思決定者に状況の全体像提供



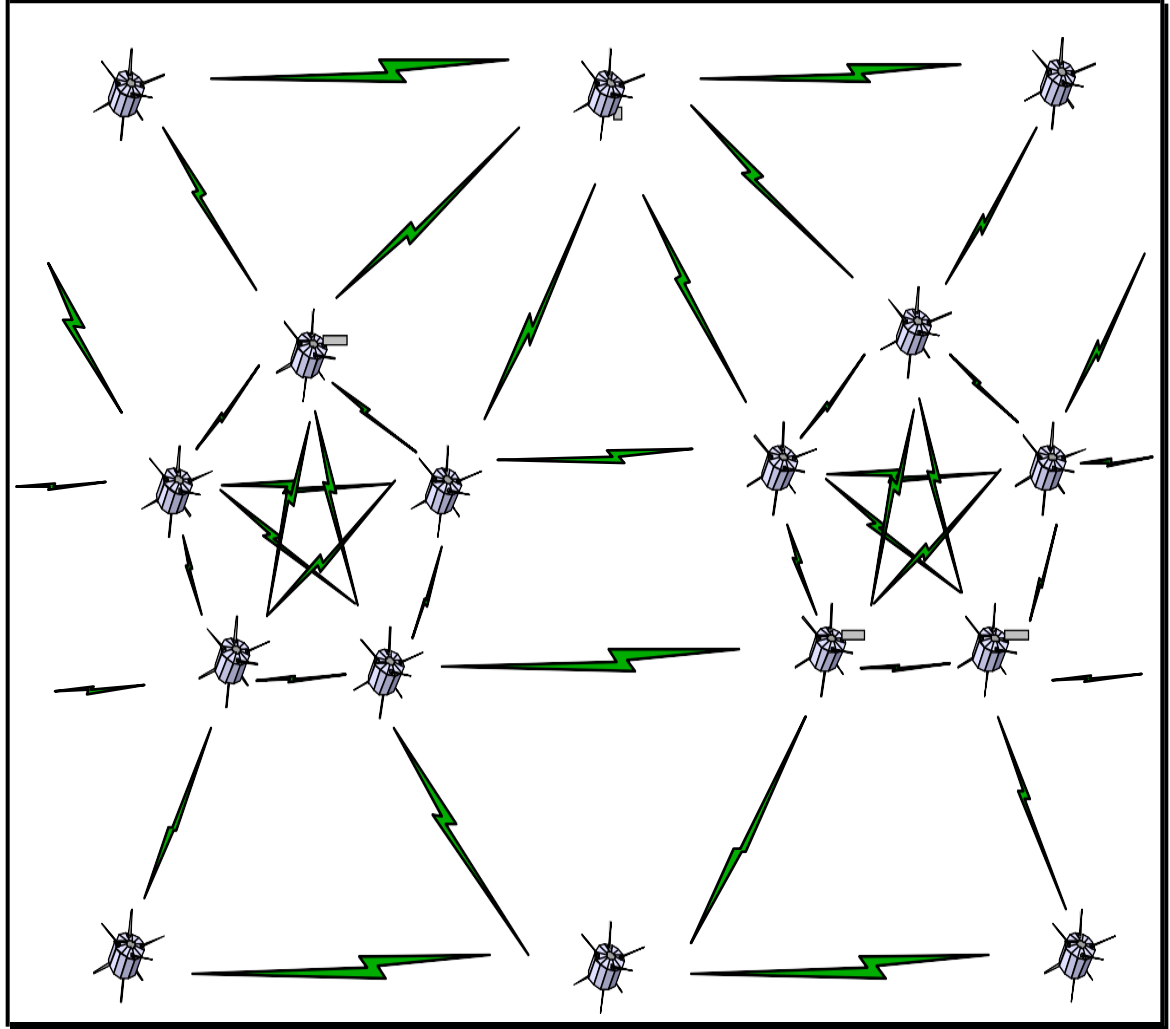
軍事衛星

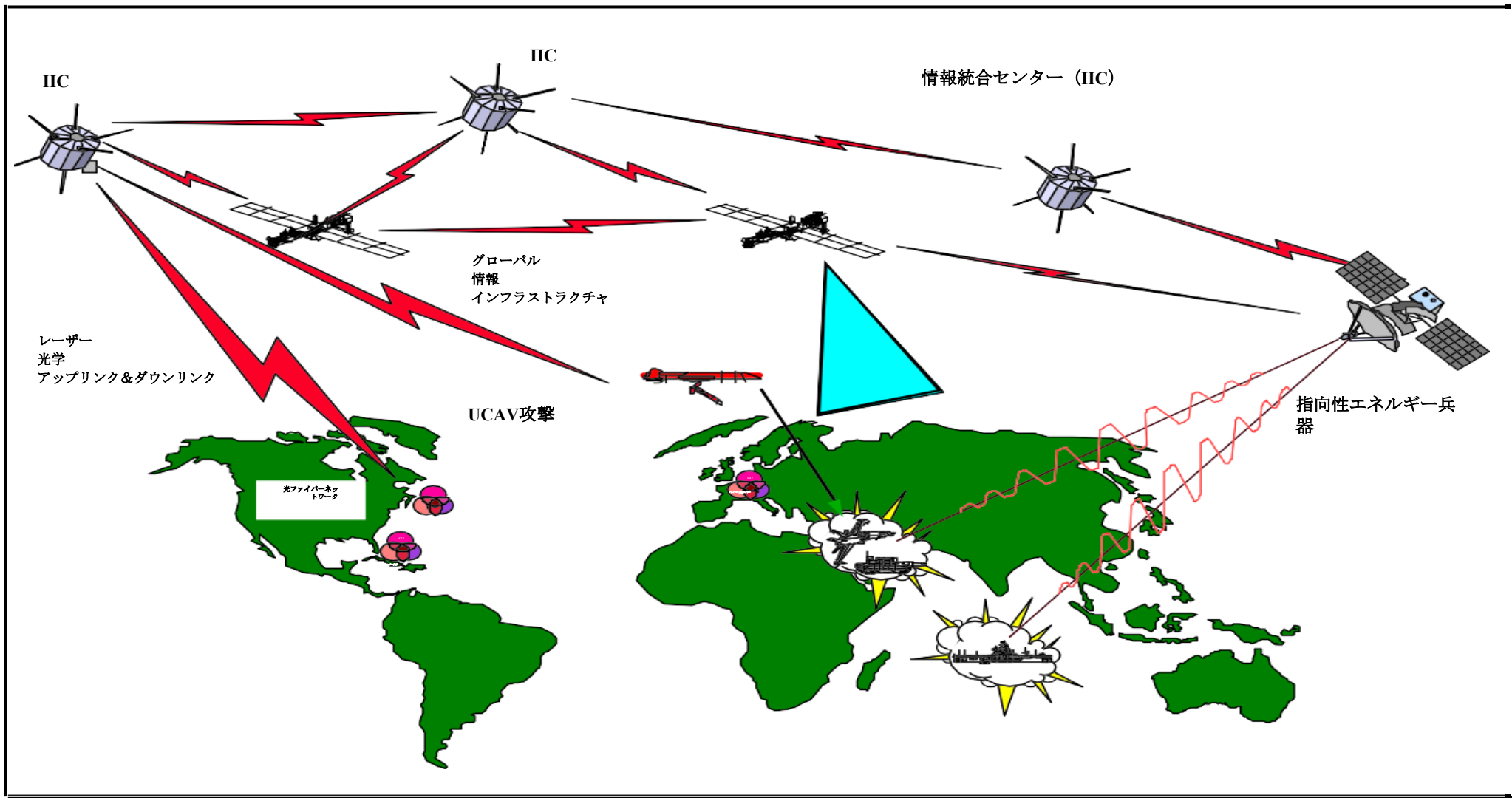
放送衛星

小型衛星群

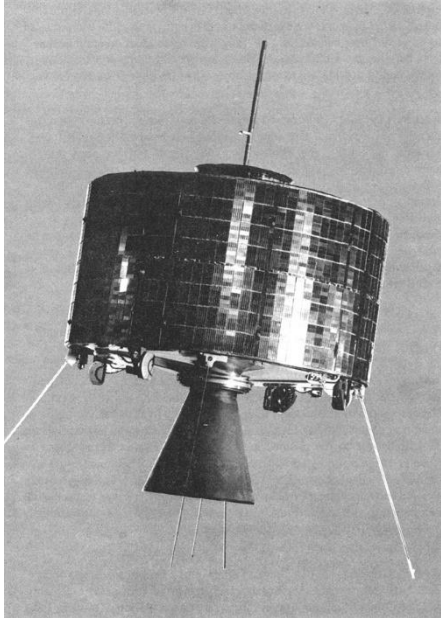
無人偵察機

- 従来の軍事衛星・放送衛星に加えて、小型衛星群、無人偵察機の利用さらに詳細な情報収集
- 画像、インテリジェンス信号、気象データ、航空機レーダー、携帯・通信機器の傍受、転送中データ等上限なし
- 各衛星で収集した生情報を情報統合センターに送信
(Information Integrate Center)





2. 通信アーキテクチャ（基本設計）



- 通信の優位性の確立：大容量、安全性、正確性、信頼性、堅牢性、利用しやすさ必須
- 収集プラットフォームから大量のデータを移動させるため通信衛星重要
- 取得データ保存、送信、展開におけるセキュリティ確立

3. コンピュータ処理能力

- 大容量で強力：スーパーコンピュータ、量子コンピュータ
- 小型強力化：無限の容量・無限の計算能力・衛星搭載できる大きさ
- 収集データ統合、情勢適応、意思決定のため提示



4. インテリジェントソフトウェア

- 異なるタイプの情報源を統合及び相互に関連付けて意思決定支援
- 情勢適応・決定機能強化

全てのインテリジェントシステムにある5つの活動

- ①世界認知
- ②現在の知識にない認識の解釈
- ③現在の自身による世界モデルでの計画策定
- ④目標達成のため実行
- ⑤他のエージェントと認識共有し、協働

情報収集ソフトウェア の中心的技術

画像理解

人工視覚
システム

情報の統合

複数の情報源か
ら有用な情報をAI
を用いて処理・
編集・抽象化

計画・意思決定
支援

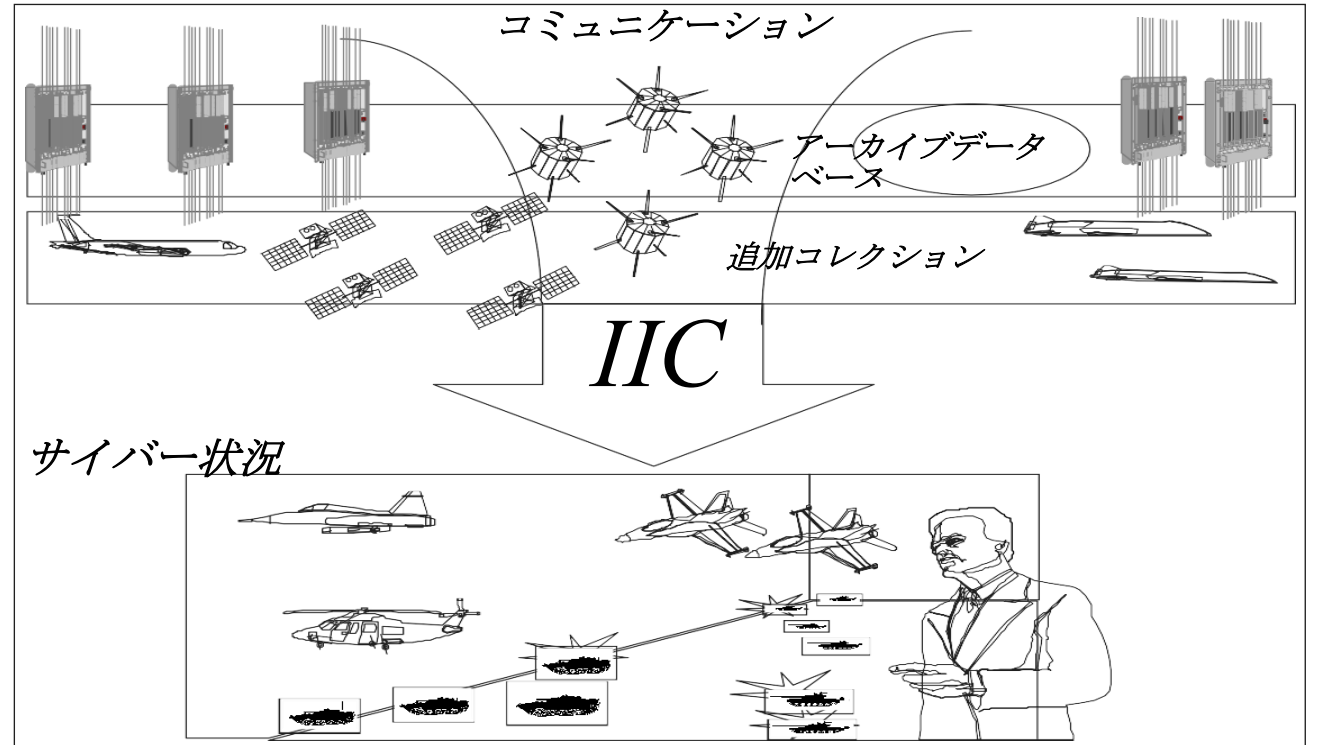
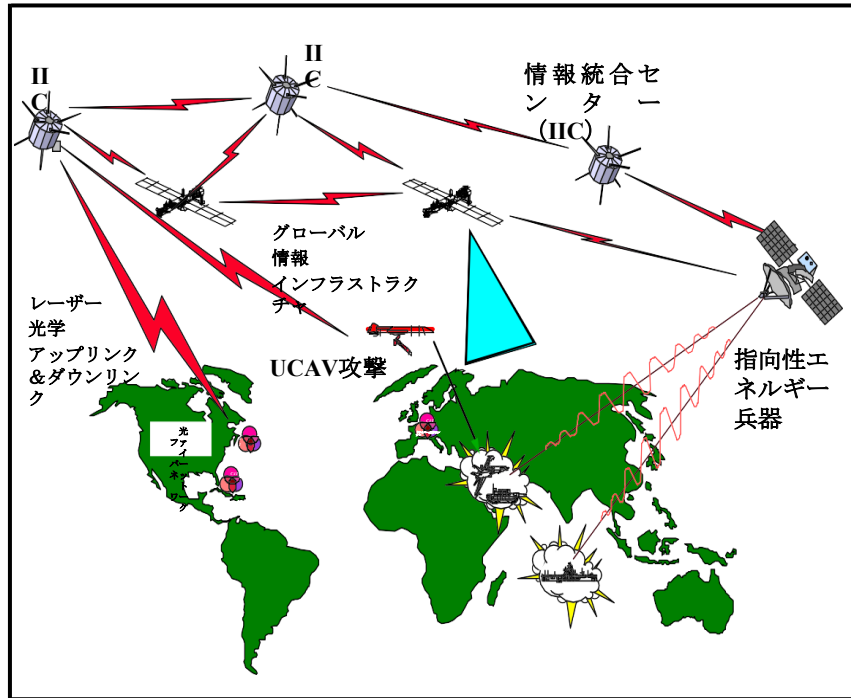
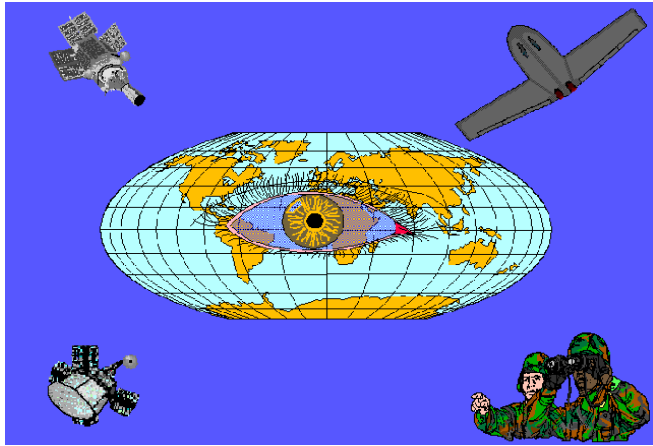
計画・スケ
ジュール生成分
析する推論支援
手法提供

人間とコン
ピュータの接続

BCI

5. ヒューマンシステムとバイオテクノロジー 人間とコンピュータのインターフェイスがシームレスに

- 脳へ出入りする情報把握：情報がどのように脳に入り、どのように処理されるかの理解
BCIの基盤形成
- 脳内の基本的インパルス発生源を図示し、そこからニューロンネットワークの作動を正確に特定し、どのようなアクションに完結するか決定
- ブレインイニシアティブ計画
- 衛星情報統合センター（IIC）に接続したインプラント用マイクロスコピックチップの使用で、ユーザーは、コンピュータで生成された目的の戦闘空間の心理的仮想現実を引き出す。
- 自分の意思で、外部から、死によって消滅するブレインチップ

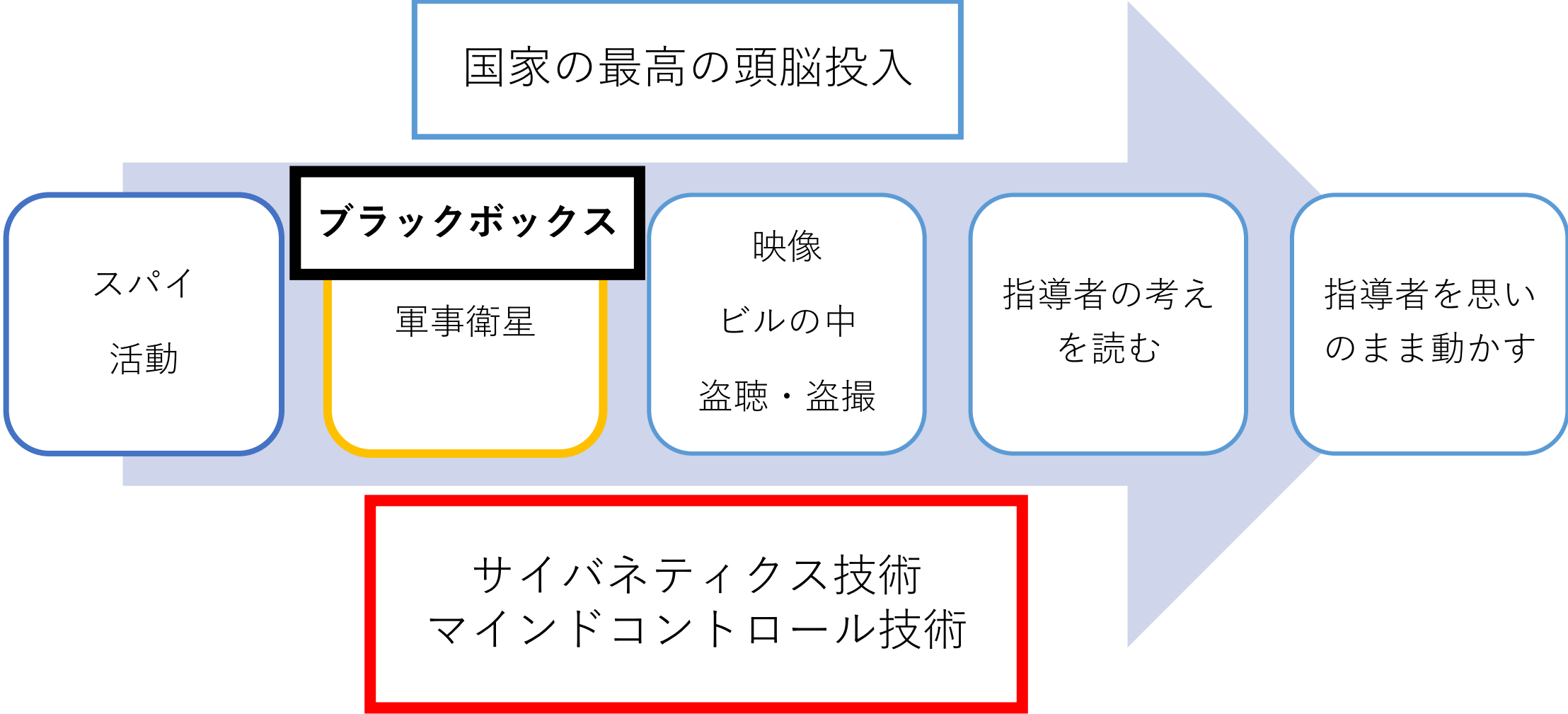


サイバー状況ビジョン

1996年時点で
ブレインチップを除いて開発済み

自分の意思で、外部から、死によって消滅するブレインチップ

軍事テクノロジーで最も重要な情報収集技術



『衛星サベイランスの衝撃的な脅威』

ジョン・フレミング 2001年7月14日 プラウダ記事

偵察衛星の能力

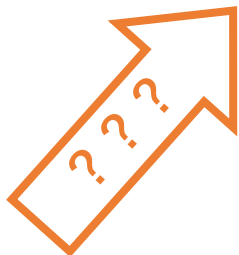
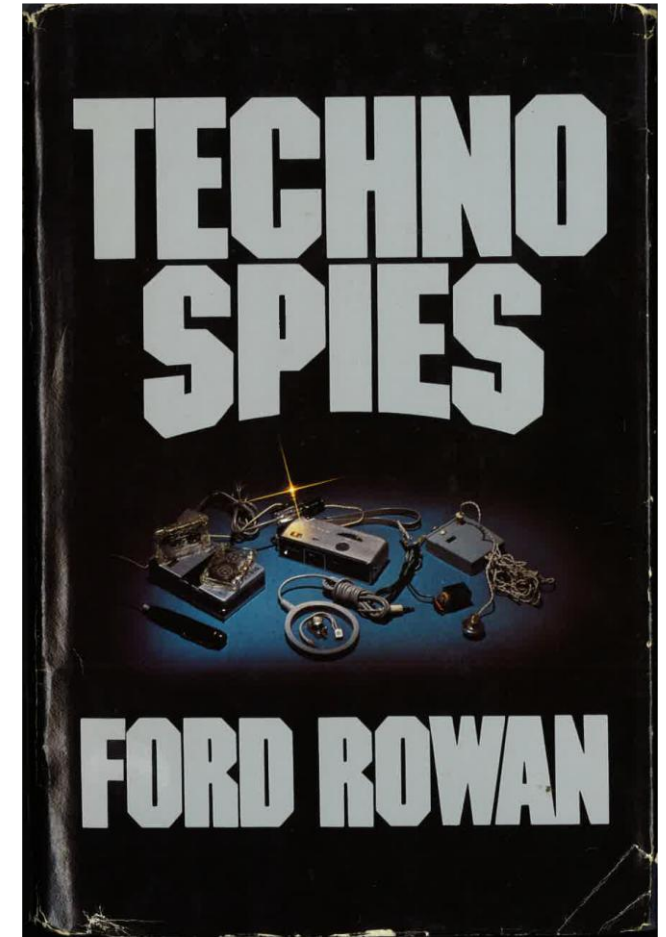
- 屋内でも、建物の奥深くでも監視可
- 車で高速で走っていても監視可
- いかなる天候（曇り、雨、嵐）でも監視可
- 地球上に隠れる場所がないほど監視可
- 3機の衛星で全世界の探知可
- 人々の全ての活動を追跡
- 追跡データをディスプレイ表示可
- 人間の心の読み取り可
- 会話の監視可
- 電化製品の操作可
- レーザー・ビームで攻撃可

偵察衛星は監視だけではない！



『衛星サベイランスの衝撃的な脅威』 ジョン・フレミング 2001年7月14日 プラウダ記事

- 偵察衛星は一 放送用、調査用の衛星とは異なり 一 ほとんど一般人には使用されず、敵または犯罪者を監視するために使用される。
- 『テクノ・スパイ (1978年刊)』の著者、フォード・ローワンは、宇宙からの物体の走査に関し、米軍の衛星は地上の熱トラック、飛行機、ミサイル、乗用車から出る熱を検出する赤外線センサーを装備している。
- そのセンサーは曇った日にも雲の下に浸入し、TVスクリーンに熱の放出を再現させることができる。
- 上空の赤外線センサーはヴェトナム戦争の間、地上を歩いている敵の兵士の一人一人を検出するためにテストされた。
- ジョン・フレミング見解：1970年を衛星による監視の始まった最初の年、人間のプライバシーの可能性が失われた年と考える。



1963年衛星放送の開始？

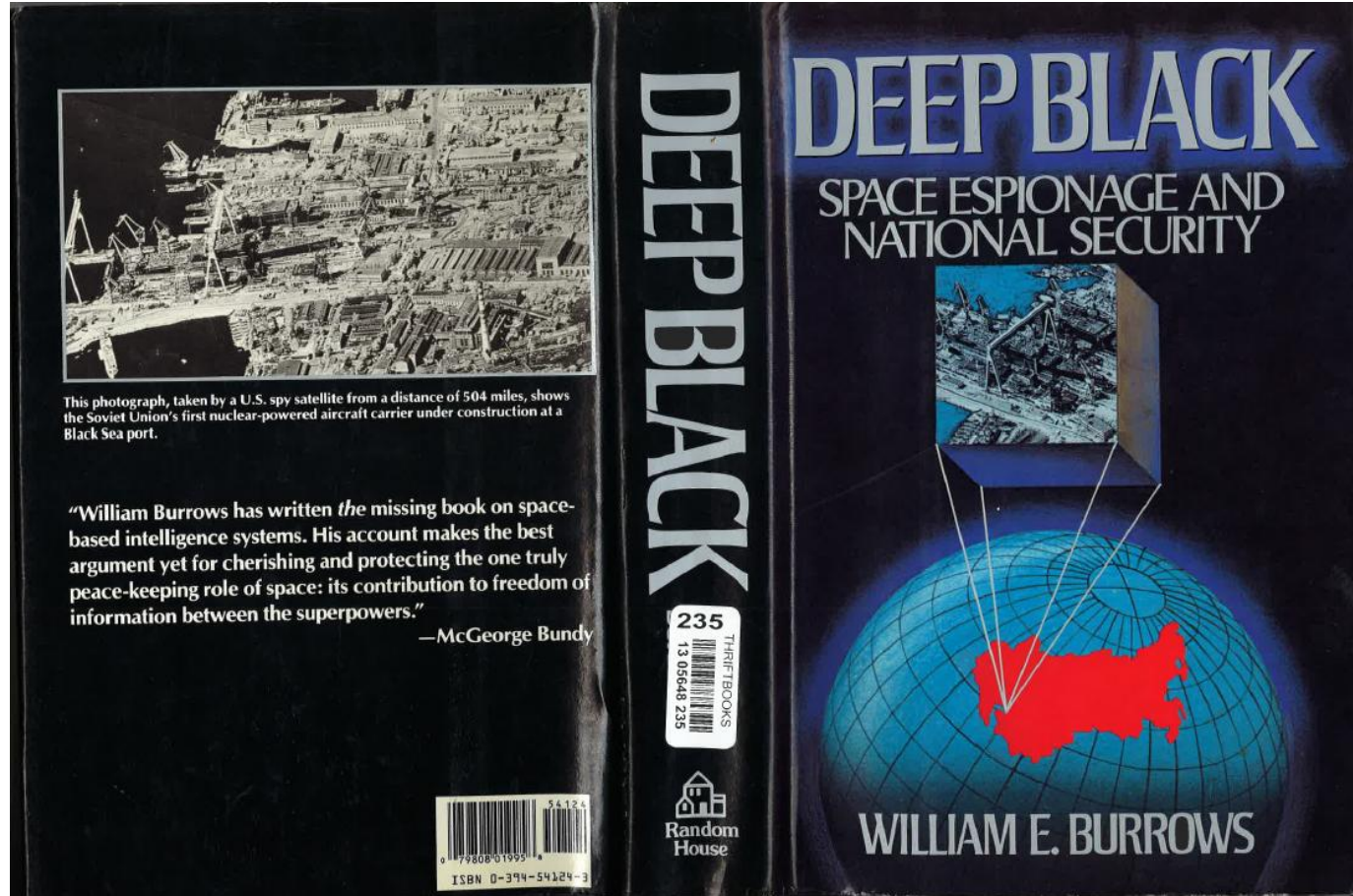
ケネディ暗殺との関係は？

衛星サーベイランスの衝撃的な脅威

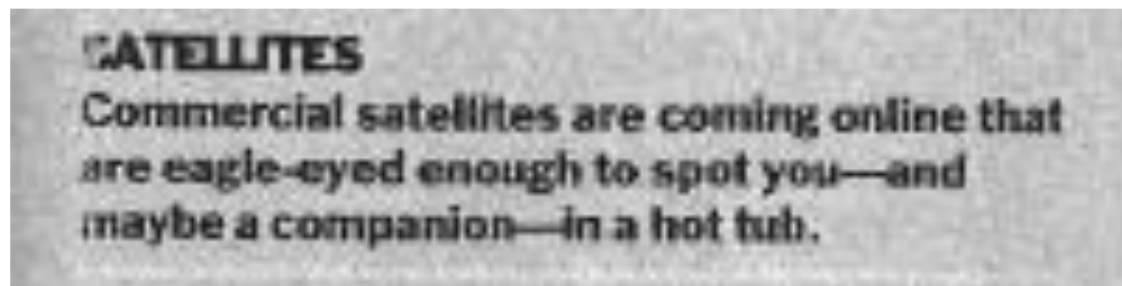
プラウダ記事 2001年7月14日 ジョン・フレミング

- 『Deep Black』の著者ウィリアム・バローズによれば、「人工衛星を使用すればクレムリン内部の奥深くで話されている会話を盗み聞きすることができる。壁、天井、床は宇宙からの会話のモニタリングに対する障壁とはならない。たとえあなたが高層ビルの中にいてあなたの上に10階、あなたの下に10階があったとしても衛星の持つあなたの会話を記録するための音声監視機能が妨害されることはない。屋内であろうと屋外であろうといかなる気象条件のもとにであろうと地球上のどこにしようとしてもそれが何時であろうとも衛星は静止軌道上からターゲットの会話を捕捉することができる。」
- 一般的な偵察と同様、分厚い鉛でシールドされた建物の深くに逃げ込めば音声の監視からは逃れられる。

『Deep Black』 ウィリアム・ブローズ著



商業衛星でお風呂の中でも監視



1997年8月25日 TIME 記事

- Commercial satellites are coming online that are eagle-eyed enough to spot you-and maybe a companion-in a hot tub.
- 商業衛星はあなた—それからもしかしたらあなたの伴侶—が入浴しているところを捉えることができる。

レーガン大統領時代スター・ウォーズ計画の遺産

ジョン・フレミング『衛星サベイランスの衝撃的な脅威』

プラウダ記事 2001年7月14日

1983年3月23日
演説



監視衛星ネットワークの研究

マインド・リーディング

部屋の中の個人を攻撃できるレーザー技術

金持ちと権力者だけが誰かを衛星監視できる。中流・それ以下の人々は監視が何時始まったのかを知ることすらできない。？

ラウニ・キルデ博士証言



- フィンランド人医師、同国医師会委員、6か国語に精通。
- ラップランド最高医務責任者、同安全保障理事会委員、同赤十字委員会委員
- テクノロジー犯罪と嫌がらせ犯罪の被害者でこの問題の世界的研究者
- 2015年2月8日逝去

サベイランステクノロジー（監視技術）

ラウニ・キルデ博士証言

スーパーコンピューター＋人工衛星

米国

イスラエル

同時に数百万人監視可＋ α

大量監視

マイクロチップとスーパーコンピューター による全人類監視

ラウニ・キルデ博士証言

- マイクロチップ（もしくは、マイクロチップを使わない最新の技術）と人工衛星を介して、私たちの脳機能を米国やイスラエルのコンピュータに接続する今日のスーパーテクノロジーは、人間性への重大な脅威となっている。
- 最新のスーパーコンピューターは非常に強力で、全世界の人々を監視するのに十分である。

サベイランステクノロジーの応用例

ベネズエラマドゥロ大統領拘束

2026年1月3日

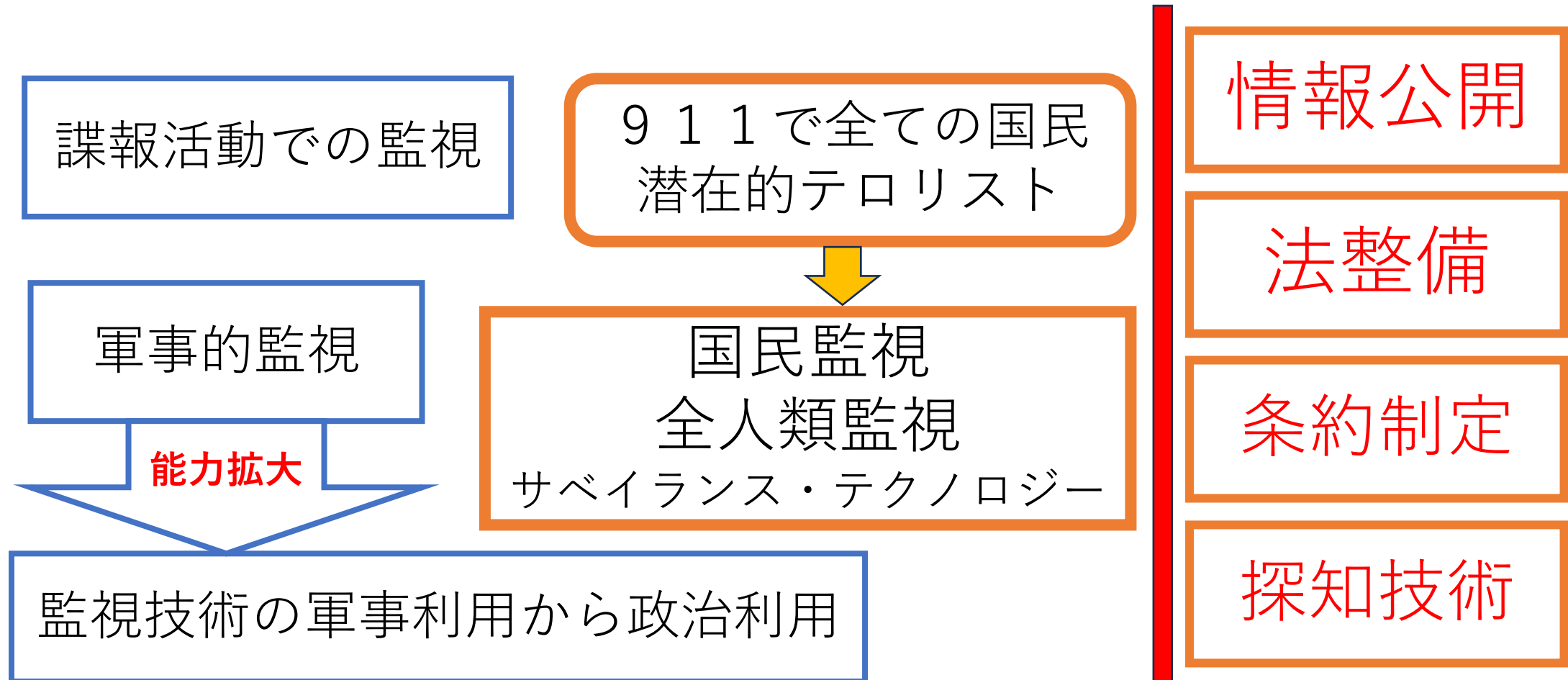


イラン最高指導者ハメネイ氏殺害

2026年2月28日



サベイランス・テクノロジー能力拡大により 全人類監視へと向かう危険性の提言と課題



スノーデン

監視社会の

恐怖を語る

独占インタビュー全記録

小笠原みどり

毎日新聞出版

日本の私たちも、 すでに全面監視下にある!

米国の世界同時監視システムの真実を告発して世界を震撼させたスノーデンに、日本人ジャーナリストが初の長時間インタビューを敢行。スノーデンの日本での工作活動の全貌、民間企業を抱き込んで行う通信傍受の実態、世論操作と市民運動破壊の方法、日米関係の不平等、監視と戦争の危険な関係……

現代の恐るべき支配のすべてが明らかになる。



9784620324104

ISBN978-4-620-32410-4
C0036 ¥1400E

定価：本体1400円（税別）



1920036014002

「日本には2009年ごろに来て、東京都福生市で暮らしました。

米空軍横田基地に勤務していました」

「日本で近年成立した特定秘密保護法は、
実はアメリカがデザインしたものです」

「最も問われるべきは、地球上すべての人々のコミュニケーションを
傍受する仕組みをつくりあげたことです」

「もし、日本の企業が日本の諜報機関に協力していないとしたら驚きですね」

「無差別監視はテロを防げずにあります。なぜなら
根拠のある疑いによつて的を絞り、被疑者を捜査していくのではなく、
私たち全員を潜在的な被疑者として扱っているからです」

「こうして秘密が民主主義のプロセスを
腐敗させていくのです」

——エドワード・スノーデン

特定秘密保 護法はアメ リカがデザ インした！

たとえば何年後かにNSAがドイツでのテロ計画を察知したのにドイツ政府に知らせず、ドイツ市民が犠牲になったとします。これは政治的に大問題になります」

つまり要は、米国の友好国の諜報関係者は米国の監視システムの前に抵抗を見せるどころか、ひれ伏している状態であり、すでに米国のユニラテラルな覇権を支える構造の一部に取り込まれている、ということをや彼は説明した。そしてここで、驚くべき発言をした。

「それと同じ目的で、日本で近年成立した（特定）秘密保護法は、実はアメリカがデザインしたものです」

米国がデザインした秘密保護法

「もちろんこれはけっして表には出ないことです」と彼は続けた。「けれどNSAはこれと同じことを他の友好国に対してもしています。NSAには総合評議室と呼ばれる部署があって、100人程度の法律家が働いています。この法律家グループは外務取締役会と呼ばれる部署と一緒に、どの国が法的にどこまでNSAに協力して情報収集することが可能か、それ以上の諜報活動を求めれば国内法や憲法に違反する、または人権侵害になるといったことを把握している。そして、ではどうすれば人権上の制約を回避できるか、どうすればその国が自国民をスパイすることを妨げている法の守りを解くことができるか、もっと情報を機密化して公衆の目から隠すことができるかを検討しているのです。そうすれば、その国の諜報機関がNSAと一緒に、もっと深い闇にまで入っていきけるから……」

私は一瞬言葉を失った。そんな話は聞いたことがなかった。

特定秘密保護法案はスノーデンの告発の半年後の2013年12月、日本の国会で強行採決された。国が「秘密」と指定した文書の内容について他人に漏らせば最高懲役10年の罪に罰せられる。他人に漏らすのを助けた人も罰せられる。つまり国にとっては都合の悪い文書を秘密指定すれば、事実を合法的に闇のなかに隠しておくことができる。

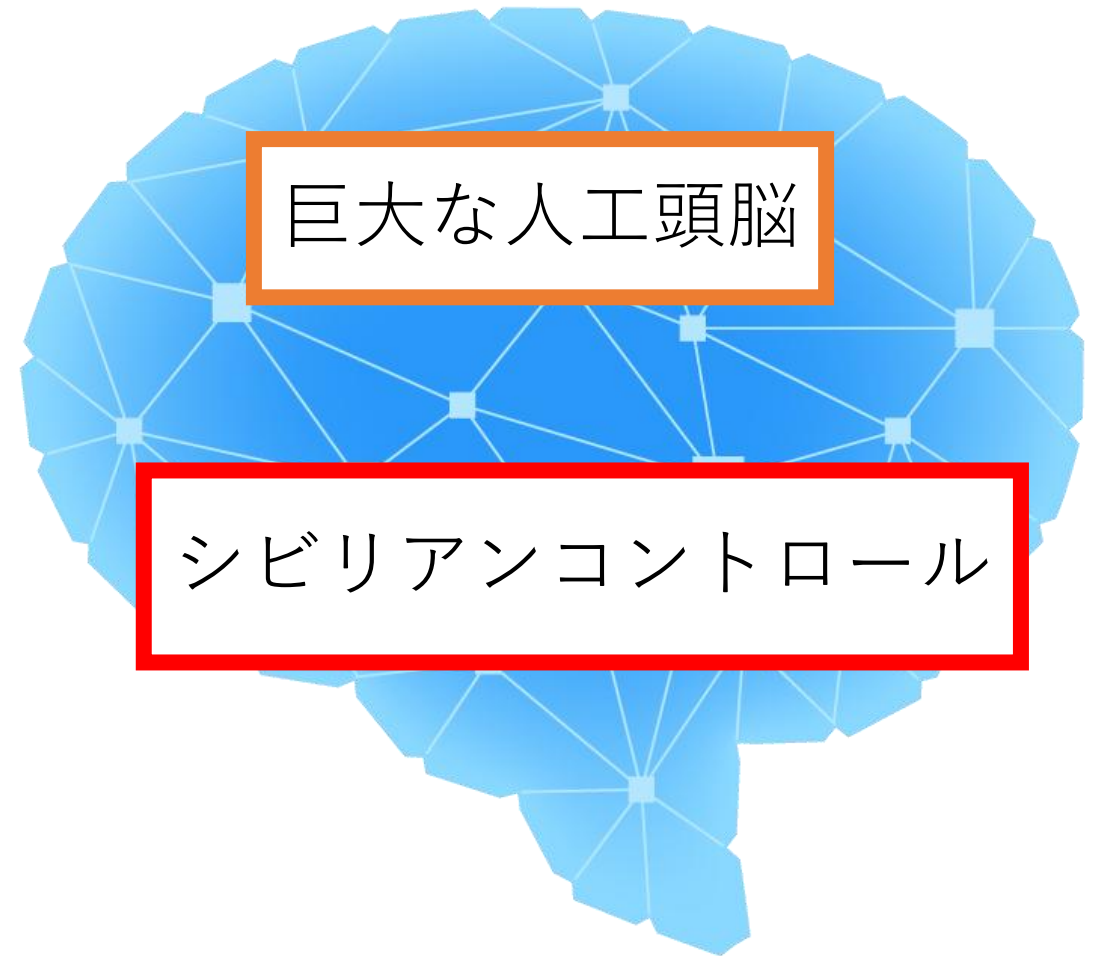
1972年の沖縄返還にまつわる密約のように、これまでも日本の政治には重大な秘密があった。沖縄の施政権返還交渉では、日米高官が日本側の巨額の支払い（2億ドル以上）を秘密裏に約束し、核持ち込みの可能性も残した。この密約を暴いた毎日新聞の西山大吉記者は、情報提供したとされる外務省の女性事務官とともに国家公務員法違反の疑いで逮捕された。一番で事務官は有罪となり、西山記者は無罪となったが、事務官との個人的な関係に対して厳しい社会的非難を浴びて毎日新聞を退社。その後、控訴審で逆転有罪となって最高裁で罪が確定した（懲役4カ月、執行猶予1年）。検察は西山記者の事務官との間柄をリークして世論を攪乱し、世間は密約よりも記者の醜聞にとびついた。密約報道は見事にかき消され、人々が世論操作に乗せられたことはごく最近までほとんど反省されなかった（多分、西山記者をモデルにした山崎豊子の小説「運命の人」を読むか、そのテレビドラマを見るまで）。

国民の合意を得ず、国権の最高機関である国会の承認を得ない密約は当然に違法であり、政府の勝手な行いは民主主義に反する。西山記者の希代のスクープはそれを主権者である国民に知らせ、信を問うた。真実の情報がなければ、国民は正しい政治的選択ができない。民主主義の根幹を支える表現の自由、報道の自由をまさに実現しようとした西山記者は、だが世間と司法によって二重に処罰された。政府は味を占めたに違いない。どうやったら真実を攪乱できるか、どう

サイバー状況ビジョンは完成しているのか？

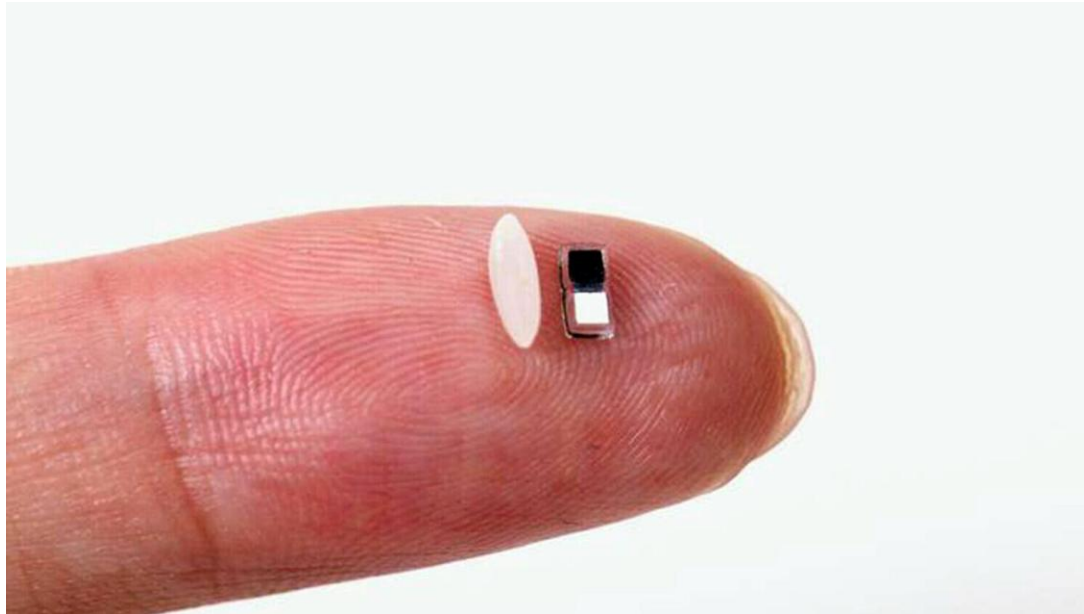
- 1996年時点で
- ブ레인チップを除いて開発済み

自分の意思で、外部から、死によって消滅するブ레인チップ



米研究チーム

不要になると体内で溶けるペースメーカー開発



- 大きさは、長さ3.5ミリ、厚さ1ミリと米粒よりも小さい。
- 注射器で体内に挿入
- 体液を利用して化学エネルギーをパルスに変換するガルバニ電池で作動。
- 患者の胸部にセンサーパッチを装着し、パッチが不整脈を検出すると光が点滅、ペースメーカーが心臓のリズムを調整する。
- 不要になると体内で溶けてなくなる。
- 研究論文は科学誌ネイチャーに掲載。

シビリアンコントロールの問題？？？

国防総省→戦争省：
~~インテリジェントソフトウェア~~
(軍事戦略ソフトウェア)
→サイバー状況ビジョン



国務省：各国大使館・インテリジェント（人的交流）
外交状況ビジョン
各国大使館・CIA出先機関

前トランプ政権下
Twitter・X利用

大統領自ら書かない
代筆者あり

X投稿と大統領発言の
一致

投稿・発言下品さ露骨
その発露は？

下品さの中での話し合
いの可否？

高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・
テクノロジー

②サイバネティク
ス技術

③神経学的通信シ
ステム

④疾病・拷問状態
誘発兵器

⑤ブレインチップ
インプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵
器

⑧高度情報化時代
の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密の
プログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

②サイバネティクス技術悪用への対処

遠隔から人間のあらゆる機能に影響を与えコントロールするサイバネティクス技術悪用への対処

サイバネティクス技術（造語）

「サイバネティクスという言葉は、1947年、プリンストンにおいて、科学者の間で造語され、コントロールとコミュニケーション技術、特に人間の脳・生物学的システムとコンピューター^oの連結に関する技術のあらゆる物事を表す言葉となった」

軍事テクノロジーで最も重要な情報収集技術

国家の最高の頭脳投入

スパイ
活動

軍事衛星

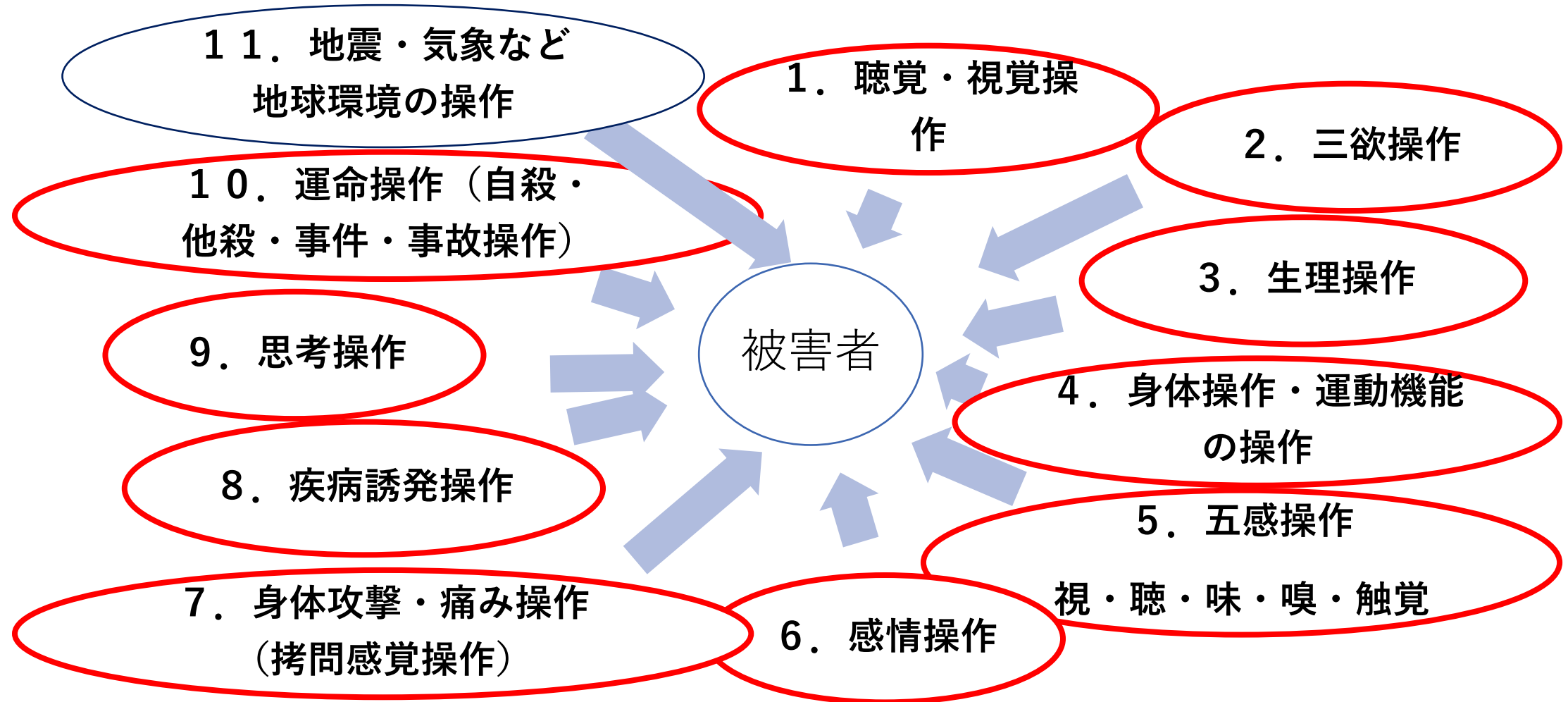
映像
ビルの中
盗聴・盗撮

指導者の考え
を読む

指導者を思い
のまま動かす

テクノロジー犯罪被害における各種操作

人間コントロール・テクノロジーの悪用



テクノロジー犯罪被害（対象人間）

人間のあらゆる機能操作：人間コントロールテクノロジー

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

⑧思考操作
(介入・操作)

個人操作

大衆操作

テクノロジー犯罪被害（対象人間）

あらゆる面で人権侵害

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

⑧思考操作
(介入・操作)

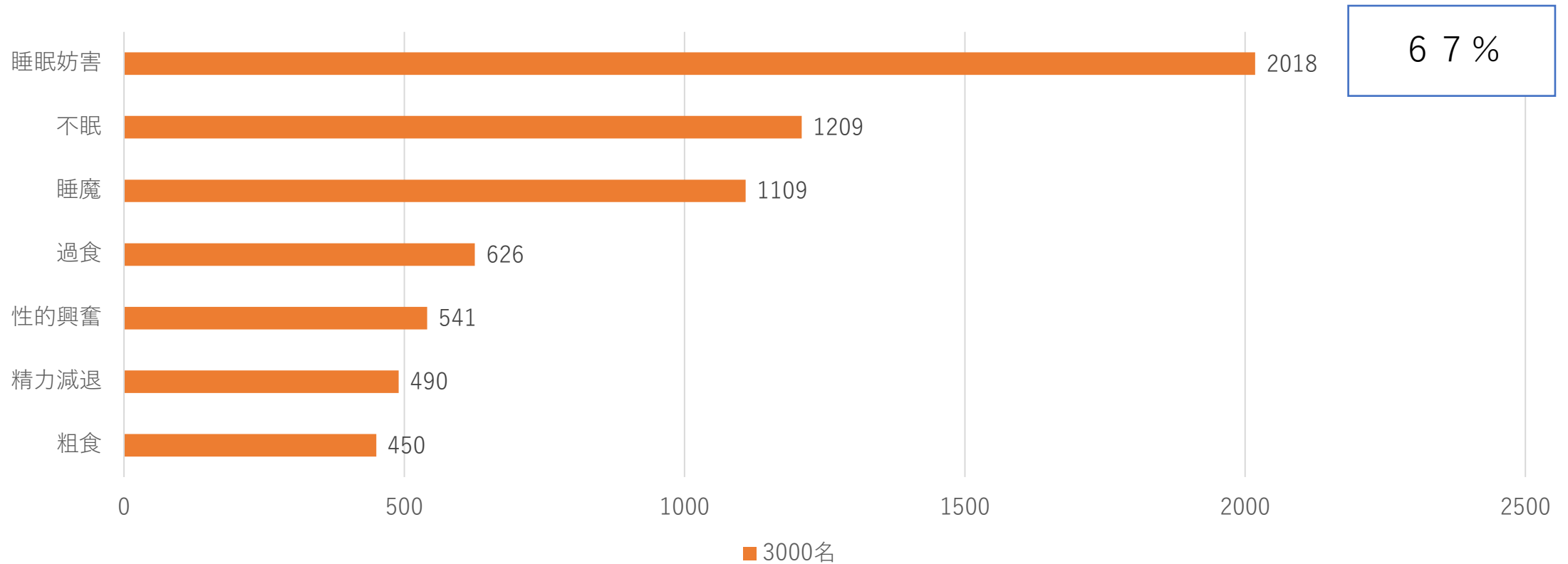
個人操作

大衆操作

1. 三欲操作（食欲・性欲・睡眠欲）

監視技術（サベイランス・テクノロジー）と一体化した三欲操作技術

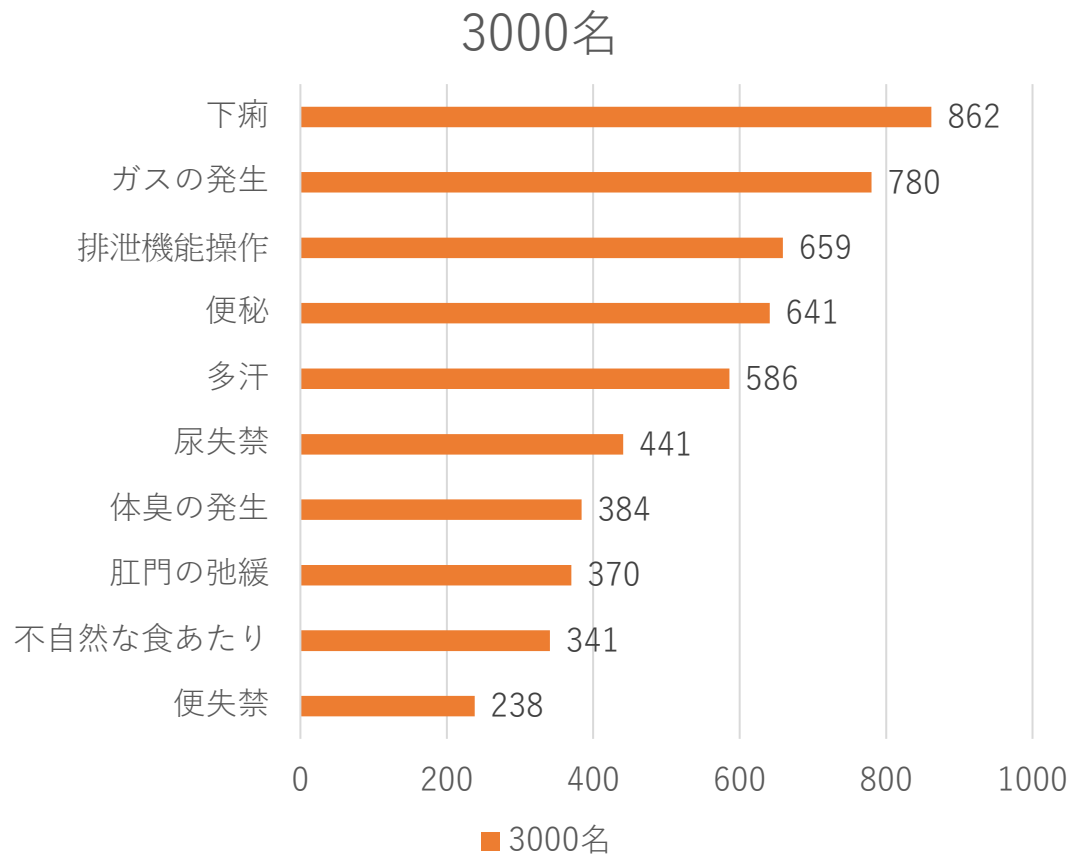
3000名



国民総背番号制
特別ファイルに刻
まれている？

2. 生理操作

監視技術（サベイランス・テクノロジー）と一体化した生理機能操作技術



個々人の体質の人為的操作

個々人の体質を決定づける者
それを請け負って実行する者

サベイランステクノロジー（人
工衛星・スーパーコンピュー
タ）、BCI、AI

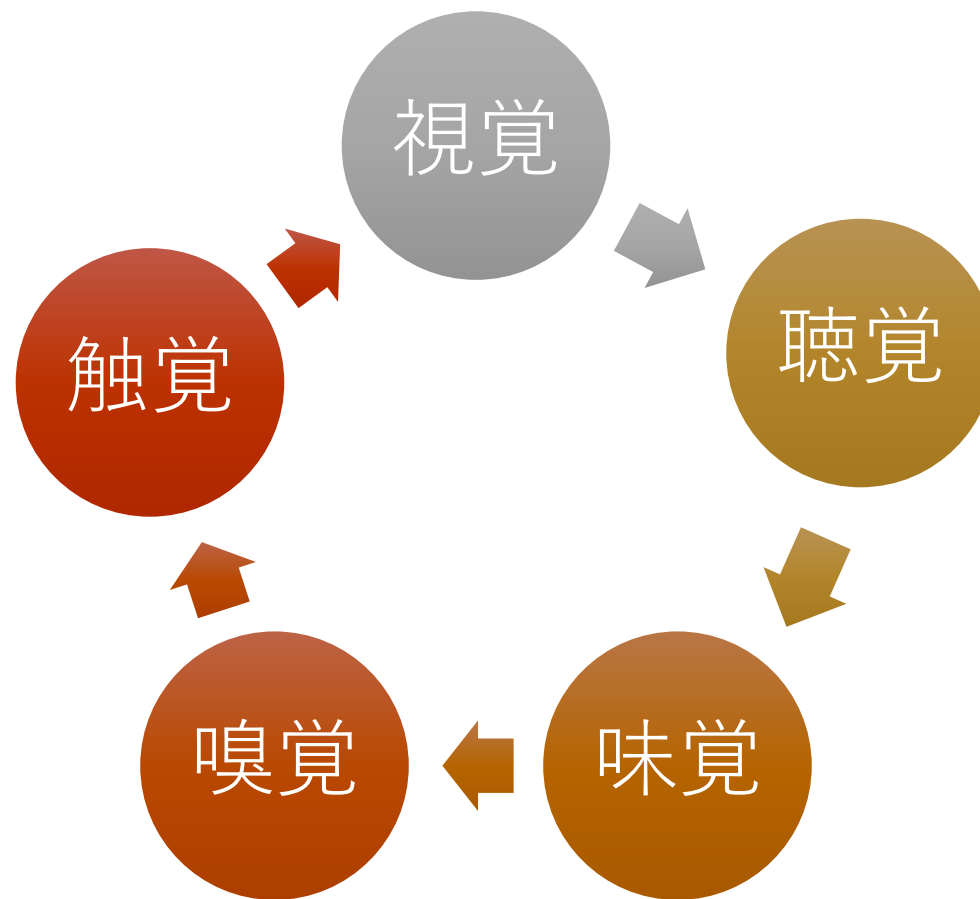
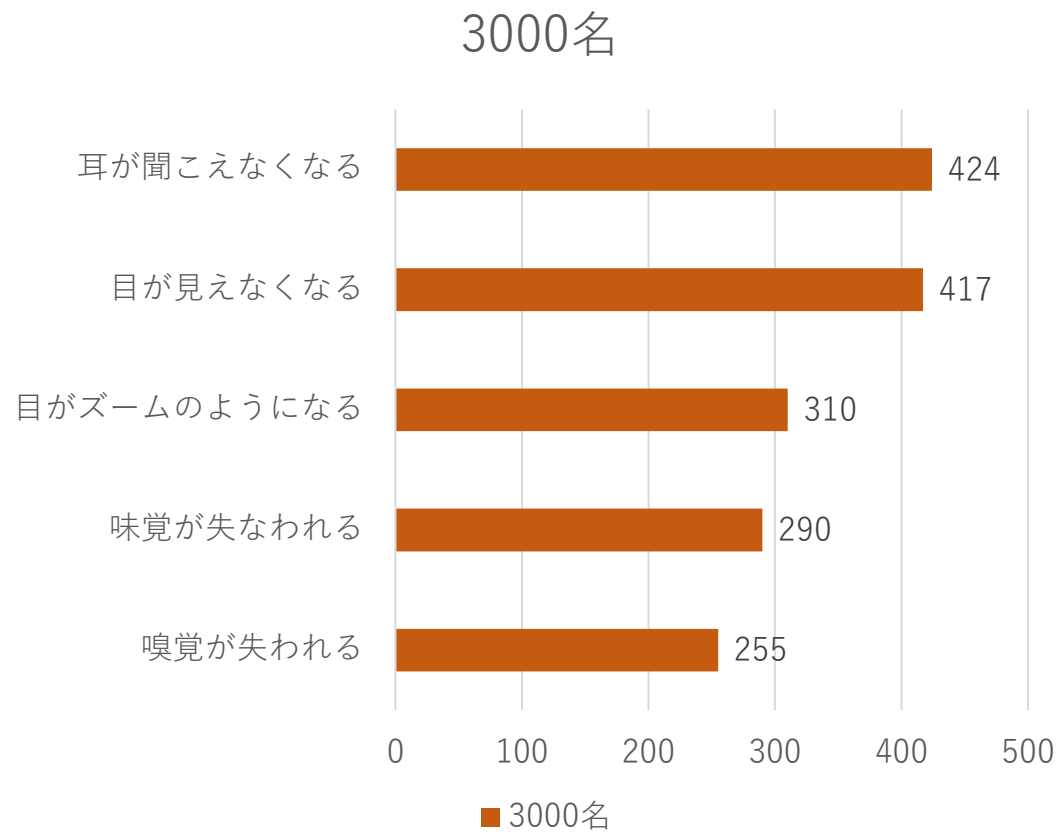
被害者は爆発的ストレスを
抱えて生きる

人間体質付けプロジェクト

機能喪失

3. 五感操作

ないものをあ
るように感じ
る被害

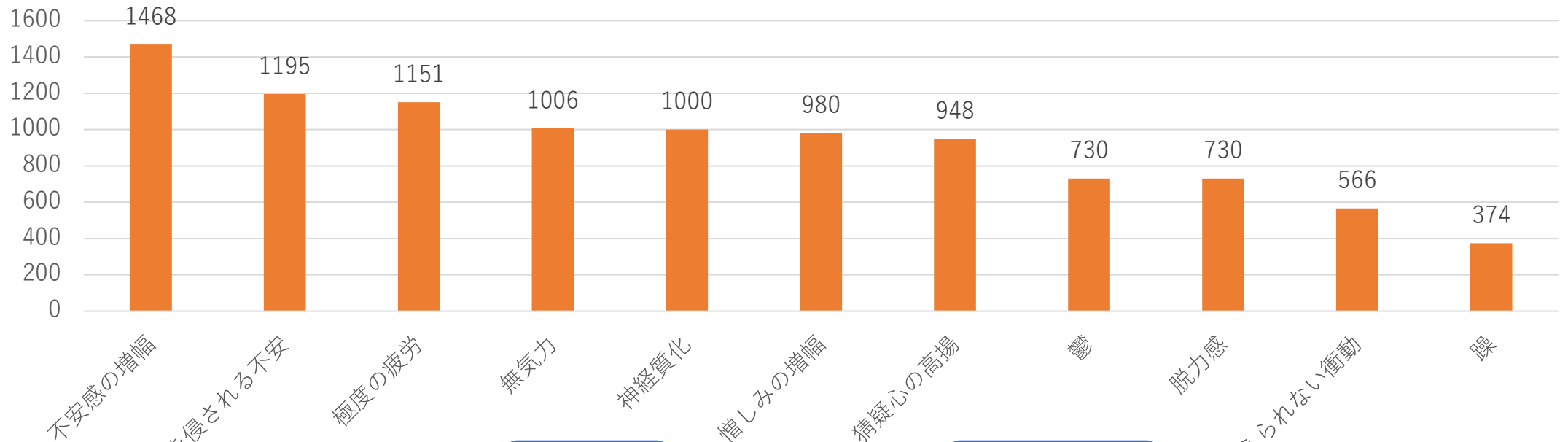


監視技術（サベイランス・テクノロジー）と一体化した五感操作技術

4. 感情操作（マインドコントロール）

監視技術（サバイランス・テクノロジー）と一体化した感情操作技術

3000名



24時間365日
継続する集中攻撃

半世紀を越える歴史
社会に甚大な影響

赤面

恥ずかしさ

個々人の性格を決定づける組織の存在と感情操作
テクノロジーを操作する部署の存在も自明

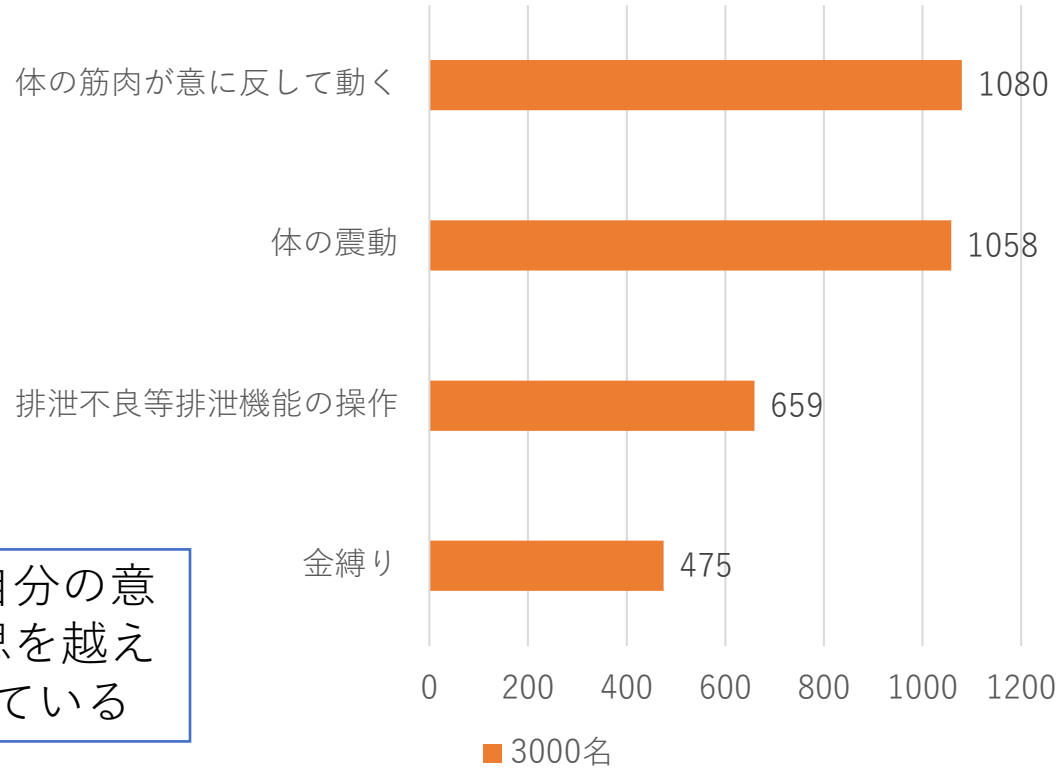
3000名

5. 身体操作・運動機能操作

半世紀を越える歴史

操り人形

3000名



自分の意思を越えている

人間の筋肉を遠隔から操作する技術

意識に反して手・足・首・頬が動く

筋肉の硬化

コムラ返り

運動機能のコントロール

向上

低下

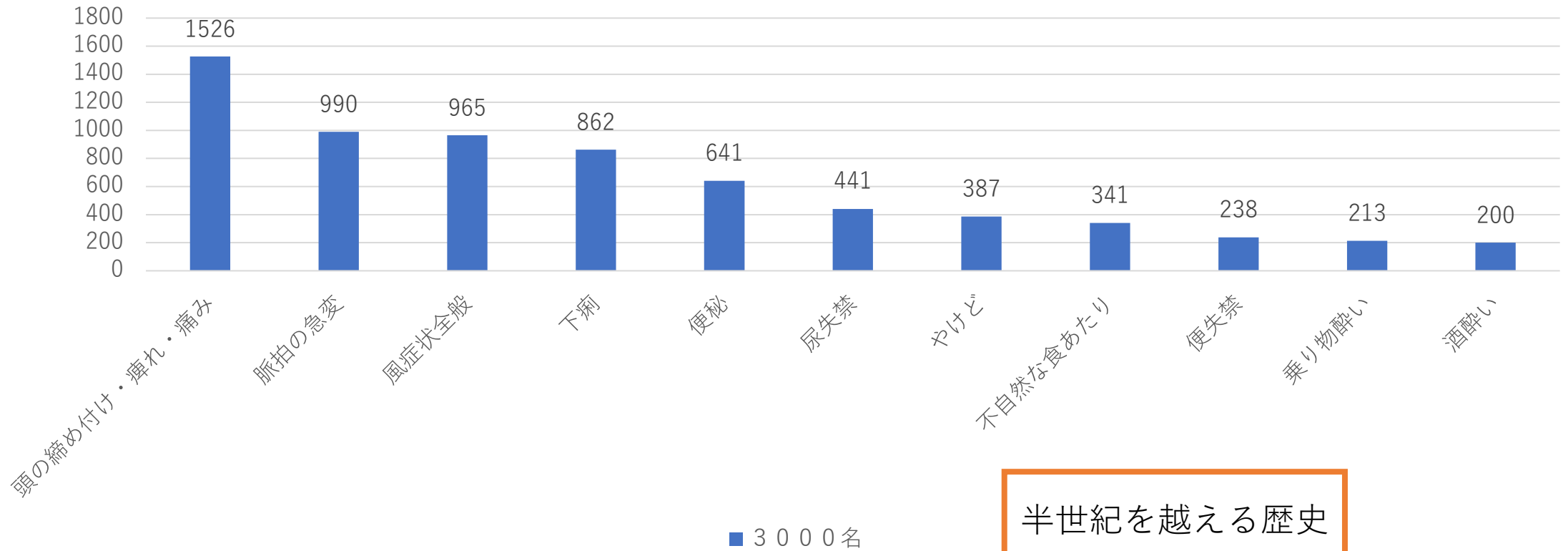
重圧・金縛り状態

監視技術（サバイランス・テクノロジー）と一体化した身体・運動機能操作技術

6. 疾病の誘発操作

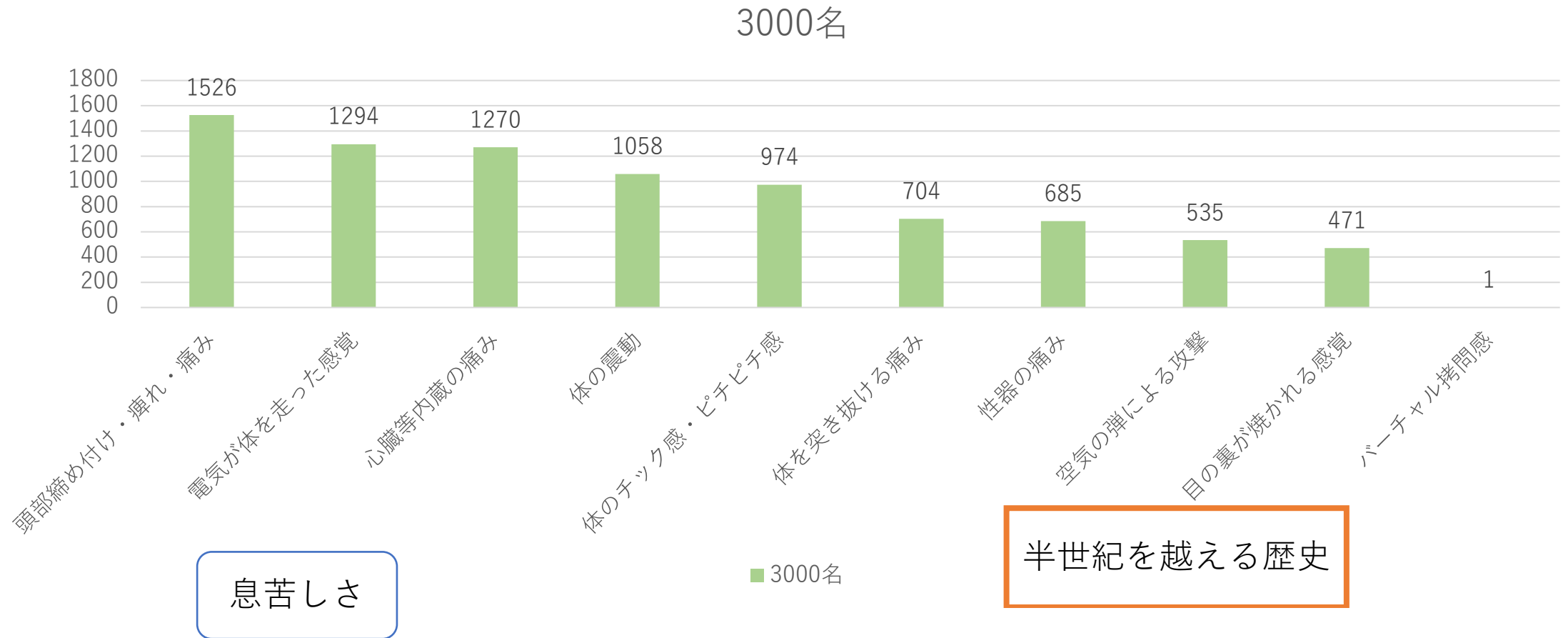
監視技術（サベイランス・テクノロジー）と一体化した疾病誘発技術

3000名



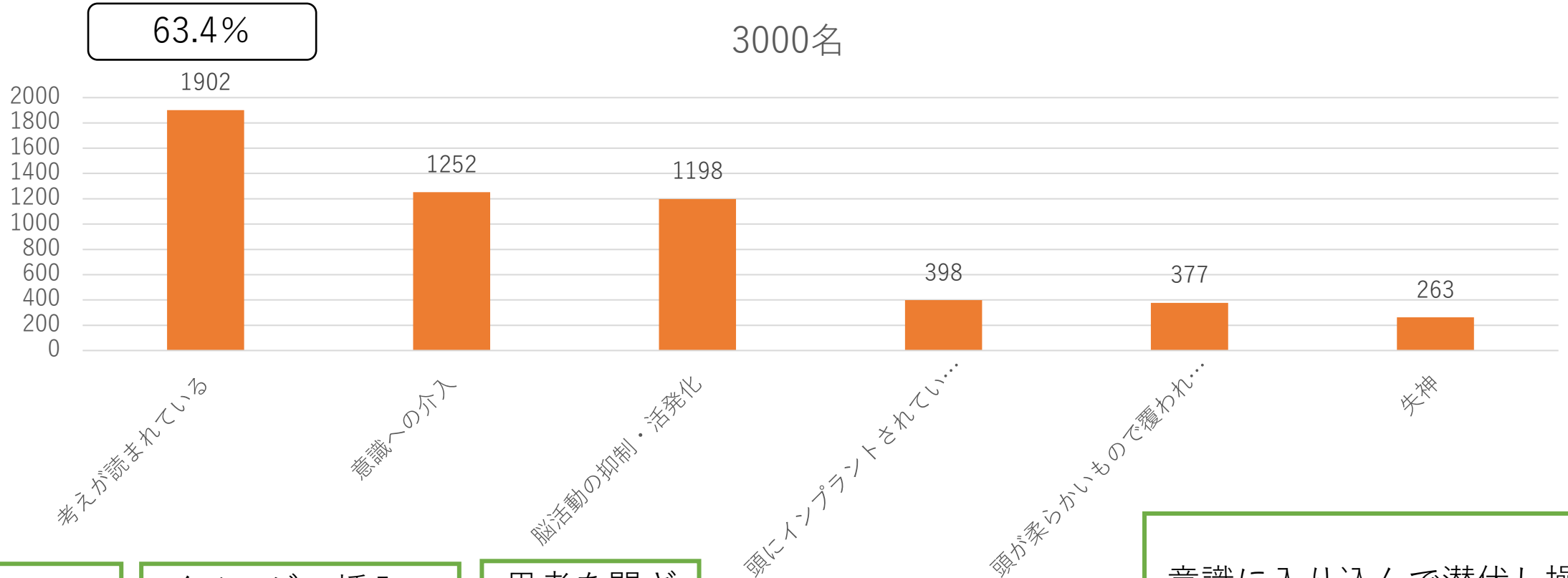
7. 身体攻撃・痛み操作

監視技術（サバイランス・テクノロジー）と一体化した身体攻撃技術



8. 思考操作

監視技術（サバイランス・テクノロジー）と一体化した意識への介入・思考操作技術



63.4%

3000名

3000名

双方向通信
BMI・AI

イメージの挿入・
大衆マインドコン
トロール

思考を閉ざ
す・自意識
の喪失

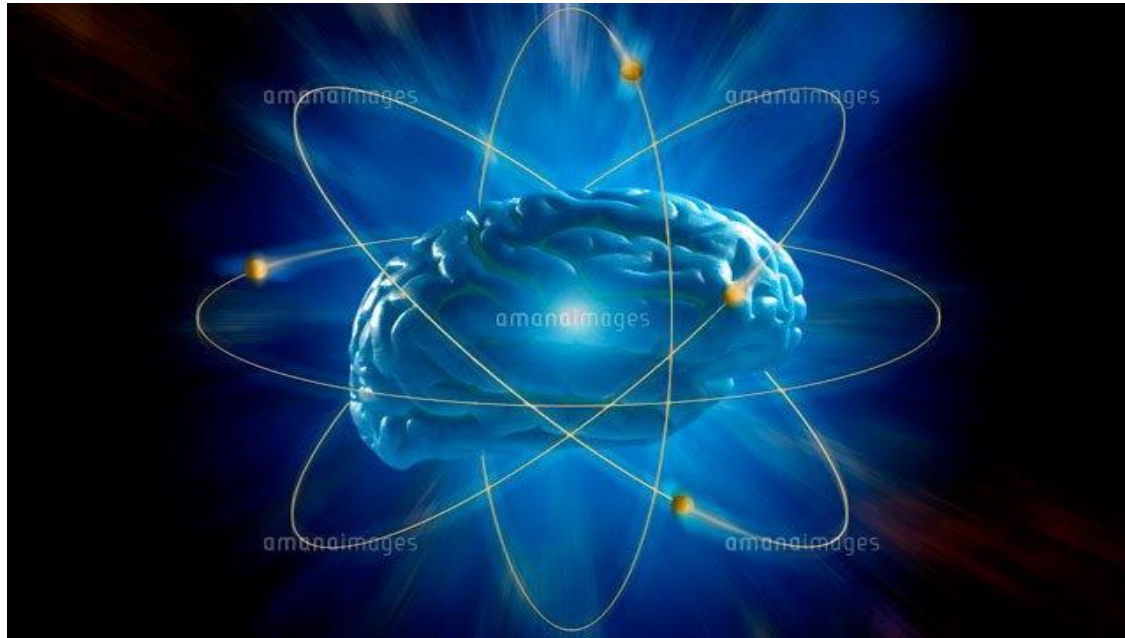
意識に入り込んで潜伏し操る

半世紀を超える歴史

思考への介入（英国型） 30年以上前

電子が原子の周りをぐるぐる周るように頭の周囲を回る感覚

人間対象テンペスト

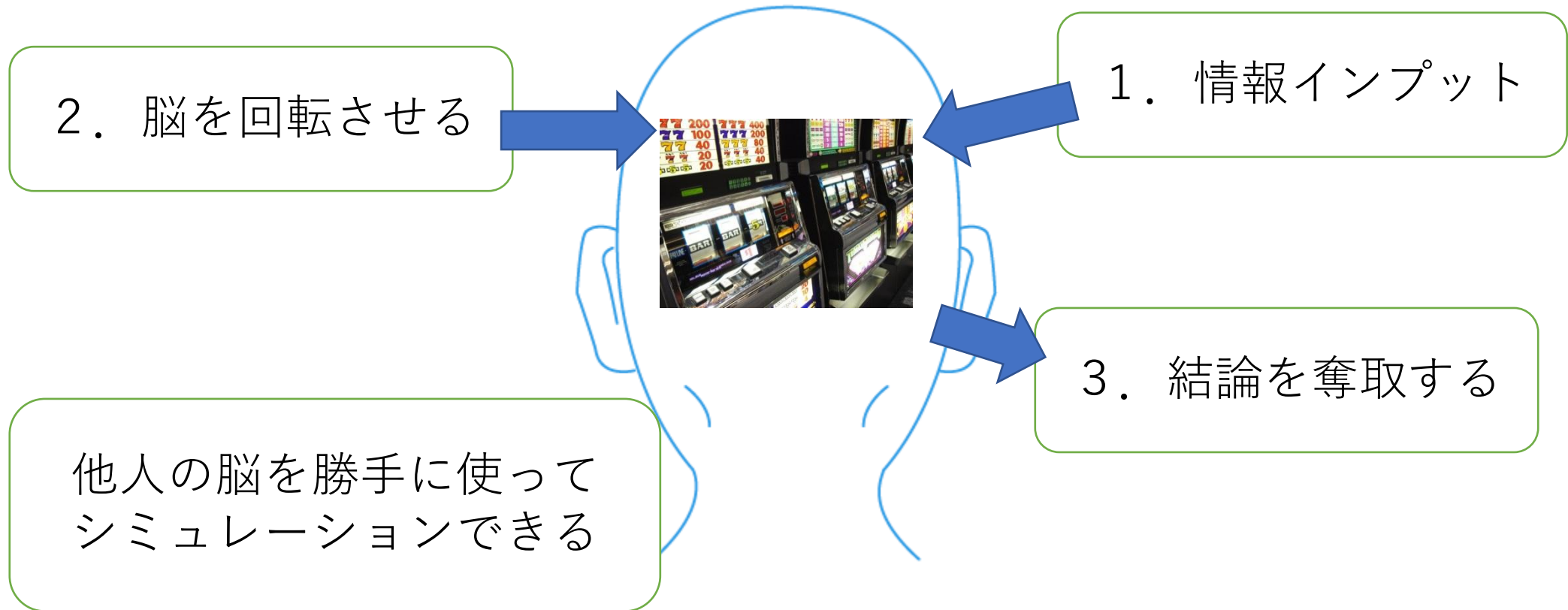


思考を促進
して判断を
導き出す

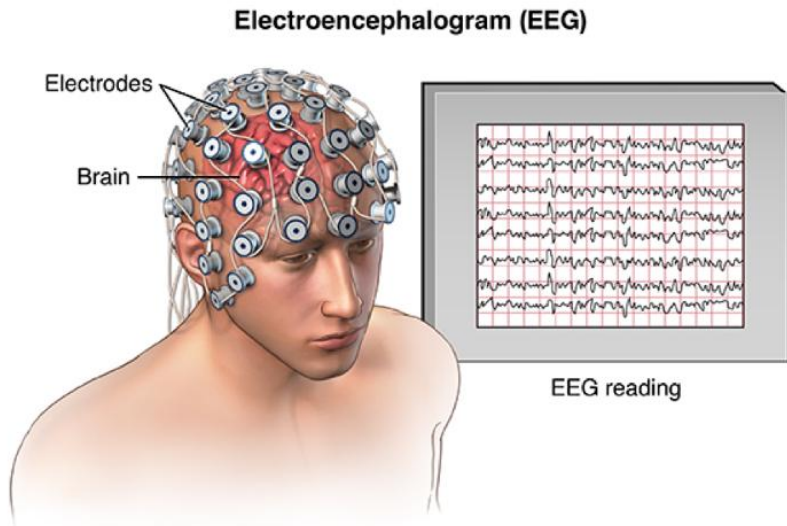
脳スキャン技術？

思考への介入（日本型） 約25年前 スロットマシンのように作用する

人間対象テンペスト



EEGとMEGとSQUID 脳波検査と筋電図検査と脳磁波検査



テクノロジー犯罪被害8. 思考操作
頭が柔らかいもので覆われている感じ：377名

イーロン・マスク氏率いる ニューラリンク開発

脳に埋め込むチップ



脳とコンピュータをつなぐデバイス



テクノロジー犯罪で基本的人権完全剥奪

すべての統合を失わしめる技術の存在！（統合失調症）

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

⑧思考操作
(介入・操作)

個人操作

⑨運命操作

大衆操作

テクノロジー犯罪被害（対象人間）

自分が自分のものでない時代 = 主が別にいる

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

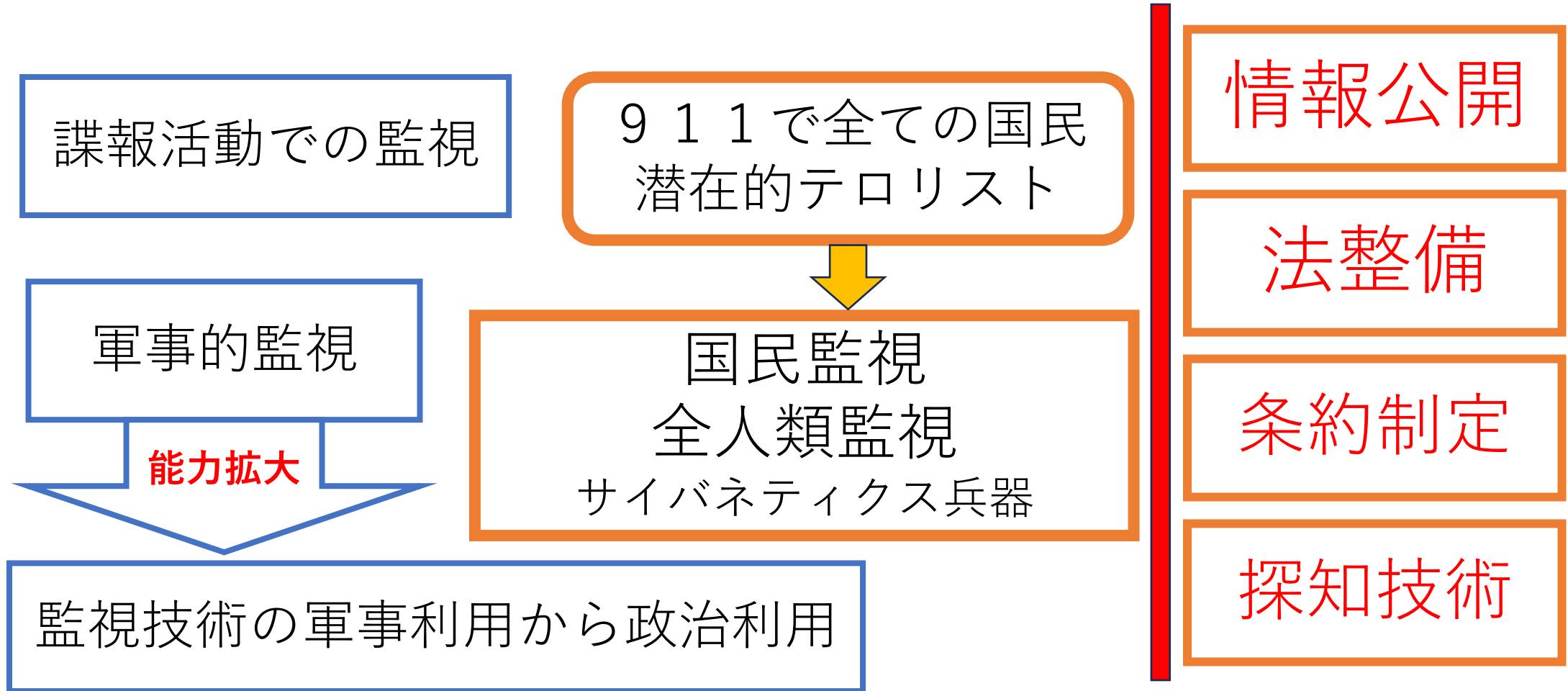
⑧思考操作
(介入・操作)

個人操作

⑨運命操作

大衆操作

サイバネティクス技術能力拡大により全人類管理（コントロール）へと向かう危険性の提言と課題



ポストマンハッタン計画

全人類監視・管理

サベイランス
テクノロジー

合体

サイバネティ
クス技術

何人も侵すことができない
米国の秘された国家政策

高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・テクノロジー

②サイバネティクス技術

③神経学的通信システム

④疾病・拷問状態誘発兵器

⑤ブレインチップインプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵器

⑧高度情報化時代の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密のプログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

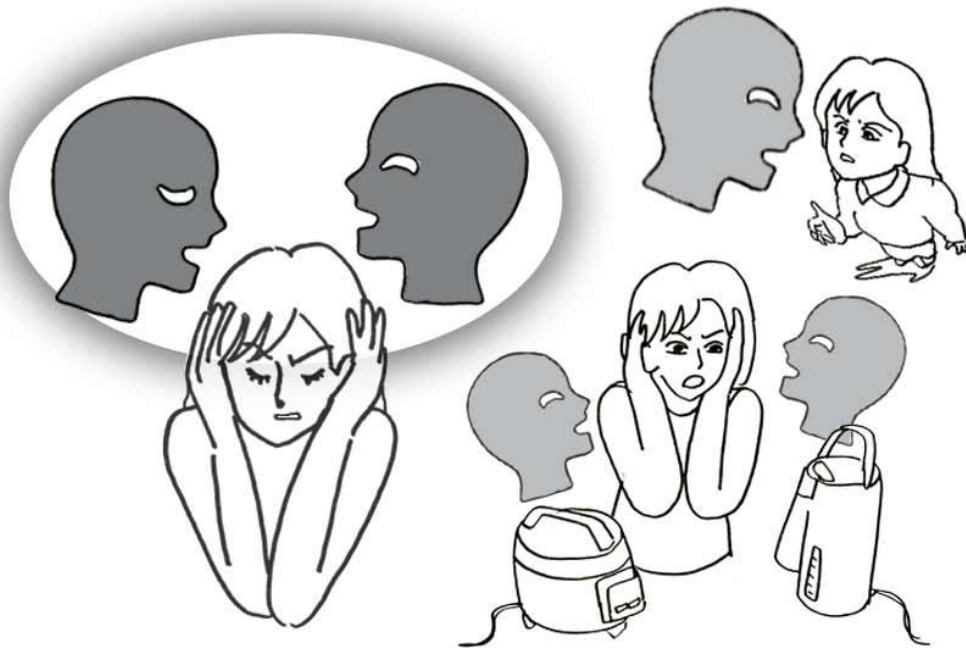
⑬国家情報局新設

③神経学的通信システム悪用への対処

テレパシー通信様技術
(BCI技術、音声送信技術) 悪用への対処

五感操作：聴覚・視覚操作 (音声・映像送信被害)

周囲に誰もいない



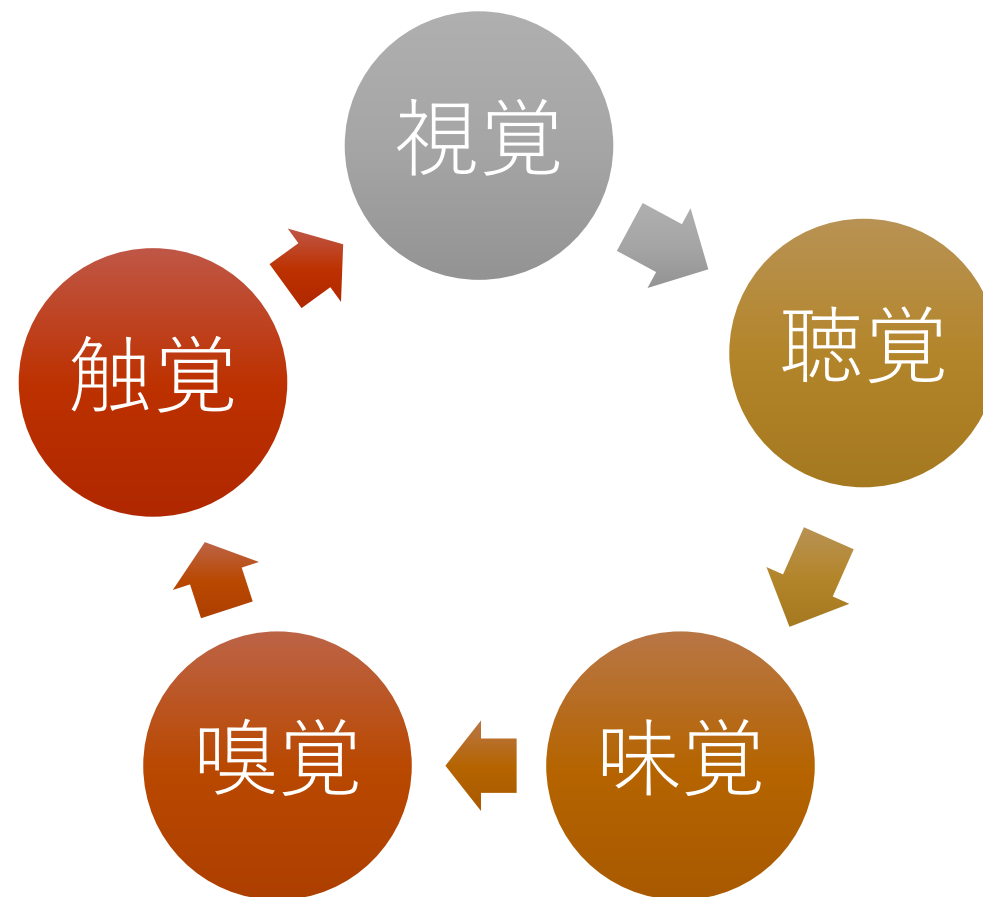
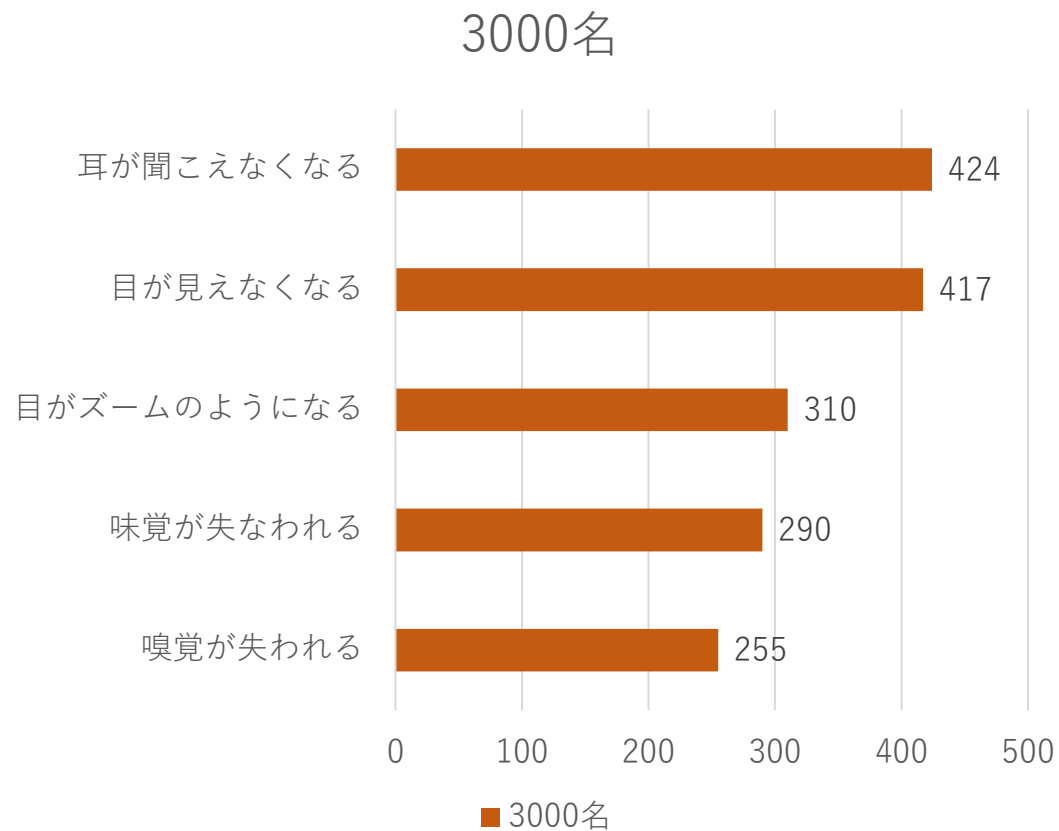
周囲に音源がない



機能喪失

3. 五感操作

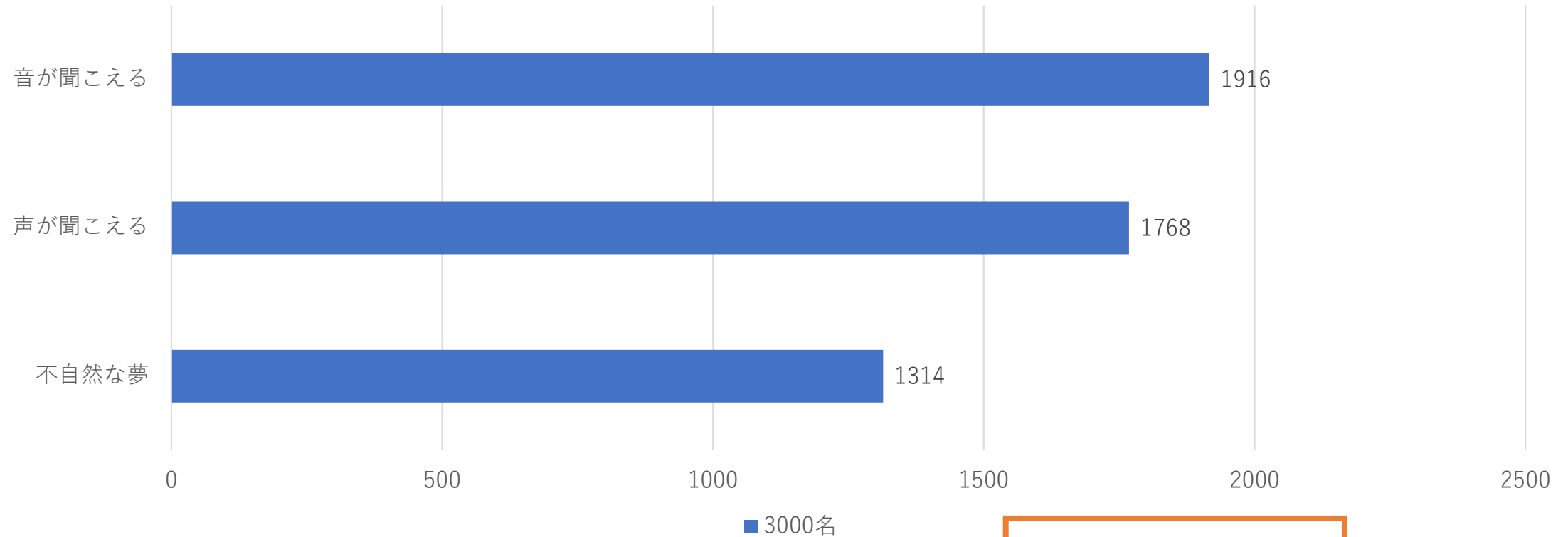
ないものをあ
るように感じ
る被害



監視技術（サベイランス・テクノロジー）と一体化した五感操作技術

五感操作：聴覚・視覚操作 (聴覚・視覚機能への不法・不当アクセス)

3000名

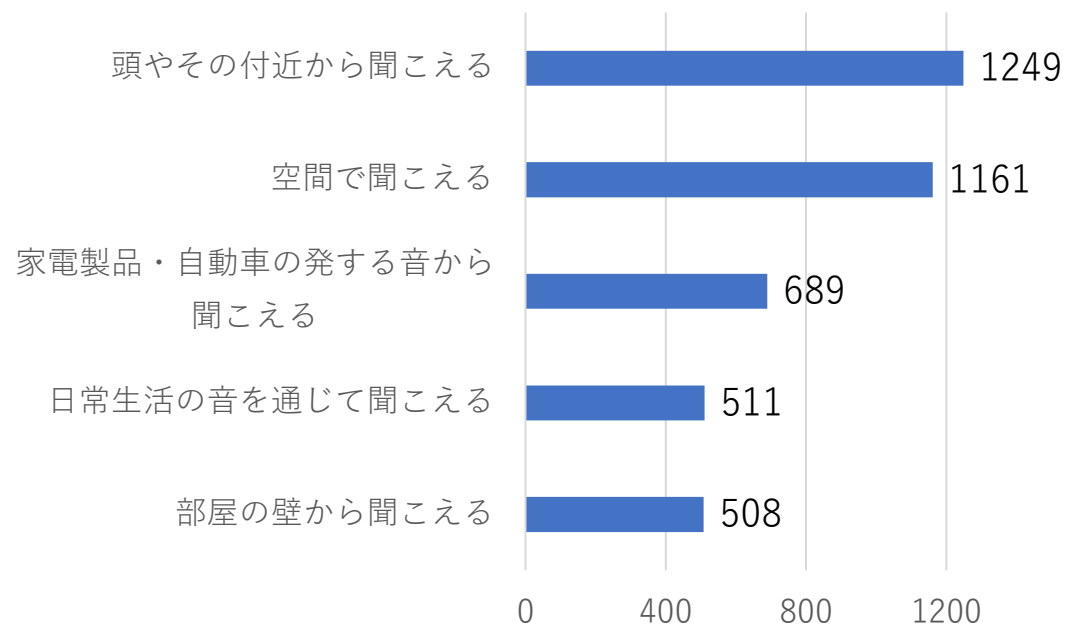


半世紀を超える歴史

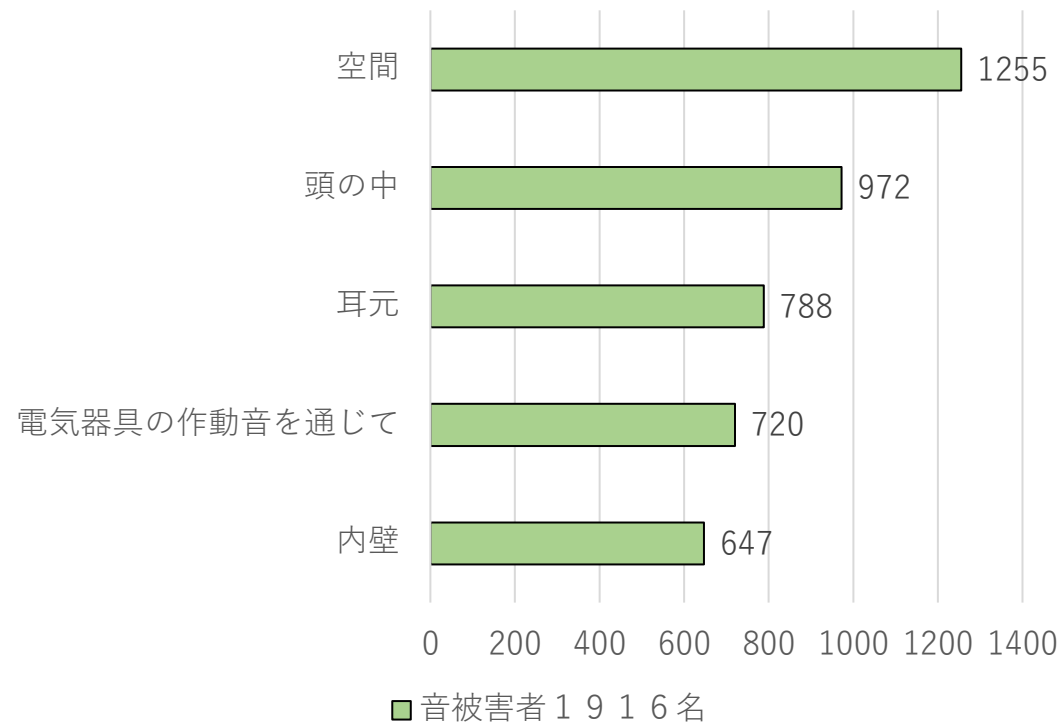
聴覚・視覚操作 (聴覚・視覚機能への不法・不当アクセス)

声はどこで聞こえますか？

声被害者 1 6 4 4 名

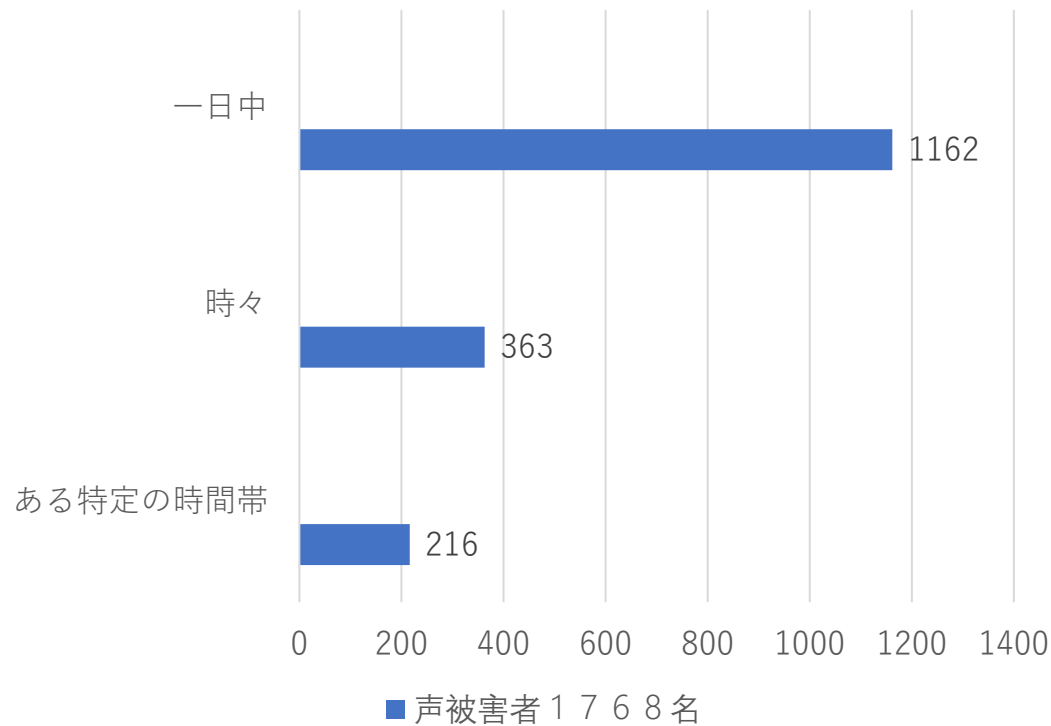


音はどこから聞こえますか？

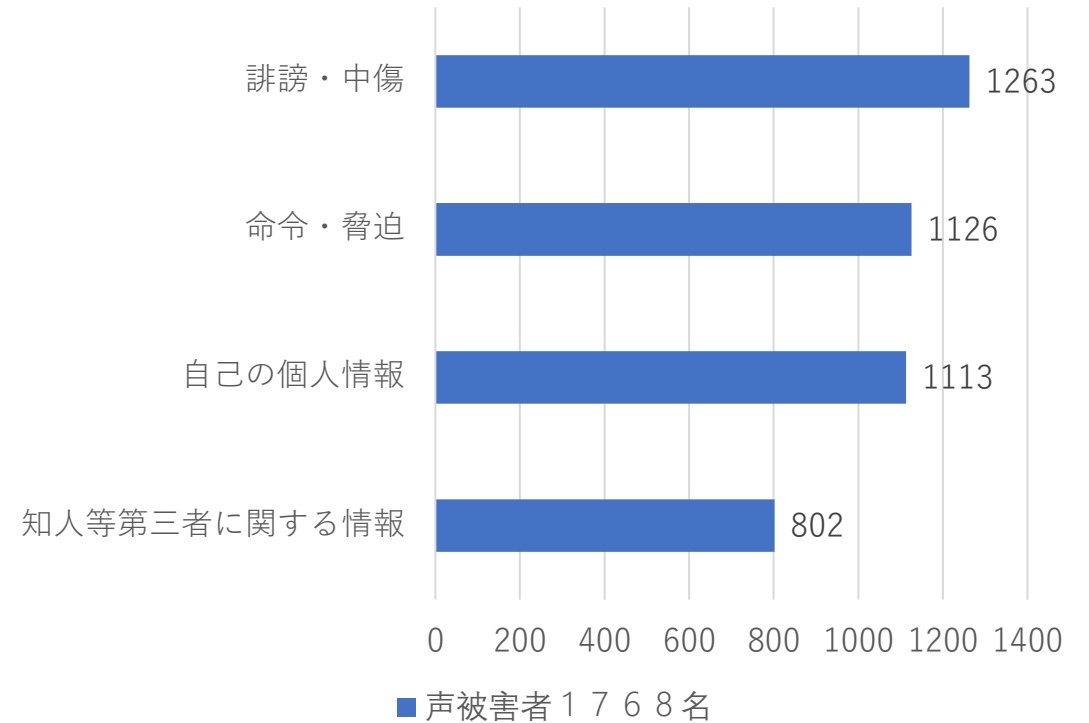


周囲に誰も居ないのに声が聞こえる被害

声が聞こえる頻度は？

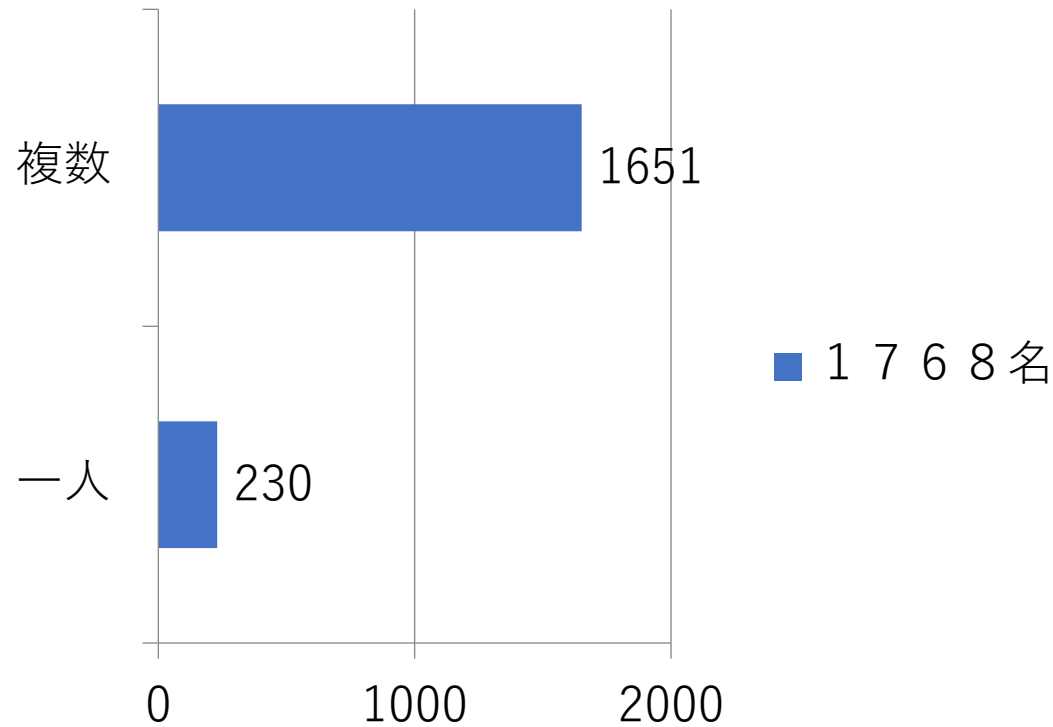


聞こえる声の内容は？

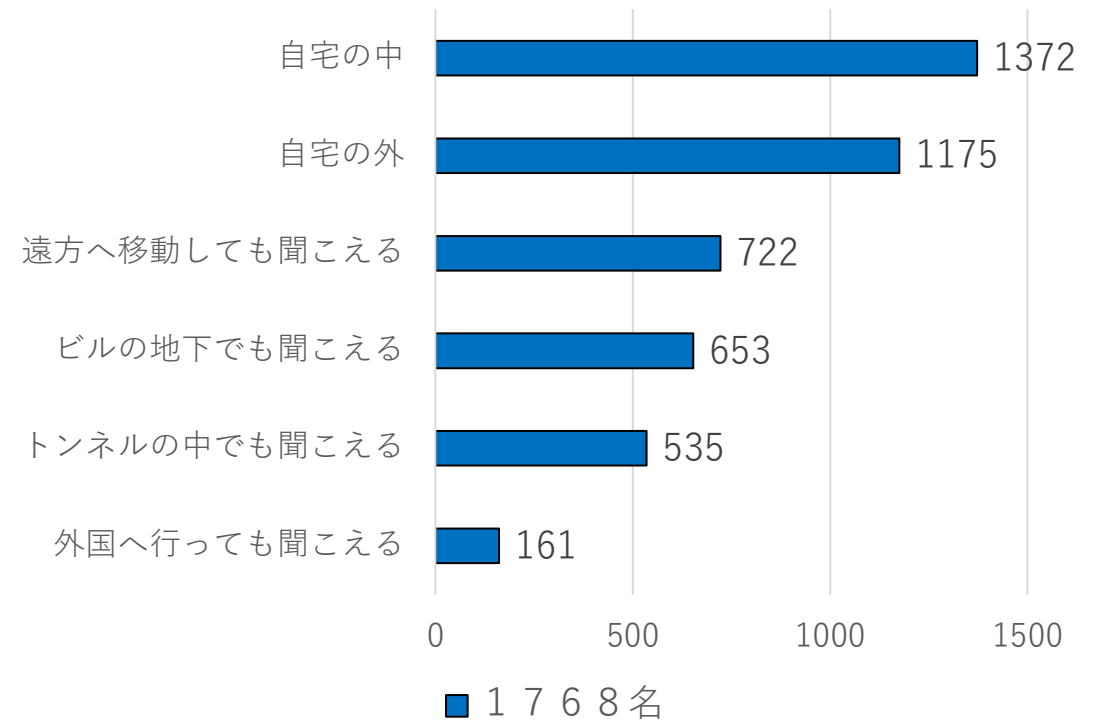


周囲に誰も居ないのに声が聞こえる被害

聞こえる声の数は？

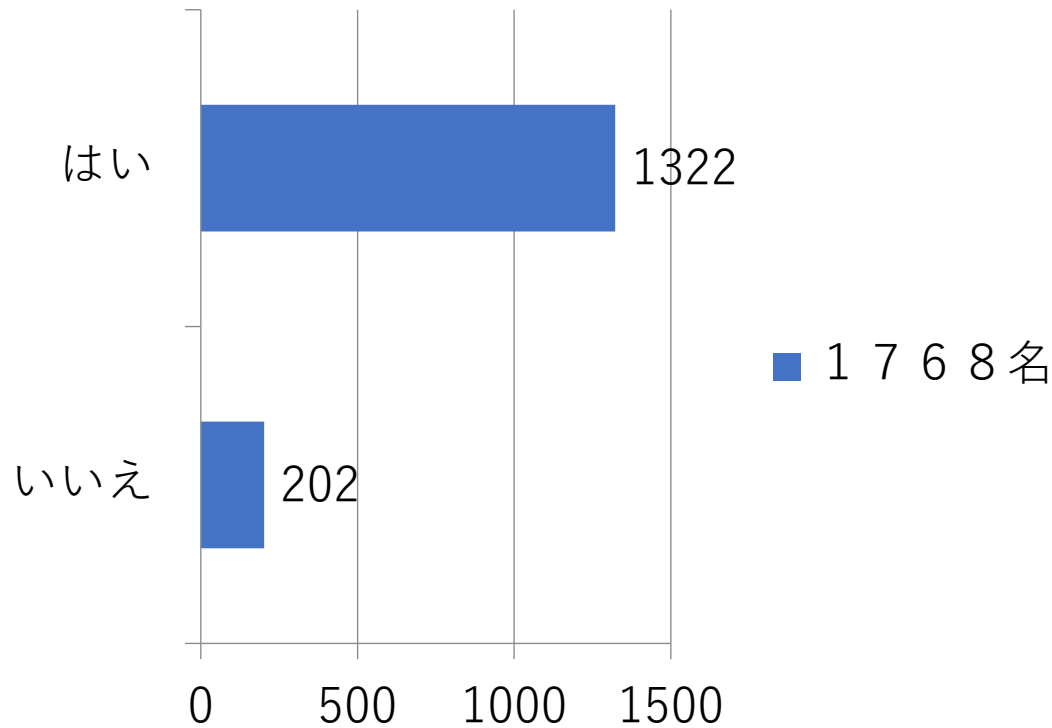


声はどこで聞こえますか？

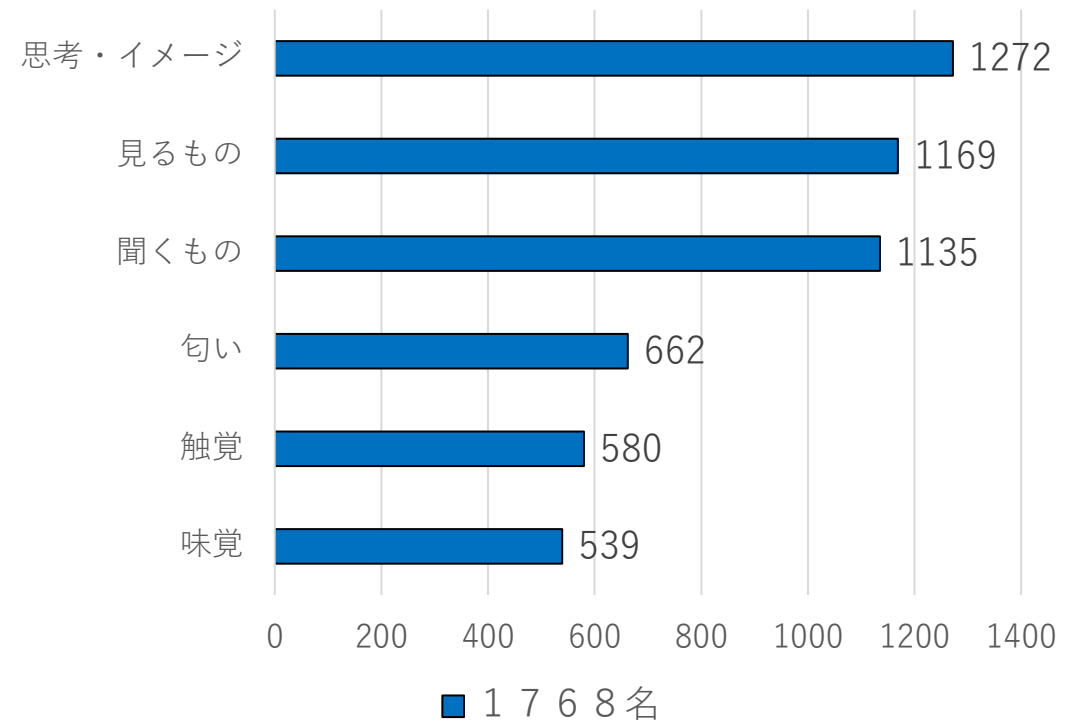


周囲に誰も居ないのに声が聞こえる被害

五感で感じたこと考えたことが声の主体に伝わっていますか？

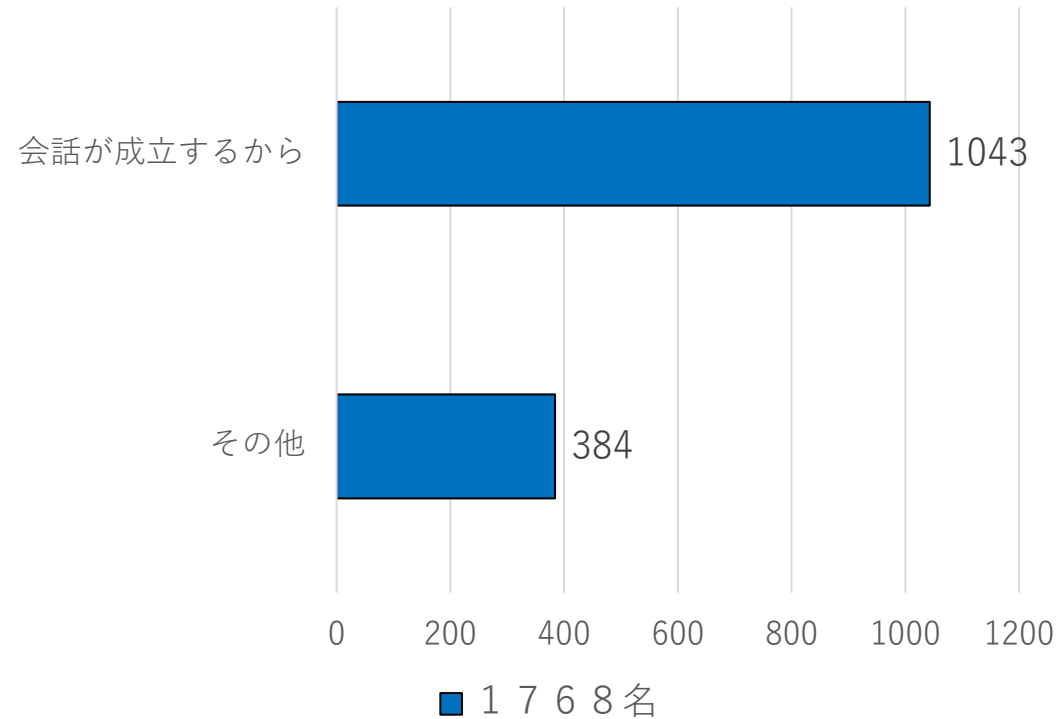


どのようなことが声主体に伝わっていますか？

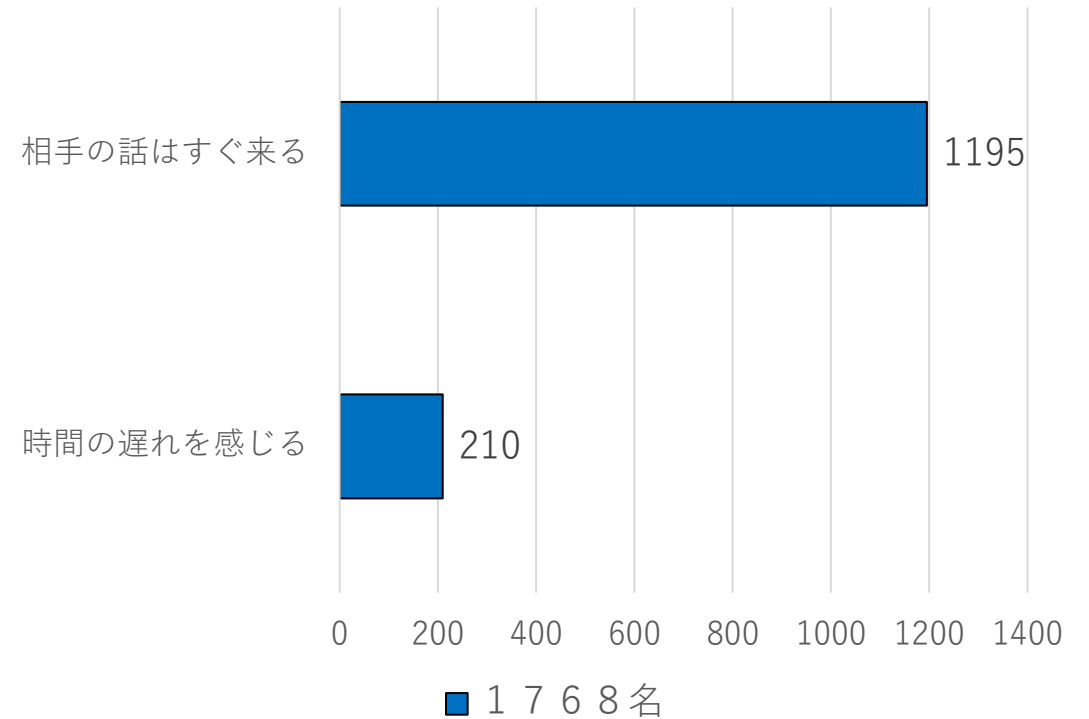


周囲に誰も居ないのに声が聞こえる被害

なぜ頭で考えたことが声の主体に伝わっていると考えられますか？



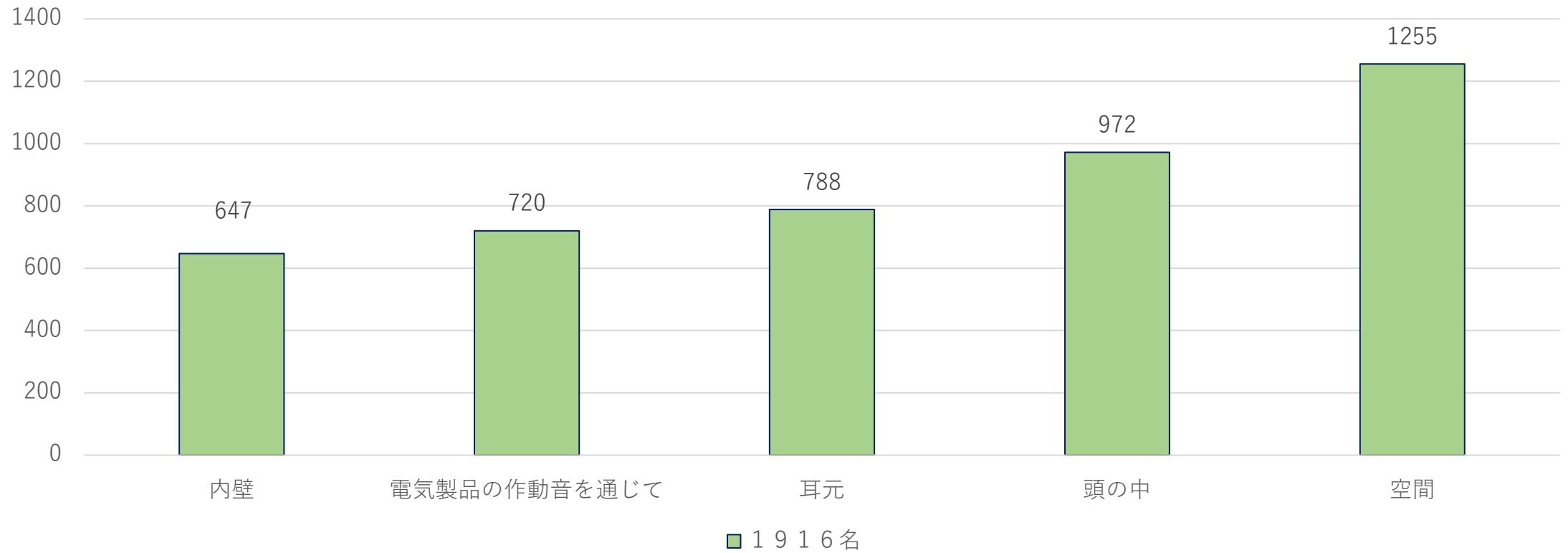
会話の速度は？



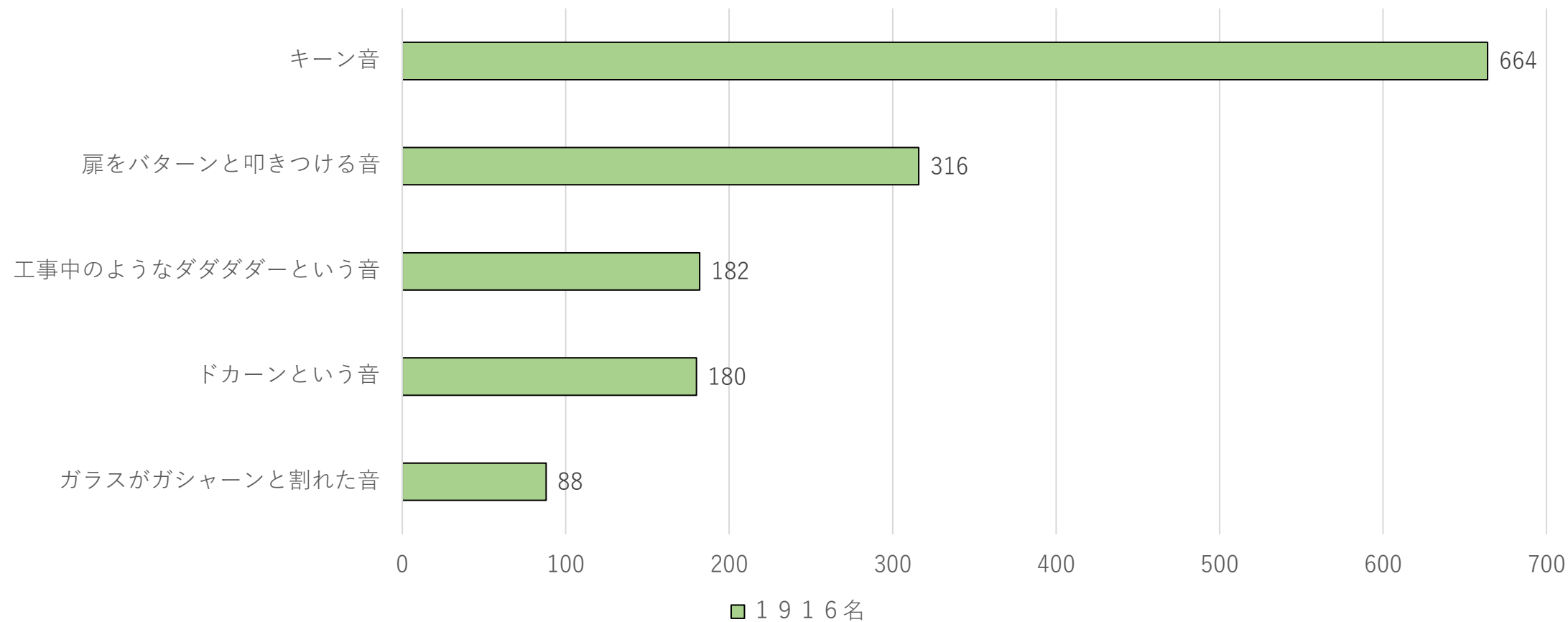
音はどこで聞こえるか？

1916名

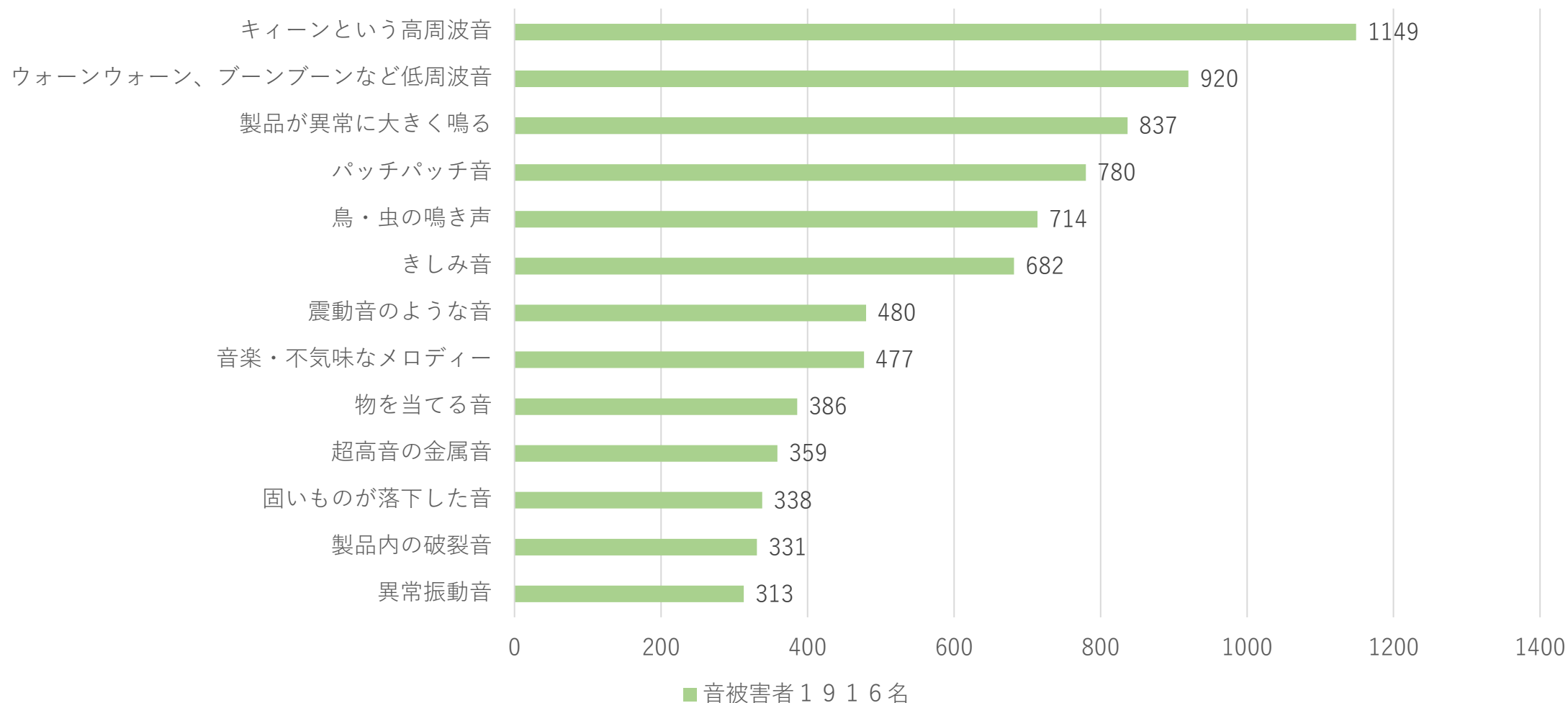
63.8%



周囲に音源がないのに音が聞こえる被害 頭の中で聞こえる場合、どのような音が聞こえますか？



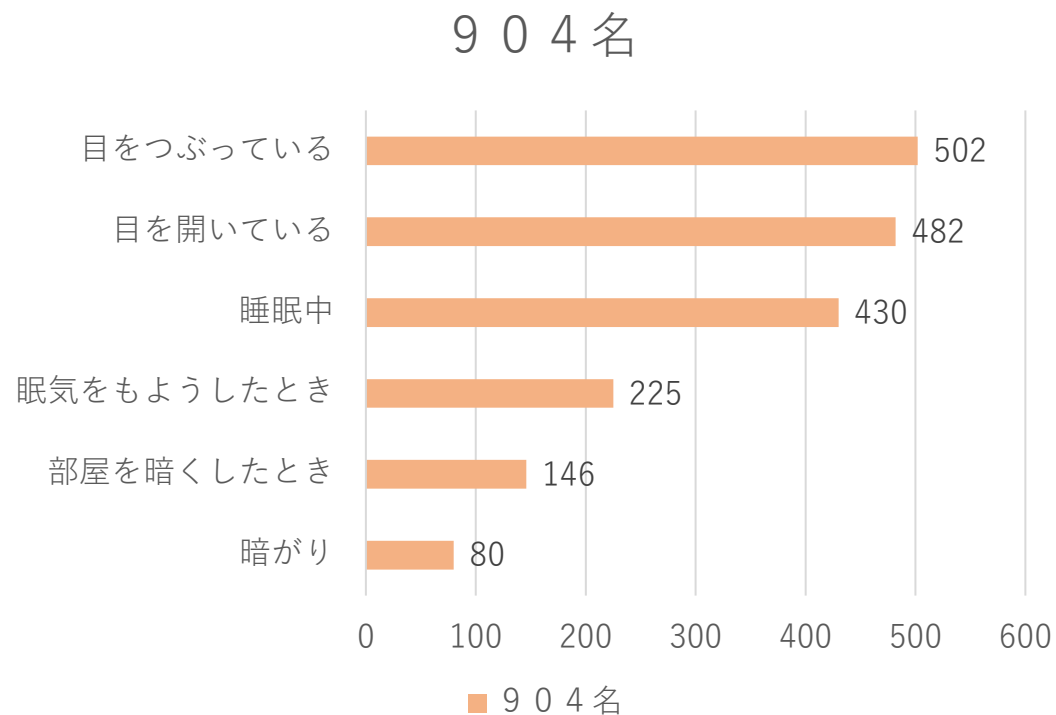
周囲に音源がないのに音が聞こえる被害 空間で聞こえる場合、どのような音が聞こえますか？



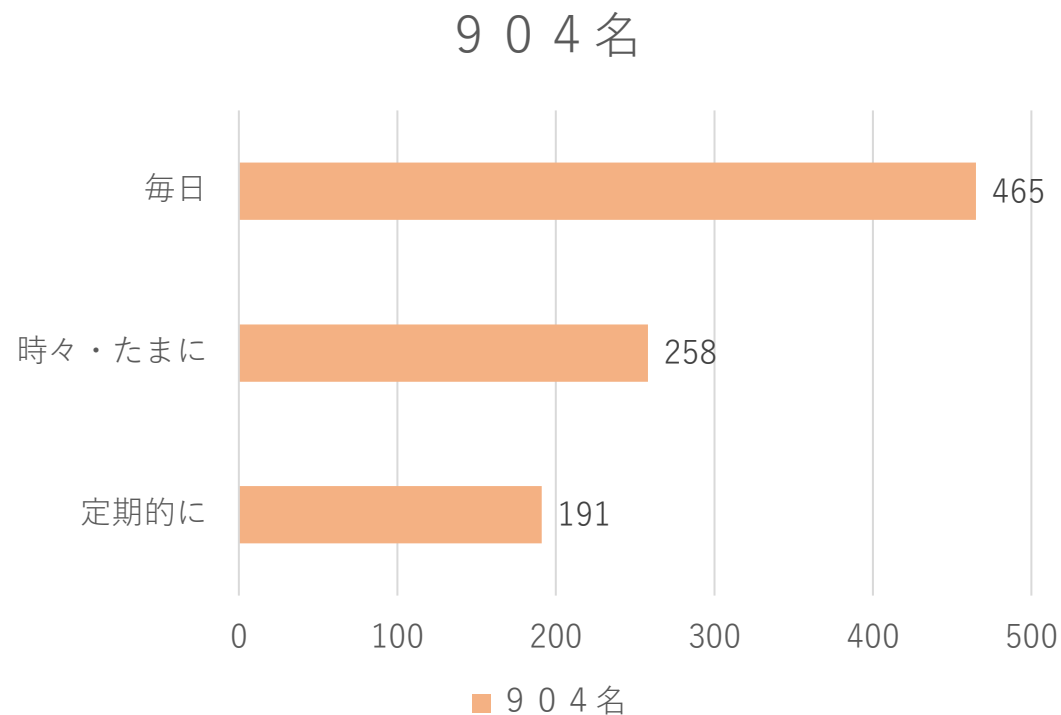
視覚で捉えるものとは別の映像を見る被害

30% 904名/3000名中

映像が見える時の状態は？



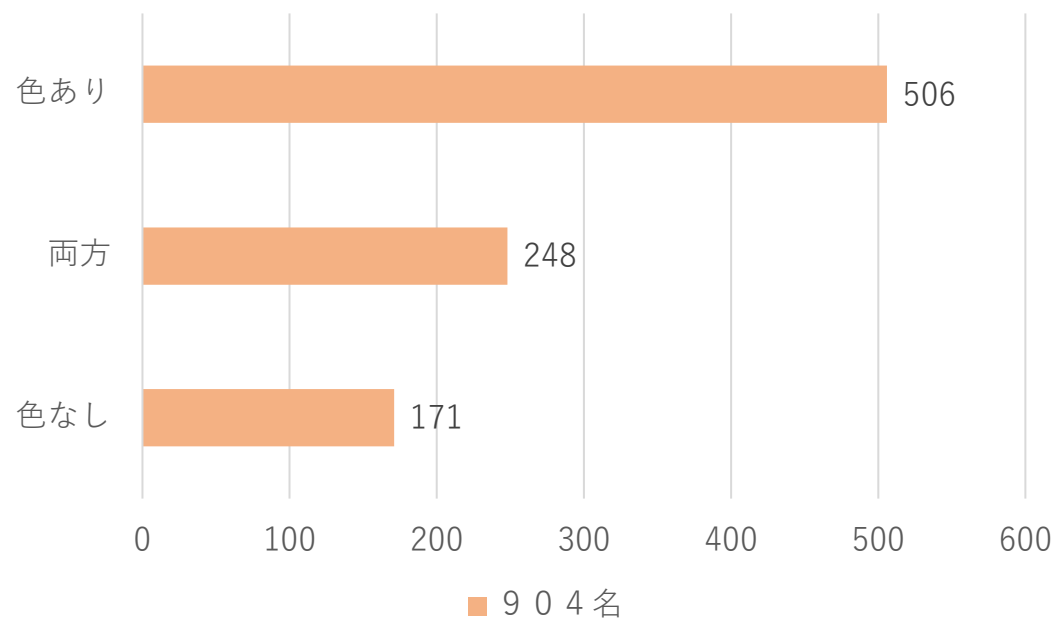
映像が見える頻度は？



視覚で捉えるものとは別の映像を見る被害

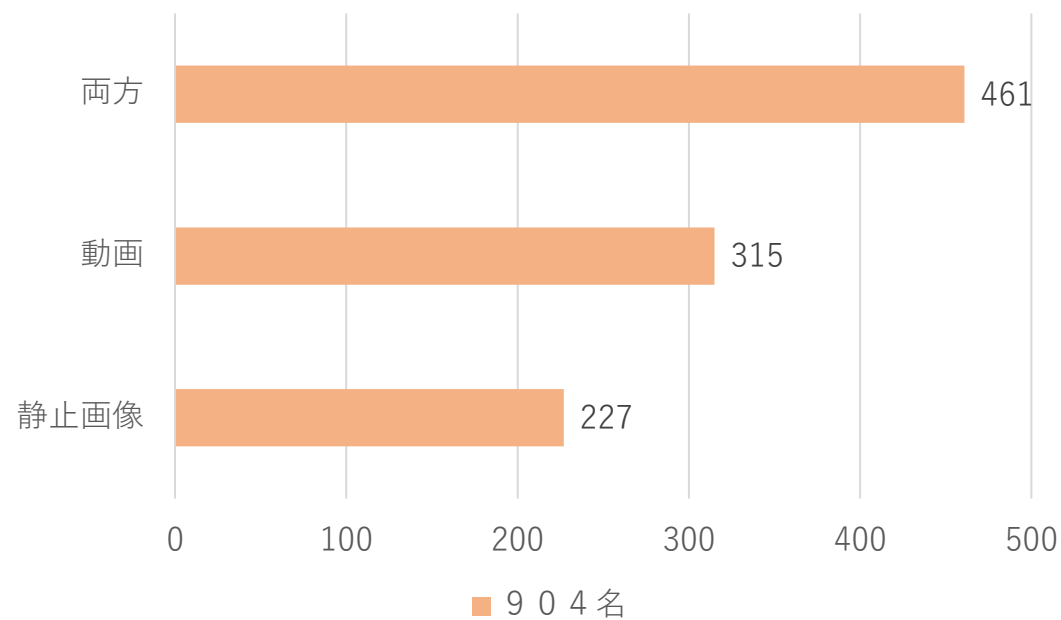
映像に色がついていますか？

904名



映像の内容は？

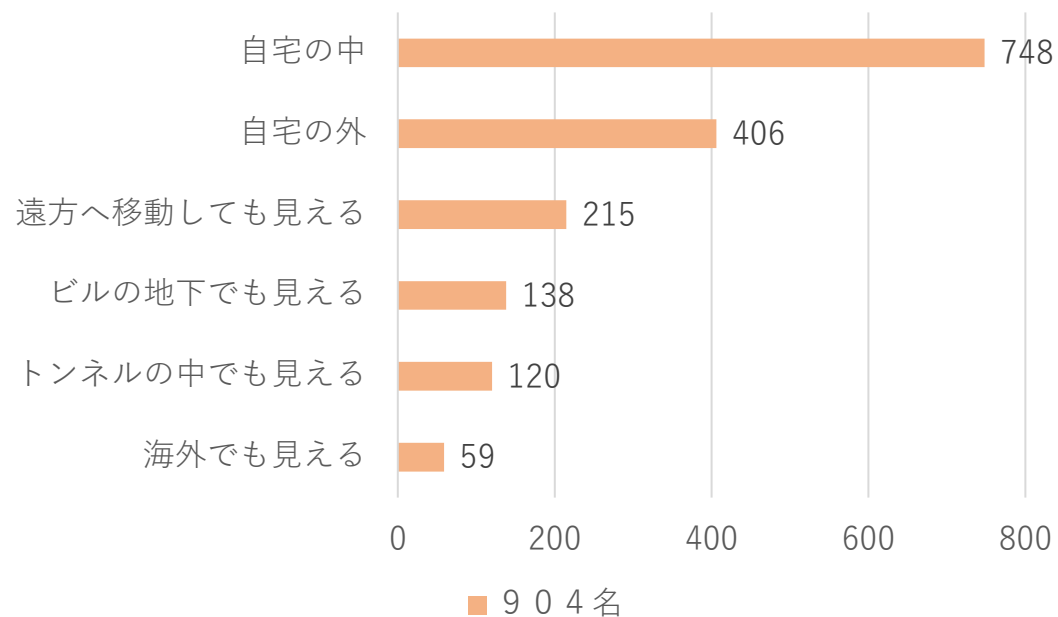
904名



視覚で捉えるものとは別の映像を見る被害

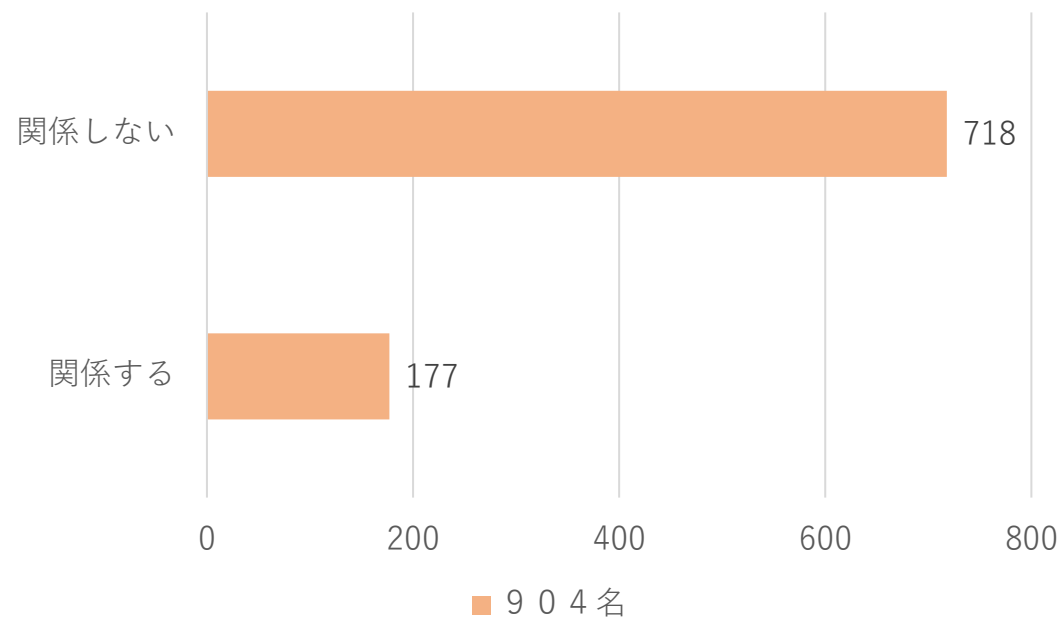
映像の見える場所は？

904名

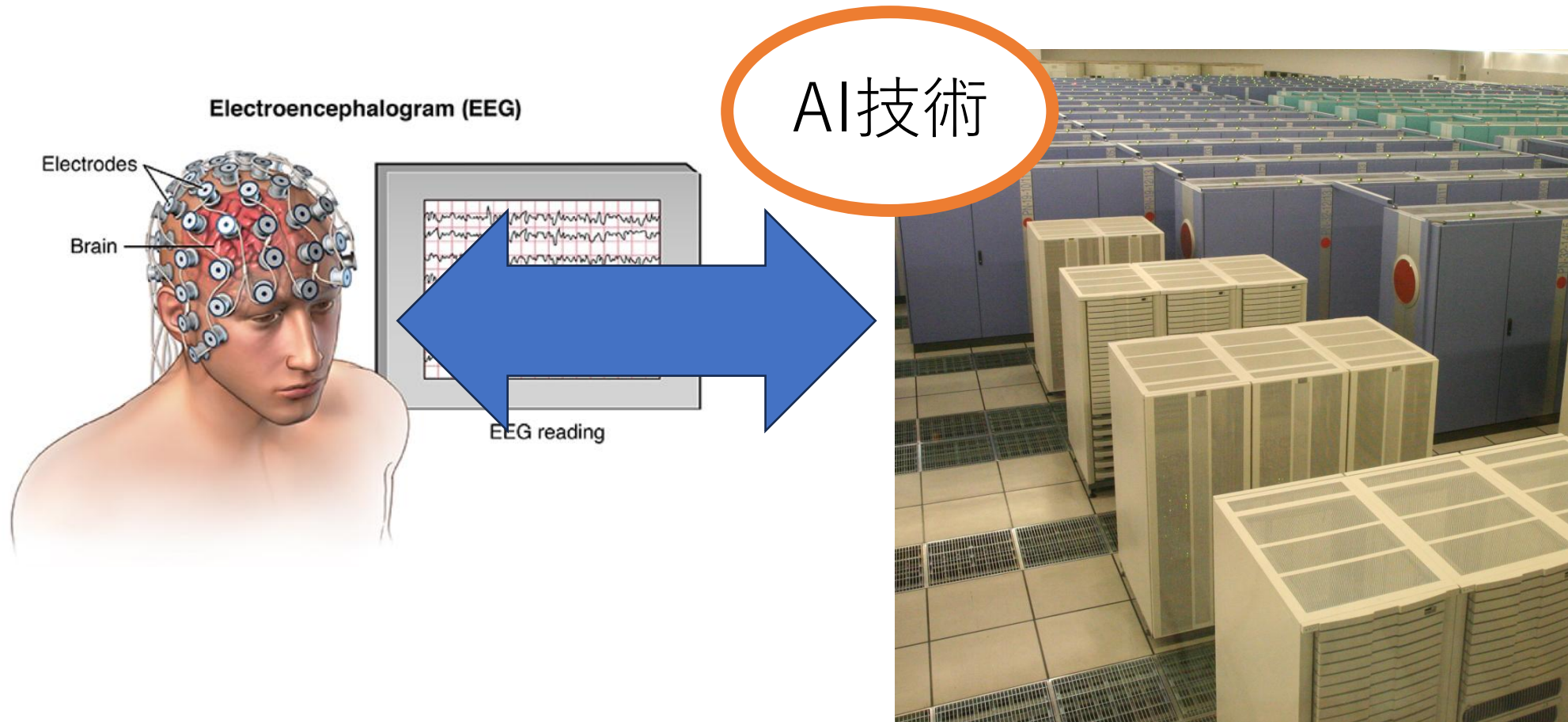


映像と体調との関係は？

904名



BCI技術（脳とコンピュータ接続）



衛星マインド・リーディングは戦略防衛構想の遺産 (Strategic Defense Initiative, SDI構想) 『衛星サベイランスの衝撃的な脅威』より

- **スター・ウォーズ計画は監視技術を飛躍させ、マインド・リーディングや誰かを（部屋の中にいようが）攻撃できるレーザーのようなブラック・バグ・テクノロジーと呼ばれるものを進化させた。**

（ロナルド・レーガン大統領は、1983年3月23日夜の演説で、ソ連の脅威を強調すると共に、「アメリカや同盟国に届く前にミサイルを迎撃」し、「核兵器を時代遅れにする」手段の開発を呼びかけ、翌3月24日開発を命じた）

人工衛星からの音声サブリミナルメッセージによる誘導 『衛星サベイランスの衝撃的な脅威』より

- 一部の衛星には音声サブリミナル・メッセージによる心の操作機能がある。
- それによってターゲットはオペレーターの意のままに操られる。誰も他の誰かによって考え出された言葉とは意識しない。
- ターゲットは猥褻行為を強要され、もしくは周囲にいる人々から侮辱的な言葉を浴びせられるかもしれない。
- 眠っている時、人は攻撃に対し無力な状態にあり、ターゲットはその時、何かをさせられる可能性がある。
- ターゲットは、行動を強要され、ベッドから床に落ち、トランス状態のまま起きあがって1・2分周囲を歩き回るかもしれない。
- 人工衛星によるサブリミナル・コントロールを行う期間の短さは今後克服されるだろう。

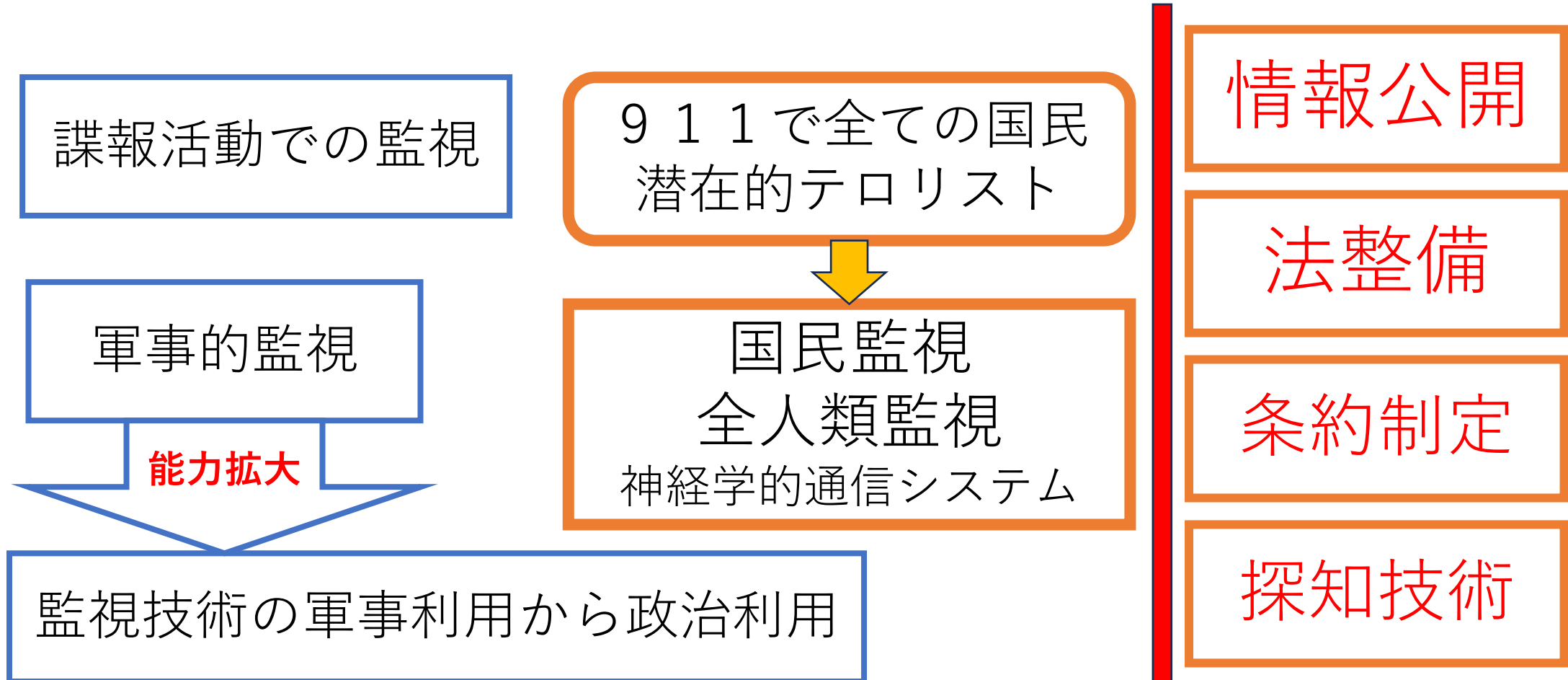
電子監視システムの実態

ラウニ・キルデ著『黒い陰に輝く光』 p 2 3 5



- NSA（米国家安全保障局）の電子監視システムは同時に何百万もの人々を追跡し操ることができる。
- 私たちの脳は、固有の生体電気共鳴周波数を有しており、固有の指紋を各人が持っているのと同じである。
- **米国の宇宙飛行士は宇宙に送られる前、彼らの思考を追跡し感情を24時間記録できるようインプラント実施。**

神経学的通信システム能力拡大により全人類 思考・感情監視へと向かう危険性の提言と課題



高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・テクノロジー

②サイバネティクス技術

③神経学的通信システム

④疾病・拷問状態誘発兵器

⑤ブレインチップインプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵器

⑧高度情報化時代の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密のプログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

④疾病・拷問状態誘発・ (殺人) 兵器悪用への対処

遠隔から、居ながらにして拷問状態におき、疾病を誘発して、抹殺する兵器悪用への対処

テクノロジー犯罪被害（対象人間）

あらゆる面で人権侵害

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

⑧思考操作
(介入・操作)

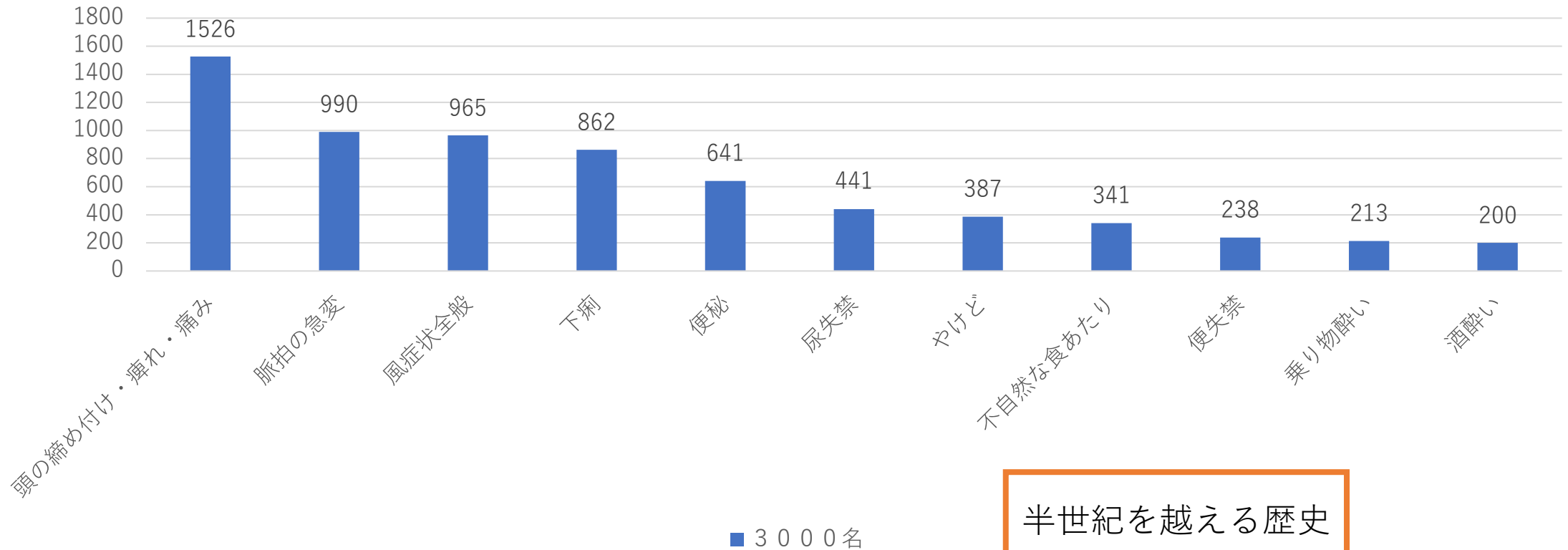
個人操作

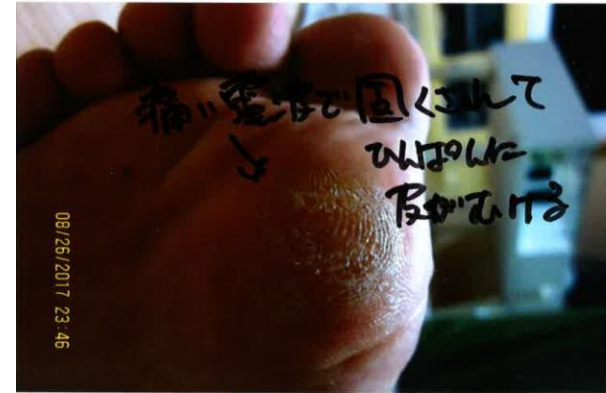
大衆操作

6. 疾病の誘発操作

監視技術（サベイランス・テクノロジー）と一体化した疾病誘発技術

3000名





皮膚疾患





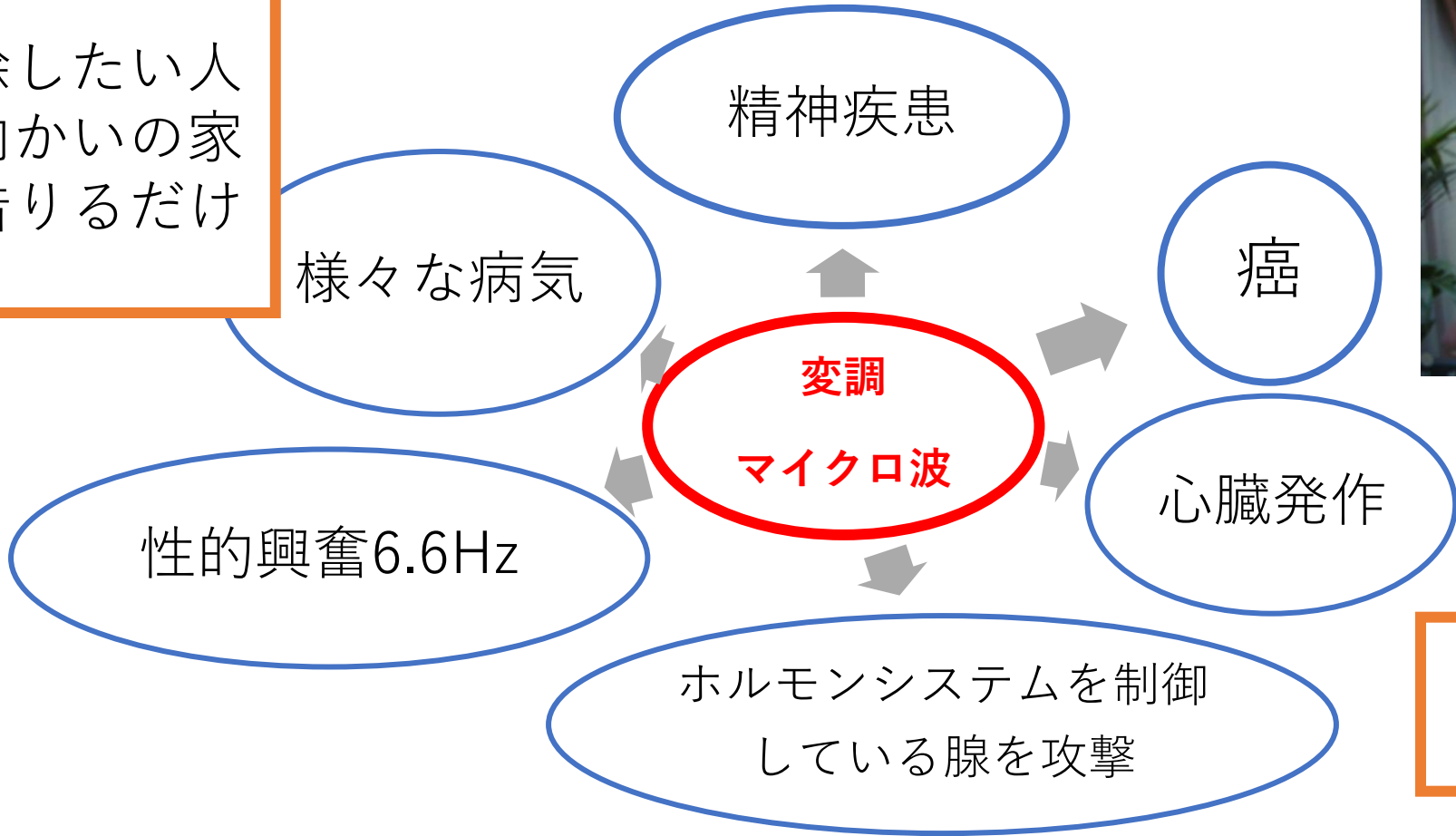




マイクロ波による人体攻撃で誘発できる例

元英国海軍所属・マイクロ波の専門家バリー・トゥロー氏証言

排除したい人の
向かいの家
を借りるだけ



ステルス兵器

諜報活動でのマイクロ波兵器の使用 (20年以上前状態化)

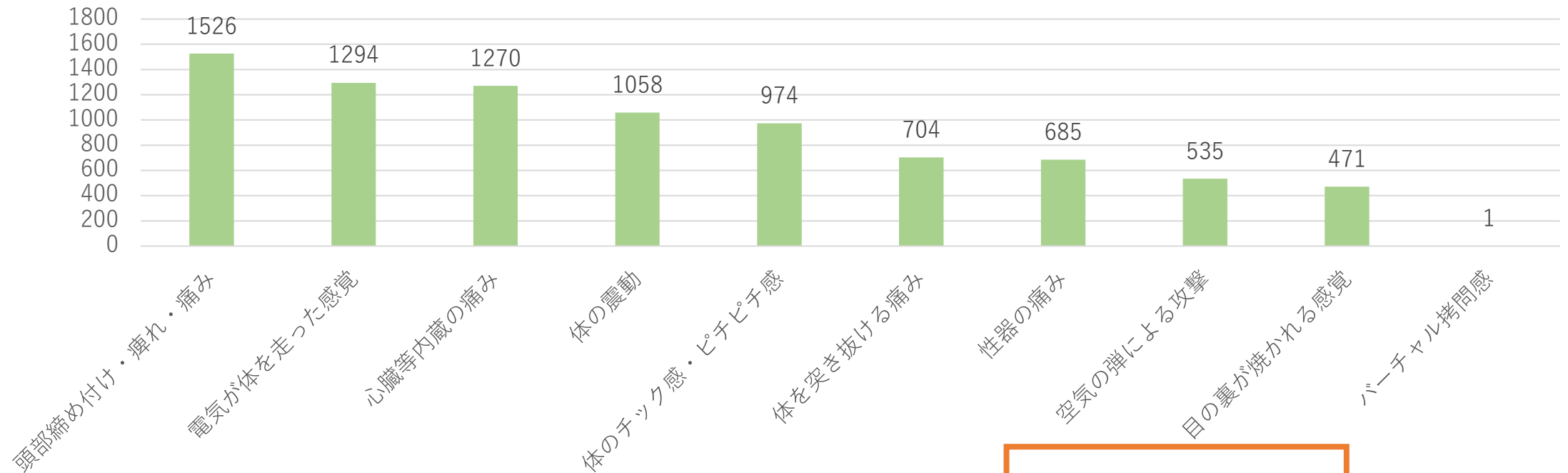
元CIA・イスラエルモサド諜報部員カール・クラーク氏証言



7. 身体攻撃・痛み操作

監視技術（サバイランス・テクノロジー）と一体化した身体攻撃技術

3000名



息苦しさ

■ 3000名

半世紀を越える歴史

『精神疾患の診断・統計マニュアル』 に対するキルデ博士評

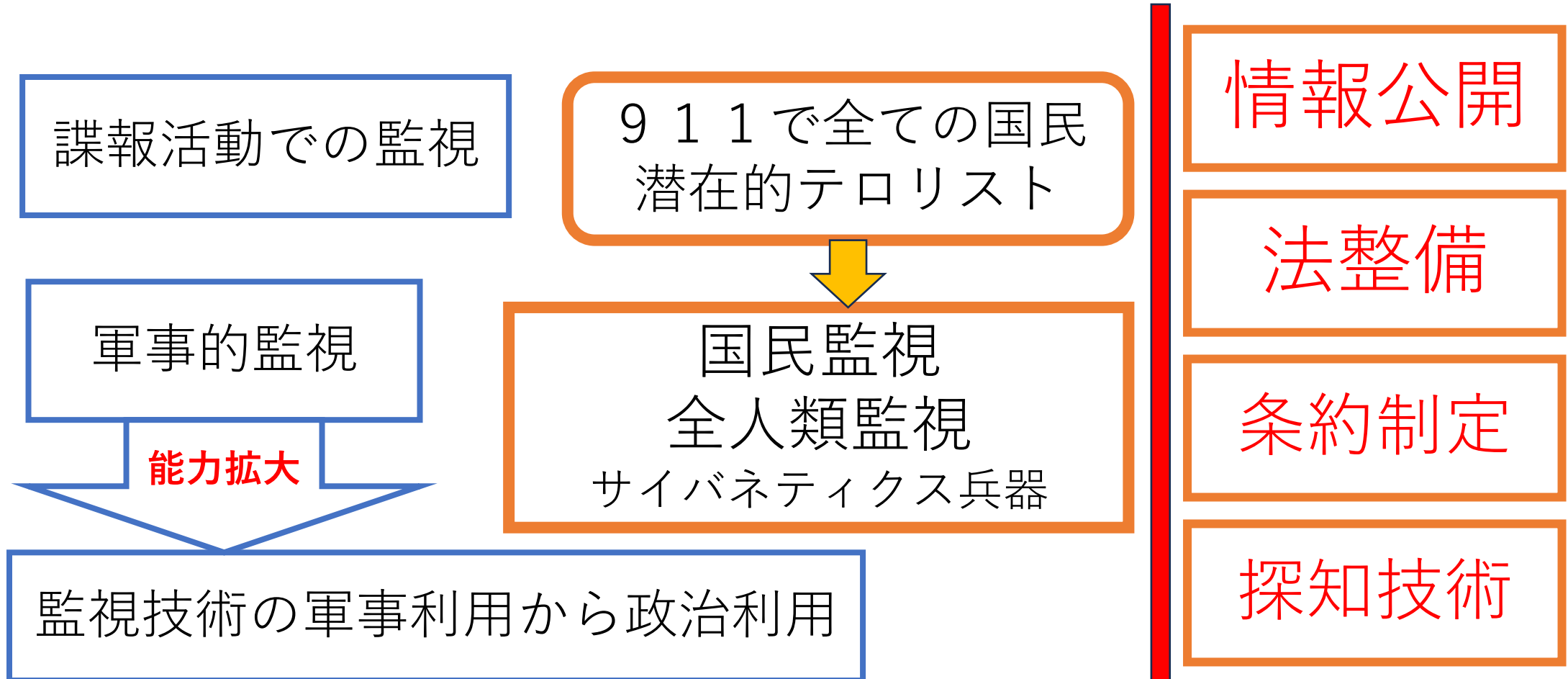


- これまで説明した技術が国家機密のままであり続けている理由の一つは、米国精神医学会が作成し、18カ国語で出版されている「精神疾患の診断・統計マニュアル第4版」が広く受け入れられていることである。
- 米国諜報機関のために働く精神科医は、何の疑いもなくこのマニュアルの執筆と改正に参加していた。この精神科医の「聖典」は、マインドコントロールによる行動に対して、妄想型統合失調症の症状のラベルを貼り付けることでマインドコントロール技術を隠蔽している。

『精神疾患の診断・統計マニュアル』 に対するキルデ博士評

- マインドコントロール実験の被害者は、医科大学で「精神疾患の診断・統計マニュアル」の症状リストを学んだ医師によって、日常的に妄想型統合失調症とほぼ反射的に診断される。
- 自分の意志に反して標的にされているとか、電子的・化学的・細菌学的形式の心理戦争におけるモルモットにされていると患者が訴える場合、医師は、彼らが真実を語っていると判断しないように教えられている。
- **軍事医学**の方向性を変え、人類の自由な未来を確保するために残された時間は少ない。

サイバネティクス技術能力拡大により全人類疾病・拷問状態誘発（殺人）へと向かう危険性の提言と課題



諜報活動での監視

軍事的監視

能力拡大

監視技術の軍事利用から政治利用

9 1 1 で全ての国民
潜在的テロリスト

国民監視
全人類監視
サイバネティクス兵器

情報公開

法整備

条約制定

探知技術

高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・テクノロジー

②サイバネティクス技術

③神経学的通信システム

④疾病・拷問状態誘発兵器

⑤ブレインチップインプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵器

⑧高度情報化時代の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密のプログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

⑤本人の了解を得ないブレイン
チップのインプラントへの対処

(医薬品へのブレインチップ混入) への対処

電子監視システムの実態

ラウニ・キルデ著 『黒い陰に輝く光』 p 2 3 5



- NSA（米国家安全保障局）の電子監視システムは同時に何百万もの人々を追跡し操ることができる。
- 私たちの脳は、固有の生体電気共鳴周波数を有しており、固有の指紋を各人が持っているのと同じである。
- 米国の宇宙飛行士は宇宙に送られる前、彼らの思考を追跡し感情を24時間記録できるようインプラント実施。

脳インプラントと遠隔電子監視システム

『黒い陰に輝く光』 p 233～234

- 現在のマイクロチップは低周波数の電波で作動し、衛星の助けを借りて、インプラントされた人間を地球上のどこにいても追跡できる。このマイクロチップ技術は、イラク戦争（2003年3月20日～2011年12月15日）でテストされた（カール・サンダース博士言紹介）。
- 米国家安全保障局（NSA）の200億ビット/秒のスーパーコンピュータであれば、遠隔的監視システムで戦場の兵士の体験を「見たり聞いたり」できる。
- 地上基地のコンピュータオペレーターは、遠隔的監視システムを使い、電磁波メッセージ（符号化された）を神経系に送り込み被害者の行動に影響を与えることができる。

人工衛星とスーパーコンピューターによる全人類監視
『黒い陰に輝く光』 p 238

- マイクロチップ（もしくは、マイクロチップを使わない最新の技術）と人工衛星を介して、私たちの脳機能を米国やイスラエルのコンピュータに接続する今日のスーパーテクノロジーは、人間性への重大な脅威となっている。
- 最新のスーパーコンピューターは非常に強力で、全世界の人々を監視するのに十分である。

全人類監視能力は備えている！

Senator John Glenn 1997年1月22日
Human research Subject Protection Act 1997



Senator John Glenn News Release

January 25, 1994

Senator
John Glenn

News Release

For Immediate Release:
January 25, 1994

Contacts: Jack Sparks (202) 224-5635
Len Weiss (202) 224-4751

Good morning. Today the Governmental Affairs Committee holds the first in what will likely be a number of hearings into the government's secret radiation experiments. The Committee will also examine the guidelines and laws that are in place governing the use of human subjects in any type of experiment -- not just those with radiation.

To allay fears and restore shaken confidence, there are three areas we must investigate --

First. What actually happened during the human radiation experiments conducted in the past? Apparently these experiments were often conducted without the knowledge or permission of the persons involved.

Secretary O'Leary has already taken major steps to find and release records that will let us know what happened, and what can and should be done about it now. In addition, the President has formed an Interagency Working Group and Advisory Committee to make the same determination across government. I commend them for their efforts.

Second. What human radiation experiments are going on now? And what are the protections for the people involved? Are current laws adequate? Are they being scrupulously followed? How do we know? What kind of monitoring systems are in place? Do we need new laws to fill any existing weaknesses or loopholes?

Third. What kinds of other human experiments -- in areas having nothing to do with radiation are being conducted? And do these experiments have the proper consent of the people involved? A large number of Federal agencies are or were involved in such research. For example: FDA, NIH, CDC, VA, DOD, DOE, CIA, and NASA to name a few.

The same questions we ask about human radiation experiments, past and present, can and should be asked about other research on our own people.

As a result of this hearing, and others to follow if necessary, I hope to be able to assure people in my homestate of Ohio, and those around the country, that their government is no longer conducting experiments unknown to the individual and that may not abide by strict ethical, scientific and legal guidelines.

Over the past two months, we have seen a virtual avalanche of revelations describing secret radiation experiments conducted by the U.S. government on humans -- some unknowing and unwitting.

2

Some of these reports -- to make a gross understatement -- are very disturbing. It is quite upsetting to learn that your own country could carry out such experiments on its citizens, without their knowledge.

All the revelations of the last few months, which include a GAO report I released in mid-December documenting 12 previously unknown deliberate releases of radiation, have created a great deal of confusion. We hope to be able to clear up some of this confusion today.

A crucial issue is how to get the information on these tests out to the public. The people who were used in these experiments should be found and informed of exactly what went on, and if necessary provided with medical treatment. That is the important first step towards making any amends.

However, I would caution against an immediate rush to naming and identifying these people. We must also have an appropriate plan in place to assist them.

But it is also of concern when we hear reports that, due to attention on this issue, there are cases of citizens apparently refusing to accept therapeutic and diagnostic radiation treatments, for fear that they are being used as guinea pigs by the government. Tens of millions of proven, beneficial and safe applications of radiation are given in the U.S. every year. These treatments have been developed by the medical profession and approved by the government. If someone has a question about a particular procedure or treatment, that person should consult with his or her own doctor.

Again, I want to commend both the White House and Department of Energy for their efforts so far in this area. The Administration is starting the task of uncovering the truth, even at the expense of so-called 'government secrets.' In particular, Secretary O'Leary deserves the thanks and support of Congress and the American public for tackling such an explosive issue with compassion and forthrightness.

Having made repeated requests of the past two Administrations over this issue -- requests routinely ignored -- it is quite refreshing to see the administration being open and putting the truth first.

Nevertheless, getting at the truth is going to be difficult. One problem is whether documentation still exists on many of these tests. The Department of Energy's own hotline, set up to receive calls from people who may have been involved in radiation testing, has logged thousands of cases. These thousands of cases must be checked with literally millions of government records. It is truly a monumental task.

3

My office alone has received a large volume of letters and phone calls from people who believe they have been the subjects of radiation experiments. I've also received letters from various "atomic veterans" with information about specific tests or questions regarding their individual cases. I will pass these letters along to the appropriate agencies and ask that they investigate the allegations.

There are also privacy concerns for the records of those people involved in the tests. It would set a very poor precedent for the U.S. government to release privileged medical information on any citizens without their prior consent.

The issue of secret radiation testing also should initiate a review of our current testing guidelines. Obviously, many people in government thought the standards that permitted many of these radiation tests were adequate. 20/20 hindsight gives us a different perspective. Will our current guidelines stand up to that same 20/20 hindsight?

For example, since 1991 all Federal agencies have adopted strict guidelines concerning informed consent and the use of institutional review boards in any experiments involving human subjects. However, the Department of Health and Human Services has also promulgated guidelines concerning certain segments of our population who should have additional protections. These include pregnant mothers and their fetuses, children, and prisoners. While HHS has adopted these guidelines, most other agencies have not. Today we will ask "why not?"

In addition, as I understand it, a rule regarding the use of human subjects who are institutionalized and mentally impaired has not yet made it out of HHS. Again we will ask why this is the case.

I've covered a broad set of questions for the Committee to review, so let me repeat the three areas I outlined at the beginning of the statement.

With respect to the radiation experiments,

1) What happened in the past? What is being done to address this?

2) What types of radiation experiments are going on now?? Are they being conducted properly?

And

3) What other types of human experimentation are being conducted by the government now? Are these experiments being conducted appropriately? How do we know?

ブレイン・プロジェクトについて 元米国上院議員ジョン・グレン（1997年） ラウニ・キルデ博士情報

- ブレイン・プロジェクトは最も非米国的問題である。
- **米国の医薬品はブレイン・チップを含んでおり、それによって人間はスーパーコンピュータと接続され、医療研究、脳実験、行動操作、マインドコントロールが行われている。**
- このプロジェクトはこれまで政治的産物として開発されたもののうち最も非人間的であり、**すべての市民を対象とするよう意図されている。**

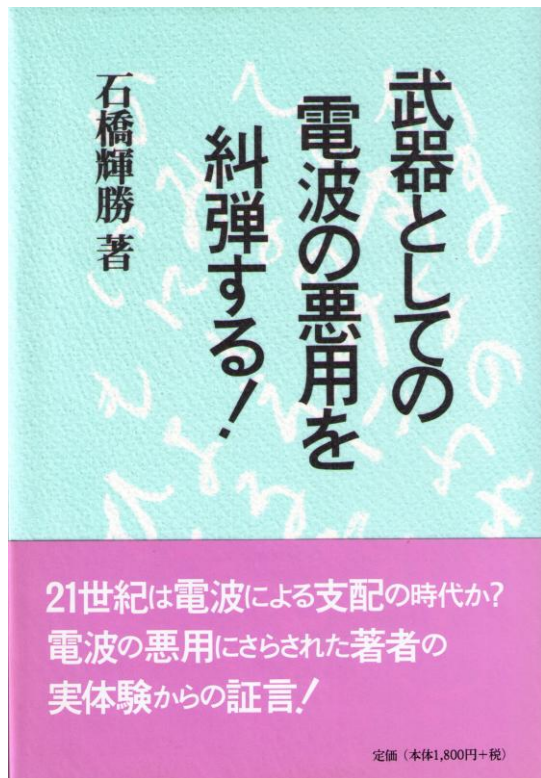
ブレイン・プロジェクトについて 元米国上院議員ジョン・グレン（1997年） ラウニ・キルデ博士情報

- 米国上院議員ジョン・グレンの主導のもと、市民への電磁波照射の危険性についての議論が1997年1月から始まった。
- 人間の脳機能を対象に電磁場や電磁波ビーム（ヘリコプター、航空機、駐車された白いバン、隣接した住宅、電柱、電化製品、携帯電話、テレビ、ラジオなどから照射される）を用いることは、民主的に選出された政府機関で対処すべき電磁波照射問題の一部である。

米国国民に対する戦いが始まっていた！

『武器としての電波の悪用を糾弾する!』出版時の思い 表現する言葉がない!

1997年7月13日



なぜ
あなたが?

無辜の一般市民が対象に?

畜生

鬼

外来

テクノロジー犯罪
嫌がらせ犯罪

悪魔

全人類の敵

人へのし

ノルウェーにおける米軍による人体実験

『黒い陰に輝く光』 p 120~121

- ノルウェーは1950年代以来ずっと、米空軍、米陸軍、米原子力委員会、米海軍海事研究事務所、米航空宇宙局などのアメリカの技術の「試験国」であり続けてきた。特に、脳研究、意識研究、行動研究、ウェットスーツを着用した潜水者の生体観察に関する調査などにおいて。2003年11月に出版された、アメリカ軍事研究所とノルウェー人のショーン・ヤコブセン博士の交流に関する付属資料には、人間に対する非倫理的な医学研究への苦情を取り扱った33のノルウェーの公式文書が存在する。

全人類ブレインチップインプラントと 人体実験対象にする危険性への提言と課題

インフォームドコンセントのないブレインチップインプラントの禁止とそれによる人体実験禁止

特定秘密保護法の対象としない

情報公開

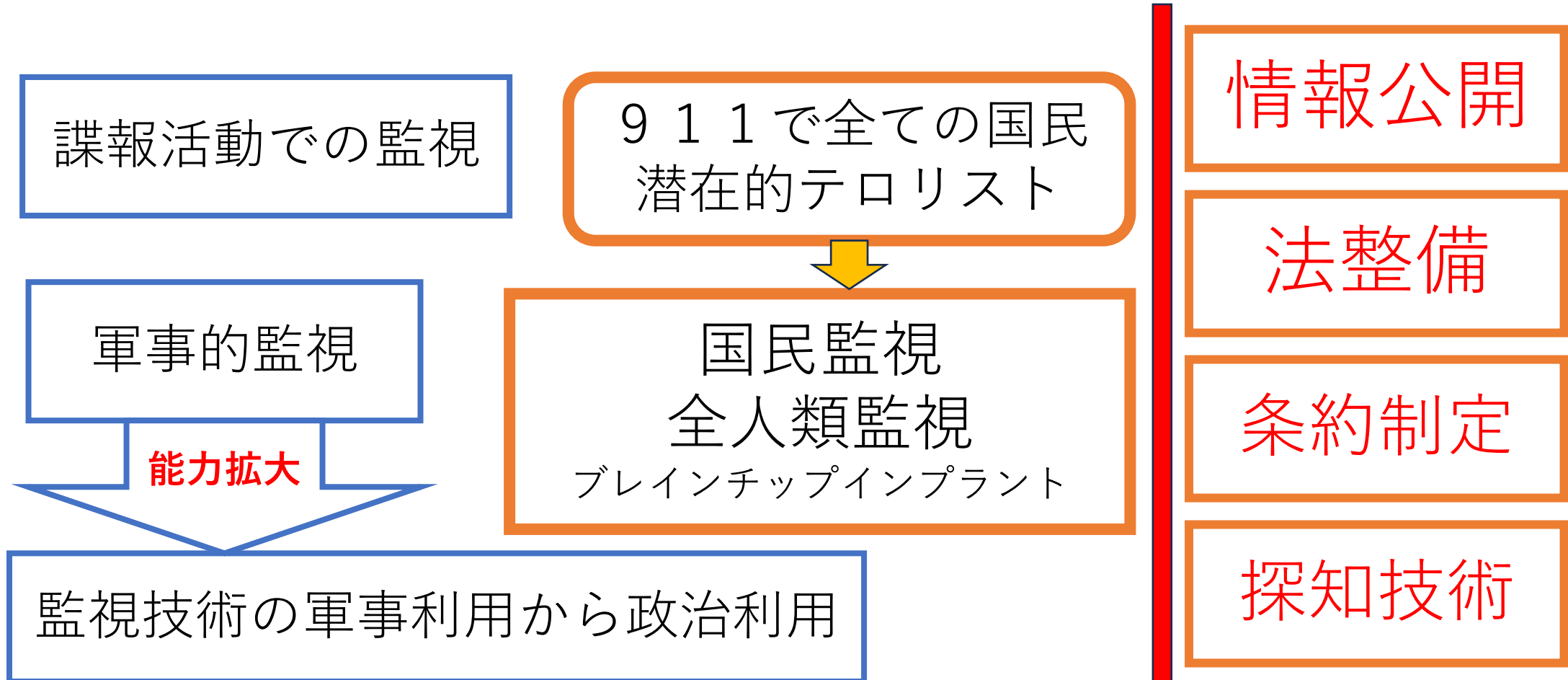
社会的認知

本人の了解を得ない（インフォームドコンセントのない）あらゆるデバイスの人体へのインプラント禁止とそれによる人体実験禁止法・条約制定

新型コロナウイルスワクチンへのブレインチップ混入阻止

ワクチン内・体内のブレインチップ発見技術の開発と万人の利用

全人類ブレインチップインプラントと 人体実験の対象にする危険性への提言と課題



高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・テクノロジー

②サイバネティクス技術

③神経学的通信システム

④疾病・拷問状態誘発兵器

⑤ブレインチップインプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵器

⑧高度情報化時代の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密のプログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

⑥出生から死までの監視と管理 への対処

サベイランス・テクノロジーとサイバネティクス技術を用いた出生から死までの監視と管理への対処

テクノロジー犯罪被害（対象人間）

自分が自分のものでない時代＝主が別にいる

①三欲操作

食欲・性欲・睡眠欲

②生理操作

③五感操作

視覚・聴覚・嗅覚・
味覚・触覚

④感情操作

⑤身体機能の操作

⑥体調・疾病誘発
操作

⑦痛み・拷問感・
重圧感・震動感操作

⑧思考操作
(介入・操作)

個人操作

⑨運命操作

大衆操作

運命操作 = 生涯デザイン (揺りかごから墓場まで)

監視技術 (サベイランス・テクノロジー) と一体化した運命操作技術

確認被害者 3 2 8 7 名
中 4 4 名死亡

4 4 名中
約半数自殺：**自殺誘導**

ご主人に殺された
被害者 2 名

4 4 名中
癌 5 名
くも膜下出血 1 名
脳梗塞 1 名
心臓発作 1 名

癌など疾
病誘発

半世紀を越える歴史

自殺

毎年うつ要因で約 4 0 0 0 名、統合失
調症要因で約 1 0 0 0 名が自殺

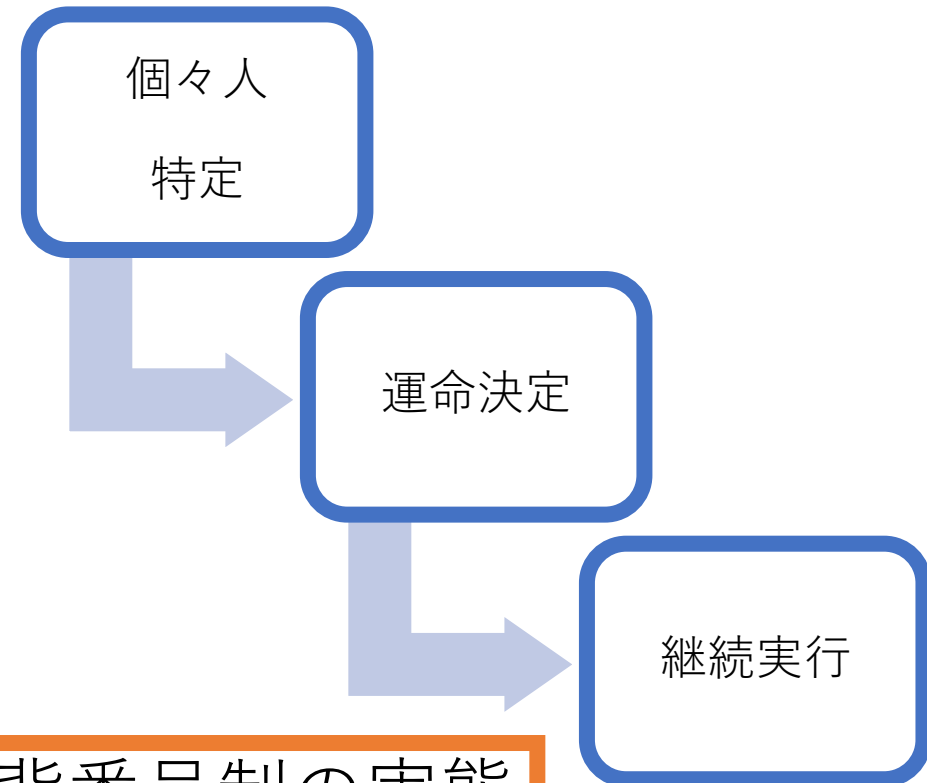
おびただしい数の殺人
(大量虐殺 **Massacre**)
完全犯罪として実行

テクノロジー犯罪による国民総背番号制の実態

運命操作

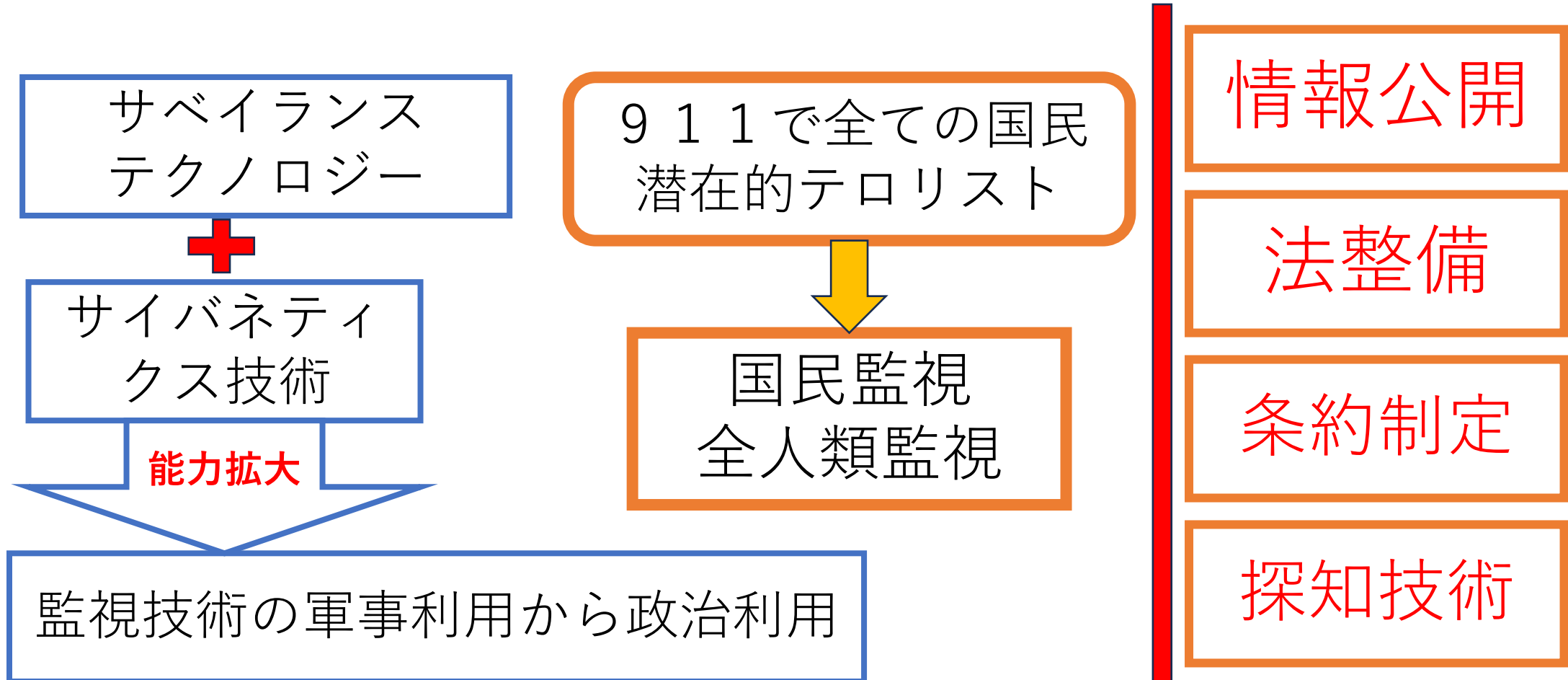


テクノロジー犯罪主体



国民総背番号制の実態

全人類生涯監視・生涯管理へと向かう 危険性への提言と課題



高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・テクノロジー

②サイバネティクス技術

③神経学的通信システム

④疾病・拷問状態誘発兵器

⑤ブレインチップインプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵器

⑧高度情報化時代の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密のプログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

⑦新型大量破壊兵器の認識と悪 用への対処

大量破壊兵器から新型大量破壊兵器

使用で
きない

原爆

・広島
・長崎

水爆

核兵器・目撃できる

C3I+

目撃できない

使用できる

マイクロ波兵器
・サイバネ
ティクス兵器

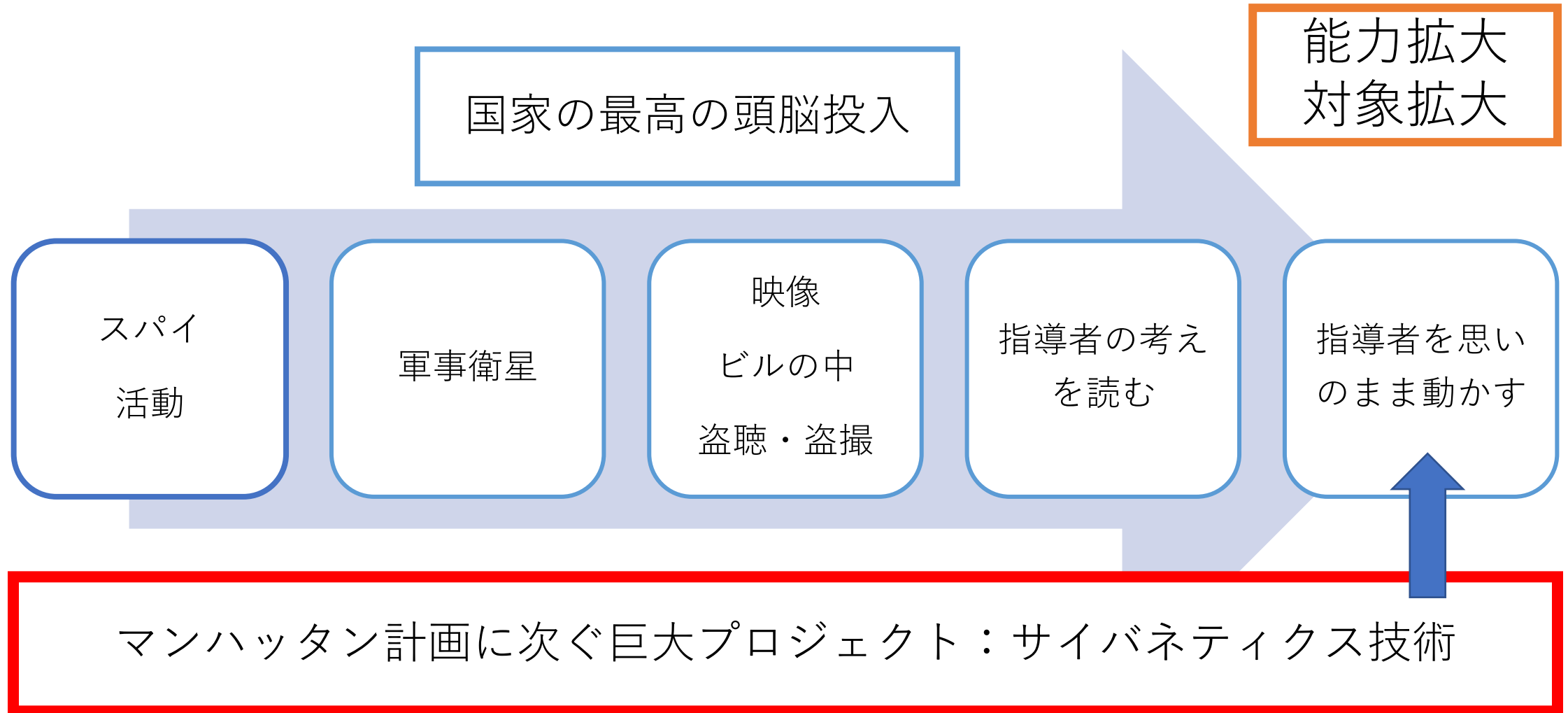
地球物理学兵器

気象変動兵器

生物兵器

・環境改変技術の軍事的使用その他の敵対的使用の禁止に関する条約
1976.12.10起草、1977.5.18署名、1978.10.5発行

軍事テクノロジーで最も重要な情報収集技術



認知に関する第一回NATO科学会議

フランス（ボルドー）2021年6月21日（第16回フォーラム）



COGNITIVE WARFARE

First NATO scientific meeting on Cognitive Warfare
Bordeaux (France) – 21 June 2021

Scientific Editors: B. CLAVERIE, B. PRÉBOT, N. BUCHLER & F. DU CLUZEL.



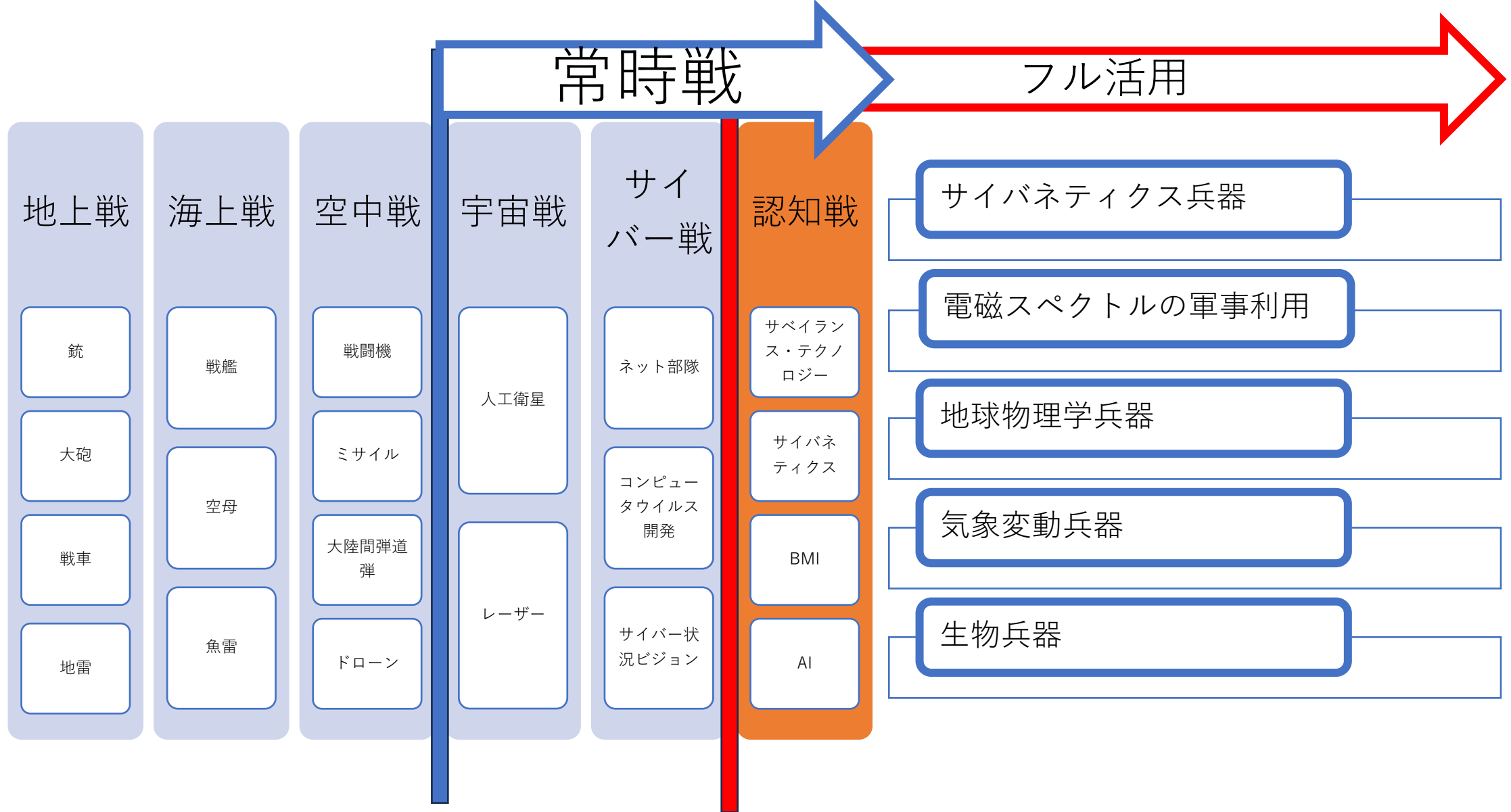
認知戦： 認知優位の将来

認知戦に関する第1回NATO科学会議(フランス) – 2021年6月21日
NATO ACTイノベーションハブおよびENSC主催、フランス軍国防副参謀長、NATO科学技術機構／連携支援局およびヌーベル・アキテーヌ地域圏後援によるシンポジウム

科学編集者

B. Claverie, B. Prébot, N. Buchler and F. Du Cluzel.

6つの戦場『認知戦：認知優位の将来』



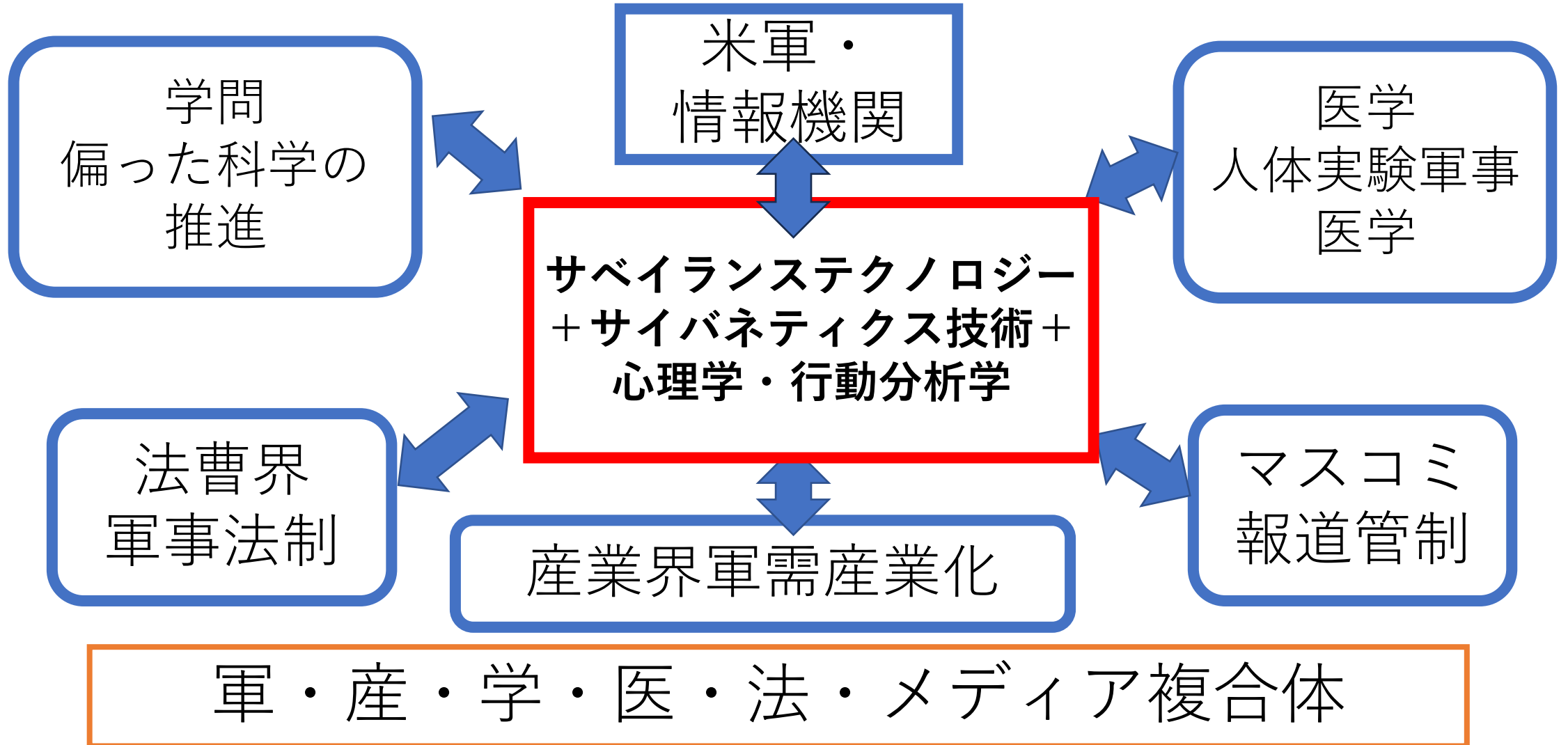
心理学者・行動分析学創設者 B. F スキナー教授 『人間に未来はあるか』 G.R.テイラー著 p168 1968年



- B.F.スキナー教授は、行動まで思うようにコントロールできようとしていると論じてから、「ある他のグループが、我々より巧みに行動をコントロールし、望ましくない道に我々を引ずり込まないうちに、人間の行動をコントロールして我々に望ましい効果をもたらすように努めることは、我々社会の義務である。」

米：軍事政策

ポストマンハッタン計画推進



全ての国家が認めていない技術

絶対秘密！ 守秘義務 ≡ 特定秘密保護法内

人間
操作

動物
操作

植物
操作

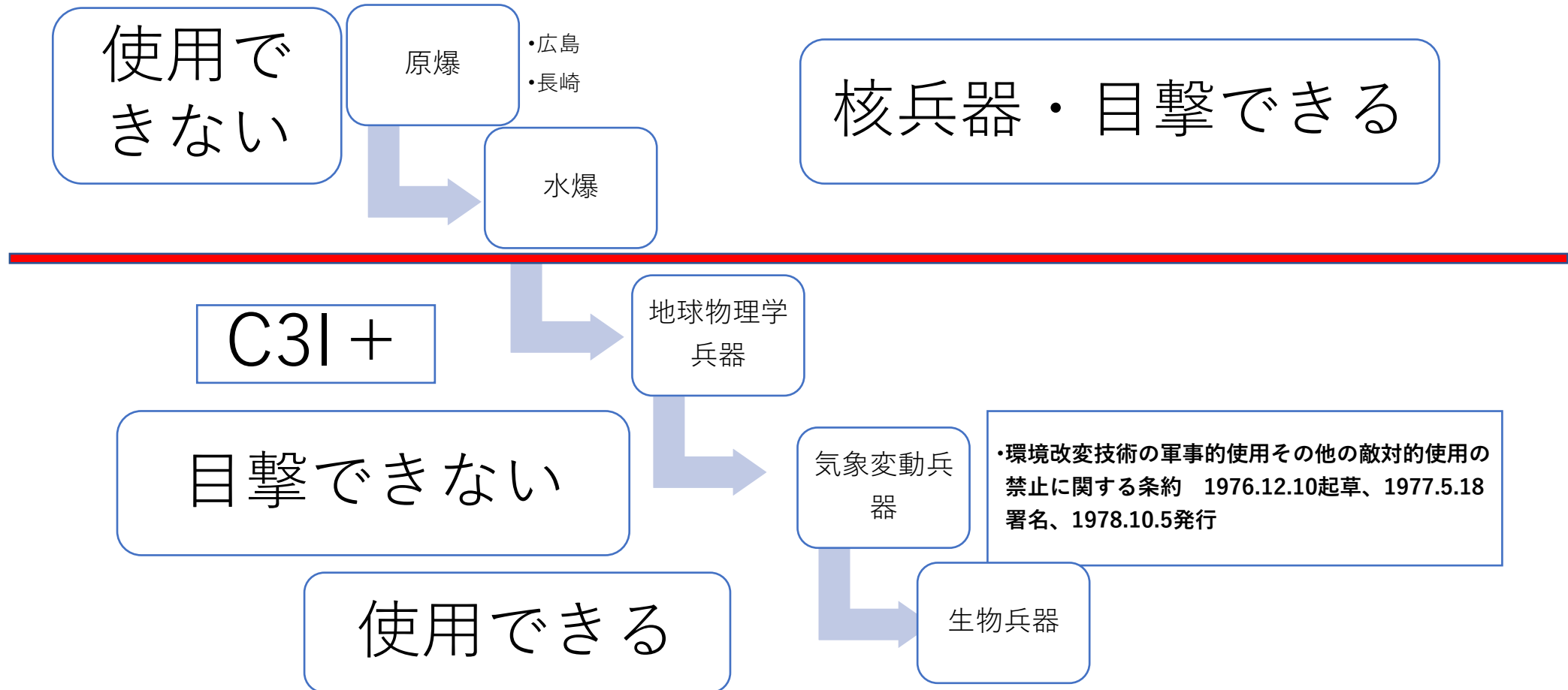
気象
操作

地震
操作

生物
兵器

メソスケール

大量破壊兵器から新型大量破壊兵器



フォースマルチプライヤー（戦力増装置）としての気象： 2025年の気象を掌握 米空軍資料（第16回フォーラム）

ウエザーエンジニアリング

フォースマルチプライヤー（戦力増装置）としての気象：
2025年の気象を掌握



空軍 F2025J 寄稿
研究論文

執筆者

Col Tamzy J. House
Lt Col James B. Near, Jr.
LTC William B. Shields (米)
Maj Ronald J. Celentano
Maj David M. Husband
Maj Ann E. Mercer
Maj James E. Pugh

1996年8月

- 2025年までに、メソスケール（2～2000キロメートル）あるいはミクロスケール（直近ローカルエリア）で気象に影響を及ぼし、表1記載作戦能力を達成ビジョン
- 環境改変技術の軍事的使用その他の敵対的使用の禁止に関する条約
1976.12.10起草、1977.5.18署名、
1978.10.5発行（2013年78か国批准）

フォースマルチプレイヤー（戦力増装置）としての の気象：2025年の気象を掌握（表1. 作戦能力）

敵戦力抑制

- 降雨強化
- 雷雨強化
- 降雨排除
- 宇宙気象：通信・レーダーの妨害、宇宙資産の無効化・破壊
- 霧と雲除去
- 敵の気象活動検知

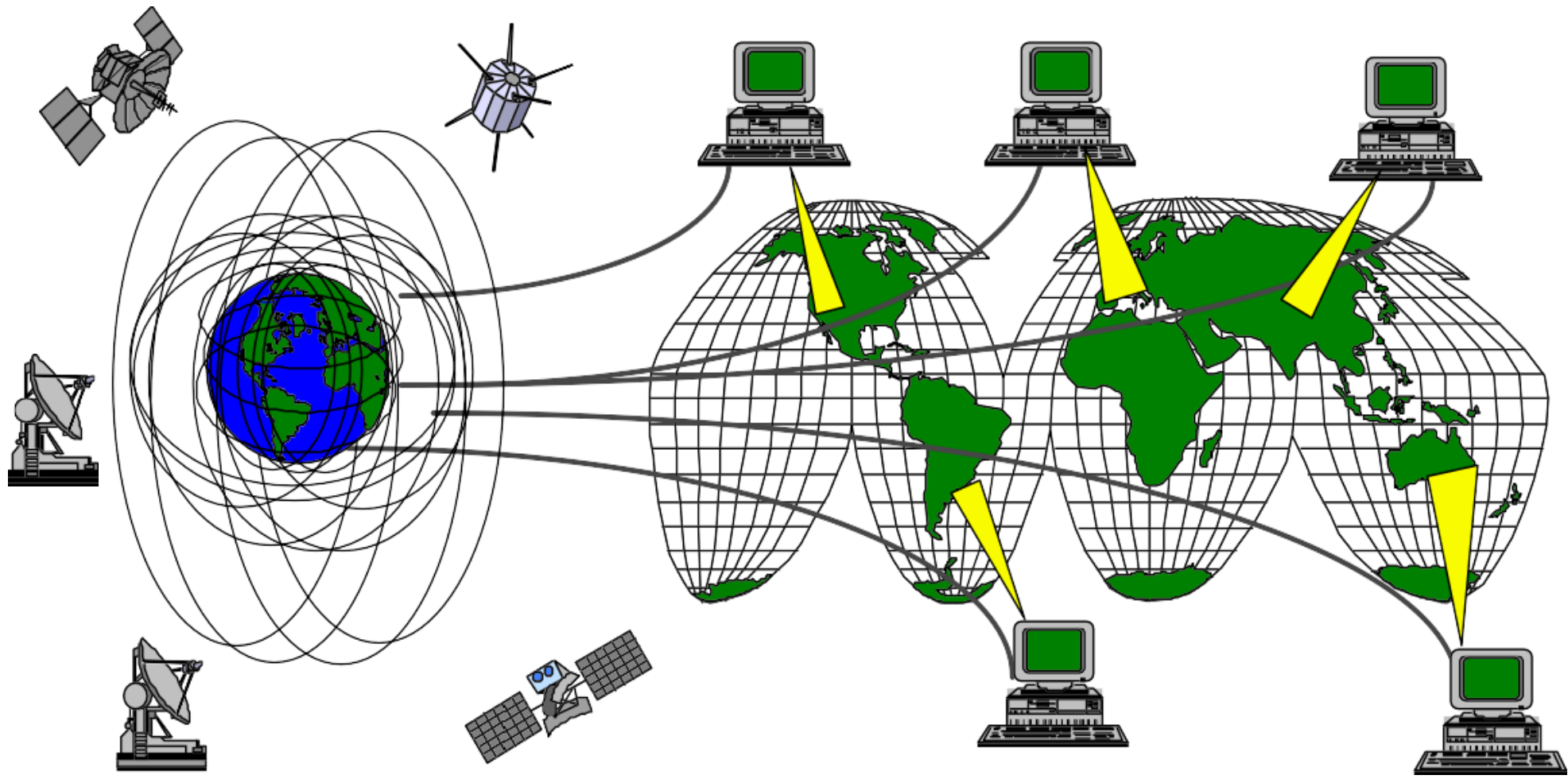
味方戦力強化

- 降雨回避
- 雷雨回避
- 宇宙気象：通信の信頼性の改善、宇宙資産の再生
- 霧と雲生成
- 霧と雲除去
- 敵の能力に対する防御

数兆個のデータポイント観測と 気象予測モデル作成

- 当軍の想定では、2025年までに、気象予測モデル全般、特に中規模気象制御モデルは、可變的要素の要因となる全気象と同要素の相互に関連する力学を模倣できるようになり、経験則に基づくデータよりも精度が高いことを厳密な測定試験で実証できるようになる。これらのモデルの中核は、高度なソフトウェアおよびハードウェア機能になる。これらは**数兆個**の環境データポイントを素早く取り込み、利用可能なデータベースに統合し、このデータを気象予測モデルで処理し、気象情報を準リアルタイムでGWNに拡散することができる。

地上、大気、海洋、宇宙のセンサーと有人観測を採用



出典: Microsoft Clipart Gallery ©1995年、Microsoft社提供。

図3-1世界の気象ネットワーク

カーボンブラック粒子による降雨の発生

William M. Grayその他による研究

- 「カーボンブラック粒子の太陽吸収能力の慎重な利用により、重要な有益的效果が得られる」との仮説が調査された。
- この研究の最終結果として、降雨のメソスケールの強化、巻雲の発生、および乾燥地帯での積乱雲（雷雨）の増大が可能になることが判明した。
- 好天の日中、黒タールの屋根が太陽エネルギーを吸収しやすく、熱を放射しやすいのと同様に、カーボンブラックも太陽エネルギーを容易に吸収する。このカーボンは、広域的な水域に面する大気中に微視的あるいは「ちり」状に分散されると、高温になり、周囲の空気を加熱し、大気下の水域からの蒸発量を増加させる。周囲の空気が加熱されると、空気塊が上昇し、上昇する空気塊に含まれる水蒸気が凝結して雲を形成する。時間が経過し、水蒸気の凝結が増加すると雲粒が拡大し、最後には大きく重くなりすぎて浮遊できなくなり、雨として、あるいは他の形態の降下物として落下する。この研究では、この降雨の強化技術が最も効果を上げるのは、「海風のとぎの海岸線の風上」であることが指摘されている。五大湖の南端沿いの湖水効果雪は、同様の力学に基づく自然現象である。

ケムトレイル（ケミカル・トレイル）

『黒い影に輝く光』 p 154～155

- 軍が行うケムトレイルには、**マイクロ波を吸収するのに使える炭素**など様々な元素が含まれます。ケムトレイル散布物の中には、レーダーが飛行機を感知できなくする金属フレークが含まれています。これらの散布物から、ジェット戦闘機を隠してしまう色彩豊かな磁化プラズマが発生します。非常に色彩豊かな夕日も生じます。人々は、その夕日が非自然的産物で、健康に良くないことも知らずにありがたがります。
- ケムトレイルは飲み水の中にも入り込みます。地球工学者は、1、2億トンものアルミニウムが1年で大気中に放出されていると考えています。まったく馬鹿げたことです。喘息やアルツハイマー型痴ほう症は間違いなく増えています。がん発生率や呼吸器疾患が急激に増加していることは言うまでもありません。

大気中でのナノコンピュータ粒子 クラウド群の利用

- ナノテクノロジーも、シミュレートされた気象を作成する可能性を開く。顕微的なコンピュータ粒子のクラウド、またはクラウド群は、完全な相互伝達を維持し、大型の制御システムを備えており、途轍もない能力を備えている。相互に接続し、大気中に浮揚し、3次元のナビゲーション性能を持つこのようなクラウドは、幅広い特性を備えて構築できる。光学センサーを確実に遮断したり、あるいは調整により他の監視方法の透過を不可能にすることができる。また大気中の電位差のない場所で電位差を生じ、正確に的を絞り正確なタイミングで落雷を発生させることができる。

電離層の軍事利用

- 電離層は、特定のポイントで人工的に帯電させたり、放射線を放射させ、衛星や他の宇宙構造物の近接を防ぐことができる。このような制御により、標的を一時的に無効化したり、爆発の誘発により標的を完全に破壊することが可能になる。このような能力を効果的に適用する場合、当然であるが、宇宙の選択された領域に選択的にその能力を適用することが前提となる。

地球物理学兵器の脅威・米ソ共通認識

プラウダ記事 HAARP、地球規模の脅威に 2003.1.15

- 1970年代末、米国とソビエトはある協定を締結した。この協定に沿って、**軍事利用を目的とした地球物理学分野の科学的開発は禁止された**。また同分野の研究も極秘となった。しかし文書への署名に反して、研究は何らかの形で続けられた。学術調査や二重目的技術の開発を隠れ蓑に、研究は遂行された。

アラスカのHAARP (1980年代末~2005年)



ロシア下院・地球物理学兵器の開発と使用への懸念
世界に表明 2002年9月（プラウダ2003.1.15）

- ロシア下院、HAARP計画の地球的脅威について約一年検討。
- 同下院 2 つの教書を草案：①プーチン大統領向け、② UN、国際組織、各国議会、世界の学术界、およびマスメディア向け。
- **ロシア議会はHAARP実験の地球規模の禁止を提案。**
- 2002年9月、ロシア下院、上記教書を各関係者に送付することを目的に、HAARP問題を討議し、投票を行ない、プーチン大統領宛て教書 188 名の代議員賛成、国連向けの同案件220名が同意。
- 地球物理学兵器の開発と予測される利用に対するロシア議会の高い関心を表している。

記事作成者：ユル・ソロマーチン

ウクライナ国会議員、

経済政策・自然管理・チェルノブイリの悲劇的結末の清算のための委員会委員長

- このような兵器を所有すれば、地球のどの地域においても洪水や竜巻、嵐、地震でさえもプログラムできる。
- 民間や軍の監視システムを麻痺させたり、国民すべての精神に影響を及ぼすことすら可能になる。
- 高周波送信設備はすでに存在する。ノルウェーにも、アラスカの陸軍基地にも存在する。さらに強力な別の高出力送信設備がまもなくグリーンランドで稼働に入る予定である。その場合、地球物理学兵器は大西洋から太平洋沿岸までユーラシア大陸全土を覆い尽くすことになる。

高周波活性オーロラ研究プロジェクト

『黒い陰に輝く光』 p 4 6 7



- 4-0005 / 99、環境、セキュリティ、外交政策の決議。
この決議によりEU（欧州連合）は、**ガコナ（アラスカ）**にあるHAARP（高周波活性オーロラ研究プロジェクト）、**トロムスにある（ノルウェー）**のEISCAT（磁気緯度 66° N、磁気経度 117° E）に設置された世界唯一の3局方式のUHFレーダー）のような広大な無線設備および**ノボシビルスク、クラスノヤルスク、キプロス、グリーンランド**に同様な施設が存在していることに気がついていました。それらは広い地域に対してテクノロジーに影響を及ぼす同じタイプの役割を果たしています。

地球物理学兵器による地震の監視

『黒い影に輝く光』 p 1 1 4 ・ p 1 1 6

- アメリカのHAARPを監視しているロシア宇宙軍(VKS)は、予想通りアメリカがもう一つの地震兵器を試験的に南北アメリカ大陸に対して炸裂させ、南アメリカのチリはマグニチュード8.8の壊滅的な地震に見舞われたことを(2010.2.27)、本日プーチン首相に報告した。P 1 1 4
- 日本での地震後の津波と原子力事故はどうなっているのだろうか。メルトダウンの20分前に、原子炉のコンピューターにスタックネット・ウィルスが放たれた。—————ジョージ・ブッシュとディック・チェイニーは、彼らが主張するところによると中国を牽制する手段として、日本とインドに核武装させたということだ。一方でロシアは、日本の原子力事故、津波、地震が起きている三日間、顕著なHAARP活動を計測したことを明らかにした。P 1 1 6

島津洋一レポート renews news 2020.2.6 COVID19日本人科学者が製造した生物兵器



どこの国でも生物兵器開発
開発と使用は別

- 「2011年9月Journal of Virology掲載論文、マサチューセッツ大学とインド工科大学の研究所でコロナウイルスに埋め込まれたHIVたんぱく質発見。
- **武漢Covがウイルス学者の河岡義弘によってバイオエンジニアリングされた、オリジナルのHIVインフルエンザキメラに基づく生物兵器であること周知の事実。**
- ウィスコンシン大学マディソン校で作成→ウィスコンシンコロナウイルスに改名すべき。

新型大量破壊兵器の存在と 悪用対策の必要性の提言と課題

電離層悪用防止条約制定
電離層悪用探知システムの開発と配備

サイバネティクス兵器、
地球物理学兵器、スー
パートランスミッター
兵器、気象変動兵器、
化学・生物兵器の悪用

特定秘密保護法の対象
としないよう指示

情報公開

社会的認知

サイバネティクス兵器、
地球物理学兵器、スー
パートランスミッター
兵器、気象変動兵器、
化学・生物兵器悪用防
止法・条約

サイバネティクス兵器、地球物理学兵器、スーパートランスミッター兵器、気象変動兵器、化学・生物兵器悪用探知技術の開発と配備

高市総理大臣宛て要望書 13項目要望

2025年12月18日提出

①サベイランス・テクノロジー

②サイバネティクス技術

③神経学的通信システム

④疾病・拷問状態誘発兵器

⑤ブレインチップインプラント

⑥生涯監視と管理

⑦新型大量破壊兵器

⑧高度情報化時代の戦争

⑨嫌がらせ犯罪

⑩FBI・CIA隠密のプログラム

⑪世相演出

⑫スパイ防止法

⑬国家情報局新設

⑧高度情報化時代の戦争の世界的認識醸成への対処

全ての国家が認めていない技術

絶対秘密！ 守秘義務 ≡ 特定秘密保護法内

人間
操作

動物
操作

植物
操作

気象
操作

地震
操作

生物
兵器

メソスケール

6つの戦場

常時戦

フル活用

地上戦

海上戦

空中戦

宇宙戦

サイ
バー戦

認知戦

銃

戦艦

戦闘機

人工衛星

ネット部隊

サベイル
ス・テクノ
ロジー

大砲

空母

ミサイル

コンピュ
ータウイル
ス
開発

サイバネ
ティクス

戦車

魚雷

大陸間弾道
弾

レーザー

サイバー状
況ビジョン

BMI

地雷

ドローン

AI

サイバネティクス兵器

電磁スペクトルの軍事利用

地球物理学兵器

気象変動兵器

生物兵器

高度情報化時代の戦争とは？

The US Army War College季刊誌『Parameters』 「心にファイアーウォールはない」

サイバネティクス技術：人間の脳が電子回路として機能すると捉えた天才的数学者ノーバート・ウィナーが主導

- 「人間の身体は、コンピューターのように無数のデータプロセッサを内蔵している。脳、心臓、末梢神経系の化学・電氣的活性、大脳皮質部から身体の他の部位に送られる信号、聴覚信号を処理する内耳の小さな有毛細胞、視覚的活動を処理する眼球の感光性の網膜と角膜などがこれに相当する。」
- 「今まさに、身体のようなデータプロセッサを操作したり、弱体化させられる時代に足を踏み入れようとしている。」

高度情報化時代の戦争が結果する 絶対専制国家

対象が兵士から一般市民へ

サベイランス・テクノロジーによる国民総生涯監視

サイバネティクス技術による国民総生涯コントロール

地球物理学兵器・気象変動兵器・生物兵器等
新型大量破壊兵器使用

大量破壊・絶対監視・絶対コントロール

テクノロジー犯罪と嫌がらせ犯罪は 軍事行動・諜報活動主導

基本的人権完全否定

高度情報化時代
の戦争遂行
(猛烈な意思)

戦争遂行という表
現を採らないこと
得策

自国民も対象にし
なければならない

正当性は？

世界最大の軍事国家が民主国家を装う

高度情報化時代の戦争（認知戦）

米国：民主国家を装う世界最大の軍事国家
全ての国に宣戦布告のない高度情報化時代の戦争
基本的人権の全否定

ロシア

中国

その他すべての国

米国民

全人類高度情報化時代の戦争の実態認識 の醸成の必要性の提言と課題 **(ざる防衛大綱の改定)**

電離層悪用防止条約制定
電離層悪用探知システムの開発と配備

サイバネティクス兵器、
地球物理学兵器、スー
パートランスミッター
兵器、気象変動兵器、
化学・生物兵器の悪用

特定秘密保護法の対象
としないよう指示

情報公開

社会的認知

サイバネティクス兵器、
地球物理学兵器、スー
パートランスミッター
兵器、気象変動兵器、
化学・生物兵器悪用防
止法・条約

サイバネティクス兵器、地球物理学兵器、スーパートランスミッター兵器、気象変動兵器、化学・生物兵器悪用探知技術の開発と配備

テクノロジー犯罪主体・嫌がらせ犯罪主体
ポストマンハッタン計画推進

絶対守秘義務 = 侵すべからざる存在

米国民含め全人類
その傘下で一生涯生活

高度情報化時代の戦争の世界的認識醸成と それへの対処の必要性の提言と課題

